



# 第15回日本の次世代リーダー養成塾 報告書

開催日程 2018年7月26日～8月8日



# Index

## Contents

	Page
1. 第15回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	9
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	18
7. 塾を支えるスタッフについて	30
8. カリキュラムについて	40
9. 参画道県・市の声	54
10. 15周年記念祝賀会について	58

### 【資料】

① 塾期間中の塾生アンケート調査結果	59
② 卒塾後の塾生・保護者・学校アンケート調査結果	63
③ 塾生概要	72
④ 塾生高校一覧	73
⑤ アジア奨学生概要	74
⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿	75

(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

## 1. 第15回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

2018年は、記念すべき15回目を終え卒業生は2617人となり、10月28日には、15周年記念祝賀会を東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催することができました。祝賀会には、理事、協賛企業、企画委員、地方自治体や卒業生ら関係者250人余りにご参加いただきました。ここまで来られましたのも皆さまのお蔭です。ここに厚くお礼を申し上げます。

卒業生実行委員会によるパネルディスカッションでは、社会人となった卒業生たちが自分の経験を大学生や高校生の後輩たちに話しました。社会人としてのやりがいや苦勞、将来の夢などにも及び、頼もしいと思いました。層ができるということは素晴らしいことです。継続は力なりと思った瞬間でした。

平成の時代は、科学技術の進歩も手伝って、次世代にとって様々な機会が増えたのではないのでしょうか。志をきちんと高く持ち、それに伴う知識があれば、様々な就業のチャンスが日本だけでなく、世界を舞台に用意されています。国内の企業はグローバル化していますし、起業もできる。団体も立ち上げられる。可能性は無限大に広がっています。そのきっかけ作りのお手伝いをするのがリーダー塾です。

2018年5月10日にマレーシアのマハティール氏が首相に返り咲いて、リーダー塾に首相としていらしたことは最も嬉しい出来事でした。戦後70年にあたる2015年のリーダー塾で塾生たちが戦争をいかになくすかという青臭い議論を聞いたマハティール氏が「理想主義は時として実現はしないが、その想いだけは忘れないでほしい。今、世界を牛耳っているのは腐った老人たちだ」と、90歳の自分を奮い立たせて帰国して、汚職にまみれた前首相打倒の国民キャンペーンを始めて、野党を立ち上げて、野党連合を組織して、とうとう建国以来の政権交代を果たしました。

3年近い野党時代は本当に大変でした。22年も務めた首相にこんな嫌がらせをするのかというくらい様々な妨害工作に遭いました。しかし、けっしてブレることなく、正義は勝つと闘い続けました。5月10日、前政権が作った約28兆円もの対外債務という負の遺産の課題を抱えて首相に就任して、100日で道筋をつけると国民に約束しました。ちょうどその時期がリーダー塾の開催日の直後であったため、到底いらしていただけないと思いましたが、「苦しい時も支えてくれたのはリーダー塾」、「次世代の若者には伝えたいことがある」と教育大臣まで連れて来られました。そして、帰国後、閣議でリーダー塾での高校生の活発な議論を紹介して、マレーシアでもリーダー塾を開塾することを決め、予算化がされました。ようやく高校生対象の日本型リーダー育成の教育が海外に進出することになりそうです。やがて、東南アジアの他の諸国に広がり、ネットワークができるのが夢です。

2020年、日本の大学受験が変わります。共通テストでは、選択式の問題に加えて、記述式の問題が増えます。そして、大学独自の試験では、面接やグループディスカッションを導入する大学も増え、何を高校時代にしてきたかが問われます。リーダー塾では、仲間たちと答えのない課題に対して、徹底的に考え抜くことが求められます。2018年の「アジア・ハイスクール・サミット」では、未来に起こりうる課題を解決するためにどうしたらいいのかを、高校生が福岡県宗像市の小学生に分かりやすく授業をするという形式で挑戦しました。あるクラスでは、難民を受け入れるとはどういうことかを、椅子取りゲームをして席がなくなった時にどういう気持ちになるのか、また日本では何人の難民を受け入れているのかなどをトルコやパキスタンの難民受け入れ人数と比較しながら説明していました。小学生の表情を見ながら理解しているかを判断し、分からなければ別の言い方に変えることの難しさを学んだようです。

試行錯誤を続けながらいかに高校生をワクワクドキドキさせることができるか。私たち事務局をはじめとしたリーダー塾に関わる大人たちは毎年、挑戦の連続です。常に進化し続けるリーダー塾、次は20回を目指して、頑張っていこうと思います。どうぞ今後ともご指導のほど、よろしく願い申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 加藤暁子

## Day 1



## Day 2



## Day 3



## Day 4



## Day 5



## Day 6



## Day 7



## Day 8



## Day 9



## Day 10



## Day 11



## Day 12



## Day 13



## Day 14



## 2. 主催者からのメッセージ

塾長 中西 宏明（一般社団法人日本経済団体連合会会長）

この数年で世界情勢は大きく変化しました。各国のパワーバランスの変化により旧来の国際秩序がゆらぎ、反グローバリズムやポピュリズムの台頭といった新たな時代に直面しています。一方、テクノロジーの分野ではAIなどを駆使したデジタル化による新たな産業革命（第4次産業革命）が、産業・医療・交通など社会のあらゆる分野で進行中です。社会課題の解決と経済的な発展を両立する「Society 5.0」という全く新しい社会が到来しつつあります。



今、私たちがやらなければいけないことは、多様性を受容できる、豊かで活力ある日本をつくりあげることです。国際協調を大切にしつつ、「モノからコト」「所有から利用」に代表される社会の変化の中で、新たな価値を創造しなくてはならないのです。そのためには多くのイノベーションが必要であり、若い世代の新しい発想と推進力を必要としています。皆さんには、文系・理系といった区分けをしないで、人とのコミュニケーションを大切にしてグローバルな視点でよく学び、新たな社会の実現に貢献していただきたいと思っております。

本塾では、仲間たちと切磋琢磨し、視野を広げ、様々な課題に真正面から取り組むことで、お互いの立場や考え方の違いに気づき、それを乗り越える知恵を養ってください。また、お互いのアイデンティティーを尊重しつつ、いつでも誰でもリーダーに成り得ることを学び、実践してほしいと思っております。本塾での経験が、皆さんの未来を切り拓く力になることを期待しています。

### 「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2018年7月13日現在、五十音順）

塾長	中西 宏明	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原 英資	/	青山学院大学特別招聘教授
筆頭理事	小川 洋	/	福岡県知事
理事	浅野 史郎	/	神奈川大学特別招聘教授
理事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・学校法人福岡工業大学最高顧問
理事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社相談役
理事	伊豆 美沙子	/	福岡宗像市長
理事	川勝 平太	/	静岡県知事
理事	小島 順彦	/	三菱商事株式会社相談役
理事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社特別顧問
理事	高橋 はるみ	/	北海道知事
理事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび代表取締役会長 CEO・創業者 株式会社NK B取締役会長 創業者
理事	達増 拓也	/	岩手県知事
理事	張 富士夫	/	トヨタ自動車株式会社相談役
理事	中村 時広	/	愛媛県知事
理事	仁坂 吉伸	/	和歌山県知事
理事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理事	古田 肇	/	岐阜県知事
理事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理事	三村 申吾	/	青森県知事
理事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		
監事	遠藤 泰昭	/	九州電力株式会社上席執行役員

### 3. 開催概要

#### 1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：中西宏明／一般社団法人日本経済団体連合会会長

#### 2 開催日程

2018年7月26日（木）～8月8日（水）

#### 3 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留46-1）

波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1）

※自然の家は7月28日（土）～7月31日（火）の3泊4日で宿泊

#### 4 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 184名

内 訳	参画県推薦枠 （北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）	112名
	全国からの一般公募枠	61名
	アジア奨学生	11名 [非公募]

#### 5 カリキュラム概要

##### ① 各界を代表する講師陣による講義

###### ● 教養系（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）

日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。

###### ● ビジネス系（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）

世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。

###### ● 国際系（国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）

世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。

###### ● 人間学（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）

人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

##### ② 講義後のディスカッション

講義終了後にクラス担任の指導のもと、1クラス約25名によるグループディスカッションを行います。クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員が務めます。

##### ③ プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」

日本人とアジア各国の高校生が、2週間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「アジア・ハイスクール・サミット」を開催します。

##### ④ フィールドトリップ

福岡県では昨年世界遺産に登録された宗像大社を見学します。佐賀県では佐賀県立名護屋城博物館にて当時の貴重な資料や遺産を見学し、日本列島と朝鮮半島間の歴史を学びます。また、明治維新150年事業である肥前さが幕末維新博覧会のメインパビリオンである幕末維新記念館にて幕末維新期の佐賀の偉業や偉人などを勉強します。

## 4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講師 27 名（敬称略、講義順）

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
7/26 (木)	さかきばら えいすけ <b>榊原 英資</b> 青山学院大学特別招聘教授 「求められるリーダーの条件」	9 ページ
7/27 (金)	かとう あきこ <b>加藤 暁子</b> 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人 A F S 日本協会理事長 「激動の時代を生き抜き、未来を描くリーダーとは」	9 ページ
	あかし やすし <b>明石 康</b> 元国連事務次長、公益財団法人国際文化会館理事長 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”	9 ページ
7/28 (土)	あしづ たかゆき <b>葦津 敬之</b> 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組み」	10 ページ
7/29 (日)	まつお のりひろ <b>松尾 法博</b> 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長 「佐賀県立名護屋城博物館 25 年の歩み～日本列島と朝鮮半島との交流の歴史」	10 ページ
	り ほんう <b>李 鳳宇</b> 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、立命館大学映像学部客員教授 「映画で世界をみよう」	10 ページ
7/30 (月)	かさや かずひこ <b>笠谷 和比古</b> 大阪学院大学法学部教授 「幕末日本の国際条約と国際環境」	11 ページ
	ちん じゅかん <b>沈 壽官</b> 薩摩焼十五代 「伝統を守り現代を表現する」	11 ページ
7/31 (火)	やまくち よしのり <b>山口 祥義</b> 佐賀県知事 「偉人たちの志を受け継ぎ、未来につなぐ」	11 ページ
8/1 (水)	なかむら としろう <b>中村 俊郎</b> 中村ブレイス株式会社代表取締役会長 「義肢装具作りの半生『新たなアスリートの出会い』」	12 ページ
	かまた みのる <b>鎌田 實</b> 諏訪中央病院名誉院長 「生きているってすばらしい～命・平和・絆を考える～」	12 ページ
8/2 (木)	でぐち はるあき <b>出口 治明</b> 立命館アジア太平洋大学長、学校法人立命館副総長・理事 「これからのリーダーに必要な思考力」	12 ページ
	こてがわ きょうじ <b>小手川 強二</b> フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長 「発酵食品の魅力」	13 ページ

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
8/2 (木)	むろふし きみこ 室伏 きみ子 お茶の水女子大学長 「『研究者』という職業選択～人々が心身ともに健康で暮らせる社会の実現を目指して」	13 ページ
8/3 (金)	かみがたらくごぶくおかけんじんたい 上方落語福岡県人隊 (四代目桂梅園治、桂よね吉、笑福亭風喬、笑福亭呂好) 「落語を学ぼう！」	13 ページ
	あそう わたる 麻生 渡 元全国知事会会長、学校法人福岡工業大学最高顧問 「君は人生100才時代をどう生きるのか」	14 ページ
	しんじょう あつし 神成 淳司 慶應義塾大学環境情報学部教授、 内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室長代理/副政府CIO 「持続可能な社会システムの構築を目指して(農業、介護を事例に)」	14 ページ
8/4 (土)	たき ひさお 滝 久雄 株式会社ぐるなび代表取締役会長 CEO・創業者、株式会社NKB取締役会長 創業者 「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」	14 ページ
	かわかつ へいた 川勝 平太 静岡県知事 「海洋アジア—近代文明の母胎—」	15 ページ
8/5 (日)	むとう もりお 武藤 杜夫 日本こどもみらい支援機構代表、元法務省沖縄少年院法務教官 「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」	15 ページ
8/6 (月)	おがわ ひろし 小川 洋 福岡県知事 「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」	15 ページ
	こくぶん りょうせい 國分 良成 防衛大学校長 「東アジア情勢をどう見るか—中国・北朝鮮を中心に—」	16 ページ
8/7 (火)	みやがわ まきお 宮川 眞喜雄 在マレーシア日本国大使 「指導者に相応しい人、相応しくない人。日本のために、アジアのために」	16 ページ
	マハティール・モハマド マレーシア首相 「アジアの次世代リーダーはいかに未来地図を描くことができるか —93歳から10代へのメッセージ」 “How future leaders in Asia can create future map for next generation -message from 93 years old to the teenager”	16 ページ



## 5. 講義概要

日本のみならず世界で活躍する講師陣にご講義いただいた。また、交流会では卒業生3名をゲストスピーカーとして招いた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。

(講義順)



榊原 英資 先生 青山学院大学特別招聘教授

### 「求められるリーダーの条件」

リーダーになるためにはどういう要件を満たさなければならないのか。一つは多様性を認めること。人々の特性を理解し、的確に使う能力が必要だ。日本人は非常に同質的であり多様性を認める能力に欠ける。それを自覚することも重要である。もう一つは決断ができるということ。そして失敗した時に間違いを認め、原因を分析し、次に繋げる姿勢が大事である。また、時代を見極める能力を持つこと部下からの信頼を得ること、精神面では強くあると同時に、思いやりを持つ必要がある。また、歴史観を持つことが重要だ。今、日本がどういう局面にあるのか、日本の歴史がどういう形で展開して来たのか。歴史の縦と横をきちんと掴み、今の日本の位置、今後どうすべきかを知ることが必要である。世界観、歴史観を持つことがリーダーの大きな要件になる。

#### 講義の感想

- 「これからの社会で求められるリーダーとは多様性を受容できる人である」というお話は、自分の課題でもあったと思えました。自分に足りないものに向き合って克服していきたいと思います。
- 異質なものを排除しがちな日本ですが、歴史のタテとヨコを抑えて考えることで、視野が広がり、異質なものから学び成長することが出来るのではないかと思います。



加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人AFS日本協会理事

### 「激動の時代を生き抜き、未来を描くリーダーとは」

今年数々の困難を乗り越えマレーシアの首相に再当選したマハティール氏。イスラム教・仏教・ヒンズー教と異文化の人種が存在するマレーシアでは、お互いを認め合い、同じ「Malaysian」として仲良く共存しようという考えを持つ。彼はどんな時も正義を貫き、ブレず、常に将来、国民が幸福になるための設計図を考えている。そのために教育を国家の政策の柱に据えている。

リーダー塾は、未来地図を描くきっかけづくりの場所。出会った仲間との切磋琢磨の旅の始まりだ。リーダーとは、不測の事態が起きた時に臨機応変に実現できる人。激動の時代、マニュアルに書いていないことを何とか実現させようという熱い気持ちがあれば、仲間と助け合いながら失敗を恐れず乗り越えていける。人間は十人十色、それぞれに合ったリーダーになって欲しい。

#### 講義の感想

- 私はマニュアル通りにしか行動できず、アドリブ力が乏しい。これからの高校生活は自分の弱点に向き合い、自分の未来に繋げていきたい。
- リーダーになるためには、好奇心、知識、高い倫理観や責任感、決断力、行動力が大切な鍵になることを知りました。大切なのは自発的に行動することで、狭い視野になりがちな現代でも激しく考えていこうと思いました。



明石 康 先生 元国連事務次長、公益財団法人国際文化会館理事長

### 「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

#### “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

毎日のように国家間や民族間での紛争が起きている。今世界はとても複雑化している。そして、世界が分断されている。ナショナリストとグローバリストを切り離すのは難しい。時には相反する目的だと思っても、この二者が歩調を合わせる必要がある。政治家や外交官などは、日々会って緊密に議論しなければならない。

日本は、近隣諸国が直面している問題も含めて考えなければならない。北朝鮮の核開発問題については、解決するのにどうしても時間がかかる。専門家によると、核兵器放棄までに3年はかかるとも言われている。日本はもちろん簡単に交渉を諦めてはいけなく、簡単に上手く行くと思ってもいけない。いつも真実と真実ではないもの、また半分真実で、半分真実ではないものの組み合わせなどがあるので、物事を冷静に見てほしい。

#### 講義の感想

- 歴史をみんなで理解し、過去の記憶を忘れず、過ちを認めることが、国と国とが理解し合えることにつながる。相手を知ることや異文化理解をすることは、特に大切なことだと思った。
- 自分の英語力のなさを痛感させられる時間となりました。簡単な英語だと言われましたが、それにも関わらず理解する事が難しく、また他の塾生はメモをたくさんとってたくさん英語で質問をしている姿に圧倒されました。



**葦津 敬之 先生** 宗像大社宮司

### 「宗像の世界遺産への取り組み」

今、地球環境問題を考える際、日本に古くからある「神社」が世界から注目され、研究者など多くの人を訪れるようになった。神社には必ず鎮守の森が作られ、現代に残されているものも多くある。また東日本大震災後、津波が到達したきわのところに沢山の古い神社があることがわかった。これは古くから存在する神社が先人たちの記憶の塊だということを表している。神社に記憶された事柄に未来に繋がるヒントがあると考えられる。

宗像大社を含む世界文化遺産は登録までには様々な課題があり、解決するのは簡単なことではなかったが、異文化、言語の違う相手とコミュニケーションをとるためには、どんな小さなことでも共通項を探ることが大切だと学んだ。

日本の祭祀型統治や、自然そのものに神が宿るという考え方、自然に逆らうことなく自然を熟知し、自然の摂理に習って神社を造り守ってきた文化は、世界に誇れるものである。

#### 講義の感想

- 私は「自分はこの世でも先祖と堂々と話せる」という言葉に感銘を受けた。自分は先祖と堂々と話せるような人生をおくっているのか、この先おくるためにはどうして行くべきなのか考える必要があると思う。
- 先人たちが残した歴史文化から多くのことを学び、取り組みをして、宗像を世界遺産に導いたことはとてもすごいなと思った。



**松尾 法博 先生** 佐賀県立名護屋城博物館学芸課長

### 「佐賀県立名護屋城博物館25年の歩み～日本列島と朝鮮半島との交流の歴史」

文禄・慶長の乱について「朝鮮出兵」という言葉を使うこともあるが、名護屋城博物館では侵略は事実としてとらえ、「朝鮮侵略」と明記している。今から25年前、名護屋城博物館の開館にあたり、韓国の一部のマスコミから豊臣秀吉を誇示しようという意思が見えると言われていた。しかし、「過去の反省に立って、将来の友好、交流を促進することが大事だ」という初代名護屋城博物館長の考えのもと、開館の準備が進められた。

現在、朝鮮にある日本軍が作った城を、釜山市立博物館や名護屋城博物館の学芸員が共に調査している。韓国の小学生が日本の小学校に来て交流を深める活動は、博物館ができてから19年続いている。お互いの文化、習慣が違うということも、交流をしなければわからない。過去を振り返り、同じ過ちを起ささないようにすることは歴史家の使命である。過去をゆがめずに真実を語ろうとしていることが少しずつ認められてきている。これからも、負の遺産でもある名護屋城を日韓友好の基地とし、平和教育の場として利用していきたいと考えている。

#### 講義の感想

- 歴史を正しく理解し、お互いの文化、習慣を認識することは、私たちにとって必要なことだと強く感じた。教科書だけでなく自ら調べるなどして、知識をもっと取り入れていきたいと思った。
- 名護屋城について知ること、日朝の歴史も詳しく知ることができた。日朝の関係を復興させるのに大きな役割を果たしたのだと知り、佐賀に住んでいるのにこういうことも知らなかったのはちょっとショックだった。



**李 鳳宇 先生** 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、立命館大学映像学部客員教授

### 「映画で世界をみよう」

1980年代にパリにいた頃、映画館で日本映画の回顧展があった。その映画館に通ううち、色々な国の人が集まる映画好きの小さな同好会ができた。その中の一人は、上映されている日本映画の女優を好きになったのをきっかけに日本に興味を持ち、日本に留学するまでになった。映画は他の国に興味を持つきっかけになり得る。

かつて「自分は何人なんだろう」という疑問を持っていて、愛国心についてもどう考えていいのかわからなかった。ある時、フランスの大統領選挙の討論で「フランス人とは誰のことを指すのか」という問いに対し、立候補者の一人が「フランス人とは、フランス語を話し、フランスに納税している人」と答えているのを見た。それから、自分は何人であるか、自分のアイデンティティについてシンプルに考えることができるようになった。国家とは漠然とした大きなものではなく、自分の隣人、友達、会社と広がっていく延長線上にあるものだと考えると、愛国心ということの意味が見えるようになる。

#### 講義の感想

- 愛国心を持つことで、いろいろなことに取り組むことができるとわかったので、自分の故郷に誇りを持つことを忘れないようにしようと思う。
- 映画というのは観るだけのもではなく、体験するものだという言葉にとっても共感した。観て終わりではなく、その後人に何かを考えさせたり行動に移させたりできる映画が、最も強い映画なのだろうと思った。



筈谷 和比古 先生 大阪学院大学法学部教授

### 「幕末日本の国際条約と国際環境」

日本は19世紀の間に独立と近代化を成し遂げたヨーロッパ以外の唯一の国である。一般には、侍の時代が終わって明治になってから近代化を成し遂げたと書かれているが、佐賀や島津といった藩が欧米の優れた技術を堆積させており、明治の近代化を可能とした。

国際条約について、日米和親条約において、不平等条約と言われた領事裁判権や関税自主権がない最恵国約款についても、当時の日本社会と国際環境を鑑みれば、不平等条約ではなく、条約交渉力は評価されていた。江戸時代から明治に移るにつれての国際環境の変化と、薩英戦争、下関戦争の賠償に伴い不平等化していったというのが正しい。

徳川社会の力量は、現在正当に評価されておらず、侍社会を否定して明治の近代化がなされたとされるが、そうではなく、徳川社会の力量、成熟度、政治感覚、国際感覚が日本の独立と近代化の基礎をなしていた。

#### 講義の感想

- 川路聖謨氏がロシア使節に気に入られた理由が、聡明かつユーモアがあったということで、知識を多様に持つ反面、場面によっては親しまれやすい一面も必要であると思った。
- 今まで佐賀の歴史をほとんど知らなかったので気づかなかったが、佐賀は幕末に最も技術が最先端で、特に鉄砲や大砲の輸出入は幕府に依頼されるほどであったのには驚いた。



沈 壽官 先生 薩摩焼十五代

### 「伝統を守り現代を表現する」

表現とは意思を可視化させるということだ。君たちは意志を持たなければならない。そして職業を道具として内面を表現するということである。

物事の始まりは意志を持つということである。若いうちに様々な本を読んだりして、自分が世の中に伝えたいことを考える。

私にとって韓国はルーツである。日本でも韓国でも否定され悩んだ。そのとき相談した司馬遼太郎先生の手紙で「民族は瑣末なものである。自国の文化を大切にしながら、他国のこと、言語、文化を大切にすることが本当の愛国だ」という言葉があり、国境を越えて生きていけることが重要だとわかった。皆さんも世界のどこにいても日本人の看板ではなく、一つの存在としてありうる。そういう意識を持てるように頑張りたい。

#### 講義の感想

- 今回一番感動した講義でした。相対的価値を追い求めるのではなく、絶対的価値を追い求めてほしいということなど、私は先生の生き方にとっても共感を覚えました。
- 愛国心や愛国教育というワードにあまり良い印象を持っていなかった。しかし講義で「強いアイデンティティを持ちながら、相手を認めて溶け合っていくことが本当の愛国心である」という言葉に出会った。その言葉を聞いて、日本の歴史や文化を正しく理解して誇りを持ちながら、ほかの国の歴史や文化を認めることの重要性を感じた。



山口 祥義 先生 佐賀県知事

### 「偉人たちの志を受け継ぎ、未来につなぐ」

将来、今より多くの人々が海外から訪れるようになり、日本で暮らすようになる。佐賀には神社や仏閣など日本的な和の文化がたくさん残っていて、外国人の移住者も増えている。自分の地域のことでも語れないのに、世界に行っても意味がない。世界中に羽ばたいていくためには、自分がどういう場所で育って、そこはどんな場所なのかを語れなければならないことに気づくべきである。

かつては何もない焼け野原からみんなが一糸乱れず豊かになるように進む、「百人一通り」の時代もあったが、今は「百人百通り」の時代である。色々な思いで生きている人がいて、みんなで前を向いていこうという時代になっている。みんなが同じ顔ではなく、自分の顔を持たなければいけない。将来のリーダー像も断定することはできず、自分で見つけていく必要がある。かつて、佐賀藩は他の藩が作れなかった大砲や蒸気機関を作ることができた。佐賀藩の物づくり、人づくりの原点には志があった。「自分が何かを成し遂げる」という強い気持ちを持つことが大切である。

#### 講義の感想

- 100人100通りの世界である現代において、自分としての個性を持つことはとても大切だと思った。志を高く持ち挑戦し続けることも重要だと思った。
- 佐賀が明治維新の頃、最先端の人材と技術が集まった場所であった事は全く知らず、勉強の足りなさを感じた。



**中村 俊郎 先生** 中村ブレイス株式会社代表取締役会長

### 「義肢装具作りの半生『新たなアスリートの出会い』」

5人兄弟の末っ子として生まれ、家庭に余裕がなかったので、自分で人生を切り拓いていく必要があった。そんな中、両親がいつも「あなたの前には広い世界がある」と語ってくれた。自分ができることを精一杯やって生きていこう、喜ばれる仕事をしていけば、世界の人が待ってくれるのではないかと考えていた。夢を語ってくれる医者達に出会い、自分ができることは何かと考え、当時、まだあまり世に出ていなかった義肢装具作りを学ぶため、留学してみたいという夢が広がっていった。

アメリカから帰らざるを得なくなり、生まれ故郷である過疎化が進む石見銀山の町で、一人で会社を始めた。当時は顧客もいなかったが、家族に恵まれ、自分の志を支えてくれる地域の人のおかげで、今では日本中からここで働きたいという人が集まってくれるようになった。誰もが自分の中に宝を持っている。誰かに助けてもらうのではなく、自分で鍛える必要がある。自分の使命、生まれた意義を考えて欲しい。

#### 講義の感想

- 先生のお話を聞いて、僕が生まれた意義とはなんだろう、存在意義のことなのでは無いだろうかと考えました。これからの社会で自分がどれだけ価値ある人間になるかで決まると思います。
- 相手のことを考えること、社会を考えることはどういうことがよく分かった。義手、義足製作は、使う人のことをとことん考えてあり、それが相手を思いやるということなのだと感じた。私もそれを見習い思いやれる人でありたい。



**鎌田 實 先生** 諏訪中央病院名誉院長

### 「生きているってすばらしい～命・平和・絆を考える～」

人類の遺伝子を辿っていくと、全て10万年前にサバンナにいた女性にたどり着くと言われている。だが人類は、肌の色、宗教などの違いで争い、虐げ合っている。人類は利己的な存在であるが、利己的な集団はやがて絶滅していった。ほんの少し「利他的」であるかどうかにかかわらず種の存続がかかっている、いつでも1%だけ誰かのことを考えることで世界が穏やかになっていく。子供の頃、捨てられていた私を拾ってくれた両親は裕福ではなかった。父親は恵まれているから自分を拾ったのではなく、自分の存在する意味を考えたのだと思う。

パレスチナで少年がイスラエル兵に撃たれ、脳死状態となった。その父親は息子の心臓をイスラエルの病気の少女に移植することを許した。どうしてそれができたのかと聞くと、「海で溺れている人がいたら、泳げる人間は海に飛び込み助ける。とっさの時には人間として行動しなくてはいけない時がある」と言った。心臓移植で助かった少女の夢は、パレスチナの子供を助けるために看護師になることだった。多くの人がこの少女のように敵側の子供を助けられるようになった時、平和を作り出すことができるのかもしれない。

#### 講義の感想

- 私も将来、発展途上で働いて貢献したいと思っているので講義を聞いて本当によかった。いかに自分が恵まれているか再認識し、感謝して生きていきたい。
- 自分を強く持つには、ホットシステムとクールシステムの両立、つまり夢や楽しみの実現のために我慢することが必要であるとわかった。



**出口 治明 先生** 立命館アジア太平洋大学長、学校法人立命館副総長・理事

### 「これからのリーダーに必要な思考力」

現在、世界的な大企業の上位は、一つのアイデアから生まれた新しい企業である。製造業が国を引っ張っていた時代とは変わり、どんなことをやったら儲かるのか、成長するのか、物事を根源から考える力が必要な時代になっている。

価値観によって見え方の変わる物事をしっかり見るには、昔の人がどう考えたか（縦）、世界の人がどう考えているか（横）、物事をデータで見る（算数）、「縦横算数」という方法論が有効である。「縦横算数」で物事を見ると、思い込みで考えていることに気づける。

考える力×知識でアイデアが生まれる。プラトンやアリストテレスのような賢人の古典を読み、彼らの思考のプロセスを追体験することで、考える力を養うことができる。

身近な人との交流だけだと、狭い知識しか得られない。色々な人と会い、本を読み、旅をして刺激を受けて得た、一見繋がりのない知識を組み合わせることで、面白いアイデアが生まれる。

#### 講義の感想

- 印象に残ったのは、「人、本、旅」です。自分にとってすごく刺激になるものばかりだと思います。今は人との出会い、視野を広げられる本を大切にしていきたいと思います。
- 人間の意識を変えるためには社会の構造を変えることが大切で、身の回りの環境が変われば、おのずとそれに合わせた思考や行動を人間はできるようになるものだと感じました。



**小手川 強二 先生** フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長

### 「発酵食品の魅力」

発酵食品は、菌が水や空気、環境の力を借りて大豆や小麦を分解して作る。いい醤油、いい味噌を作るには雑菌を取り除き、菌が活発になるよう環境を整えてあげることが大事だが、菌が快適な環境で作った発酵食品はあまりいいものにならない。菌にとって酸素も足りないギリギリの環境を作ると、苦しいなかで菌が頑張って繁殖していき、それを熟成させるといい発酵食品ができる。

無限にある可能性を広げる一番の要素は、自分が強い気持ちを持って夢に向かって進んでいくことである。人間も菌と同じで、プレッシャーがない環境で育った人間は強くなれない。自らプレッシャーをかけて何かに挑むことは大事なことだが、それでも挫折してしまうことがある。挫折をした時に助けてくれるのは周りの経験豊富な人や、頼りになる友達である。そういった人が周りにいてくれる環境を作る。それが人生の大きな糧になる。

#### 講義の感想

- 努力によりいろいろなことを克服していこうという思いを反芻した。さらに、自分だけの努力では足し算の成果かもしれないが、他との交わりで掛け算の成果につながると感じた。
- 私たちには無限の可能性があり、挫折を味わい、それを乗り越えてプレッシャーに打ち勝つ強い心を育てるには、今の時期が1番ぴったりだと教えていただきました。



**室伏 きみ子 先生** お茶の水女子大学長

### 「『研究者』という職業選択～人々が心身ともに健康で暮らせる社会の実現を目指して」

2018年に小学生が将来就きたい職業を調査した結果、男子の中では研究者が一位だったが、女子は十位にも入っていなかった。研究者はまだ男性の職業と思われているところがあるので女性が少ない。研究者は誰も知らないことを自分の手で解き明かせるかもしれない、本当に心が躍る経験のできる職業である。人々が持っている様々な夢を自分自身の手で実現させられるかもしれない。将来職業を選ぶ時、研究者という道も選択肢に入れて欲しい。

アメリカに留学する話が出た時は、子供がいたので行くかどうかすぐには決断できなかった。しかし、若い頃は色々な経験をすることが大事で、やらずに後悔するより、やってみて失敗しても頑張ろうと思う方が遙かに有益だと考え、留学を決めた。日本の中だけに閉じこもっているだけでは、これからの社会で活躍していくのは難しい。グローバルな環境に自分を置いて、そこで多様な文化や社会環境にある人の意識を学んで欲しい。

#### 講義の感想

- 「研究者とは人々の夢を実現し、解き明かすことが生き甲斐」という言葉から、研究職の楽しみや職業観が伝わってきた。常に多角的に探究することは、研究職にたかなくても大切なことだなと思った
- 私自身、「女性」は制限が多いと感じることはあったが、それを理由に将来を妥協することは嫌だったので、先生のお話は私を後押ししてくれている気がしました。



**上方落語福岡県人隊**

四代目桂梅團治先生、桂よね吉先生、笑福亭風喬先生、笑福亭呂好先生

### 「落語を学ぼう！」

落語家は、その日落語を聞きに来ているお客さんを見て、年齢や知識量などを予想して噺の演目を決め、オチの部分の説明を足して、お客さんにより楽しんでもらえる様に工夫する。寄席では自分の前の出番の人の演目を見て、話の内容が似ていないものをその場で選ぶ。また東京と大阪など場所によっても、文化や趣向が全く違うため、同じ話でも出てくる食べ物や、登場人物のキャラクターを変えたりする。入門したての頃師匠に言われたことは、「落語が上手いに越したことはないが、それよりも人に好かれろ」ということ。どんなに落語が上手くても、招かれて話をする機会がなければ意味がない。人の動きをよく見て、相手が求めていることを察して、媚を売るのではなく、好かれる様に動けと指導された。また、やりたいことがわからない時にそれを見つけるヒントは、「人に褒められたところ」。そこを掘り下げると、自分のやりたいことが見つかるかもしれない。

#### 講義の感想

- 何度も何度も笑いました。演劇をしていた身としては、顔を左右に振る瞬間の演技や役の切り替えが自然かつとても面白いことに憧れました。その日によって導入の話を決める、被った話はしないなど、即興性にも驚きました。
- 私は、人と関わることが苦手なので、人をひきつける話術を身に付けたいと思った。これからは人に合わせて臨機応変に対応する方法を身に付けていきたい。



**麻生 渡 先生** 元全国知事会会長、学校法人福岡工業大学最高顧問

### 「君は人生100才時代をどう生きるのか」

日本では「平等に教育しよう」という意識が強く、「リーダーを育てよう」という意識が薄い。リードしていく能力、意志を持ったリーダーがいない社会は成り立たないと考え、リーダー塾を始めた。皆さんが将来どの分野に進んでも、それが大きい集団であっても小さい集団であっても、一段上の考え方、新しい考え方をする集団のリーダーになって欲しい。

医学は進歩し、「人生100年時代」に突入している。通産省（現在の経済産業省）で働いていた頃、「自分の人生を100年と考え、その中でいつ何をするのか計画を立てろ」と言われたことがあった。世の中が進歩して新しい概念がつくられていく中、6歳から22歳の間だけで学んだことだけで応用していくことは不可能である。世の中の知的レベルを上げるため、学生時代だけではなく、人生を通じた再教育を社会的におこなっていく必要がある。みなさんの人生は、二毛作、三毛作という時代になっていく。100歳まで会社に行っても面白くない。人生を使って、自分のやりたいこと、情熱をかけられることを見出して欲しい。

#### 講義の感想

- 価値観は時代とともに変わって行く。以前は正しかった事が現在は古く誤ったことになっていることも多い。時代に乗り遅れず、ついていける人間になりたいと思った。それが自分だけではなく、日本全体に大切であると感じた。
- 選挙権の拡大は歴史上多くの人々の運動、闘争の結果であると知り、僕は将来選挙権を必ず行使しようと思いました。



**神成 淳史 先生** 慶應義塾大学環境情報学部教授、  
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室長代理/副政府CIO

### 「持続可能な社会システムの構築を目指して（農業、介護を事例に）」

農業と介護で、熟練者の知識を継承し、その知識を横展開するためのデータ連携を可能にするための仕事をしている。農業や介護の現場でITが当たり前に使われるようにしたいと考えている。AIで仕事が奪われるという研究があるが、そうではなく、AIを使ってこれまでの仕事のやり方をどう変えていくかだ。30年前とまったく同じ仕事内容の職業は無い。

経済が右肩上がりの時は目の前にある問題を解決すればいいが、社会が大きく変わって、これまでのやり方では対応できない時には目の前の問題だけではなく、5年後10年後にどう着地するかを考える必要がある。自分の作り出したものや解決策が、社会の中でどう生かされていくかを考える必要がある。

世の中が上手くいっている時は好きなことをいうと敬遠されるが、今のように経済が厳しいときは逆にチャンスだ。悲観するのではなく、色々なことができると考えて欲しい。

#### 講義の感想

- AIが人の代わりにやるのではなく、「AIをどう使っていくか」ということが重要なのだと感じました。これからAIの技術が発達していく上で、どう使えばより良く活用できるのかを考えていきたいと思います。
- 「視野（どの範囲で見るか）・視座（どこから見るか）・視点（どこを見るか）を常に意識すれば、自然とやるべきこととやれることは見えてくる」という先生のお話を意識すればまた違った自分の意見が持てるかもしれないと思った。



**滝 久雄 先生** 株式会社ぐるなび代表取締役会長 CEO・創業者、株式会社NK B取締役会長 創業者

### 「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」

人生において、何か一つやり続けることを探していた時、人間とはなんなのかと考えることを続けようと思った。人間の本質として、好き嫌いがあるのは当然のことである。しかし、この世界に生まれたからには人間を好きになって欲しい。好き嫌いをなくそうということではなく、人間に対しても社会に対しても、好きになろうという努力をすることが大切である。

外国の人との交流においては、お互いの文化を尊重する必要がある。その国の価値観は、その国の歴史、成り立ちが関係していて、その価値観を持つに至った経験がある。日本人の価値観を持つ自分としての意見を持つことは必要だが、他の国には他の国の価値観が存在するということを知らないといけな。私は他の国の人と話す時「日本的にはこう思う」と話す。リーダーになり、外国の人との問題が起きた時、その人の国の歴史を勉強し、その人がどうしてそう考えるのかを想像するしてもらいたい。

#### 講義の感想

- 講義を聞いて日本人の価値観や精神がとても素晴らしいものであると感じ、日本人に生まれて良かったと思いました。素敵な国に生まれたのだととても嬉しくなりました。
- 困難な問題に対してどれだけ真剣に取り組めるか、どれだけ興味を持てるかがポイントだと思った。また自分を生かしたいという貢献心や使命感を持てるかが重要だと思った。



川勝 平太 先生 静岡県知事

### 「海洋アジア—近代文明の母胎—」

木綿はインドから世界に広がったが、木綿を最もたくさん世界中に供給したのはイギリスだった。イギリスはアメリカから得た金や銀でインドから木綿を買っていた。世界史の教科書には、イギリスはインドを搾取したと書かれているが、実は200年以上、イギリスの財産はインドへ流れ、巨大な貿易赤字を起こしていた。

ヨーロッパの人口の3分の1が亡くなったペストの薬として香辛料を買うため、世界中の人が東南アジア、インドネシアに集まった。だがインドネシアの人は金や銀には興味がなく、インドの木綿に興味があった。その木綿を手に入れるため、どんなに高くても金銀を渡した。私は今から400年ほど前、東南アジアが世界で最先端の地域だったと考えている。東南アジアには様々な宗教の人がいる。強制的に連れてこられたのではなく、憧れて集まってきた。人から憧れられる場所が、一番先進的だと考えている。

#### 講義の感想

- 16世紀に一番最先端だったのは東南アジアであると納得した。学校で習う世界史は西洋という視点から考えているためこのような考えは出てこなかった。
- 1番印象に残った言葉として、「十五にして学に志し、三十にして立つ」と言う人生訓をあげます。自分も三十歳前後までは失敗は当たり前だと思って、今を修行時代と思って奮闘努力したいと思いました



武藤 杜夫 先生 日本こどもみらい支援機構代表、元法務省沖縄少年院法務教官

### 「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」

人は命を受け、生まれてきただけで無条件に価値がある。そのことがわかっていない子供が傷害や窃盗などの非行を起こしてしまう。それをわかっていない大人が多いので、それをわからない子供がいる。今、世の中全体が孤独に向かってるように感じる。子供も大人も一人ぼっちになってはいけない。いじめは人間を一人ぼっちにする最悪の暴力である。世の中には大人のいじめがはびこり、それを表現の自由という言葉のもとに見過ごしている。学校はいじめをなくそうとしているが、子供の社会のいじめをなくすより、大人の社会のいじめを先になくすべきである。下の世代は上の世代の背中を見ている。

法務教官の仕事は、子供の可能性を信じることである。少年院の子供と丁寧に向き合うと、個性的な発想力、思いついたことをすぐに実行する行動力、一度始めたら絶対にやめない継続力など非行少年特有の資質を持っている。それが大物になるための条件でもあり、一流になる資質となると伝えている。人を信じたら、黙って遠くから見るだけではなく、言葉をかける。それが信じるという言葉の意味だと考えている。

#### 講義の感想

- 先生の話が1番心に残っています。今まで少年院と言うものは粗悪なものであると思っていましたが、実際には更生を誓う子供たちが一生懸命学んでいる場所であると知りました。
- 集中して聞く環境を作ってから、一人一人の目を見て、真剣に話してくださるその姿は、とても素敵でした。「生きてるだけで100点満点」「人間は勇気ある挑戦者」という言葉は、これから私を支えてくれるものになると思います。



小川 洋 先生 福岡県知事

### 「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」

人の役に立つ仕事がしたいと考え、通産省（現在の経産省）を訪ねた時、どんな課題を抱え、どう解決したいかを熱く語る先輩の姿を見て、通産省に入ることを決めた。大変なことも多かったが、前向きな職場の雰囲気や同僚も好きで、仕事には達成感があった。社会人になると苦労も多いが、自分の仕事を楽しいと思えるかどうか重要である。

日本の経済が停滞し少子高齢化が進み閉塞感に溢れていた頃、一人一人の国民が元気になり、それぞれの地方が元気になるという原点に返って立て直すのが大切だと感じていた。公務員として働いてきた知識や経験、そこで出会った人とのつながり、それに福岡の人達の経験と知恵を組み合わせれば、ふるさとの福岡の役に立てるかもしれないと思った。若い頃から自分を磨き、世の中で何かが起きた時に自分だったらどう考えるかを常に考え、文化の違う様々な人と交流して欲しい。人との繋がりを長く大切にすると、人生のなかで誰かが手を差し伸べてくれ、自分が助けてあげることができる。

#### 講義の感想

- 講義を受け、安全を担保するものが、決まり事を作り、運用されて初めて皆が安心し安全を享受できるものなるのだという事が分かった。
- 現状からどうしたらさらに良くなるかを考え、できない理由ではなく、できる理由を考える。相手の立場になって考え、相手に寄り添うなどのちょっとしたことでも、少しずつ変えていくことで人として大きく変われると思った。



國分 良成 先生 防衛大学校長

### 「東アジア情勢をどう見るかー中国・北朝鮮を中心にー」

アジアとは、アッシリア語で（ヨーロッパから見て）日が出てくる世界のことでありとされている。極東（Far East）もヨーロッパから見た東の果てである。これらはヨーロッパを中心にしている。歴史を知ること、その意味と背景を探ることができる。

日本と中国は非対称であり、日本は情報を開放的に出しているが中国は出していない。中国は民主主義ではなく、中国共産党が国民を代弁している。中国では選挙が無いので、権力をもつリーダーになるには、国民の豊かで平和な生活のための政策を実現させることが重要だ。なので、日本と中国を単純に比較できない。北朝鮮の核・ミサイル開発は、報道されなくなったが開発は止まっていない。北朝鮮は弱くて貧しい国だが、独裁体制を維持するために核でアメリカと交渉している。日本も北朝鮮とは拉致、核、ミサイルの問題を抱えている。拉致問題があるため、なかなか交渉が進まない現実があるが、交渉にあたっては国民の理解が必要である。現代は情報過多である。記憶力ではなく、ものごとをどう見てどう考えるか、そして同時に相手の立場に立って考えることも大事である。

#### 講義の感想

- アジアの問題と言ってもそこには必ずアメリカが関わっており、アメリカと中国の貿易戦争が日本の経済に容易に打撃を与えるほど、2国の力の強さ、影響力の大きさを感じた。
- 情報過多の時代の中で、物事の本質をどう見抜くか。記憶力だけでなく、判断力や考える力が重要だということを感じました。



宮川 眞喜雄 先生 在マレーシア日本国大使

### 「指導者に相応しい人、相応しくない人。日本のために、アジアのために」

マハティール首相は5月10日、15年ぶりに首相に再任された。歴史上同じ日に首相になった政治家がもう一人いる。チャーチルだ。戦時下の英国国民に「Never give in!」、絶対負けるなと鼓舞し、遂にドイツに勝利した。勇気を喚起するのは指導者の資質だ。マハティール首相も、92歳の高齢をおして、汚職にまみれた前政権を倒すとの気概と信念で国民の勇気と自信を奮い立たせ、独立以来60年続いた政権を打倒した。またこの老宰相は、1度目の首相時代、国の名所になると450mのツインタワーを構想し、首都郊外に大きなハブ空港が必要な時代が来ると予測し、それらを共に建設した。マレー半島を縦断するインターネット通信網が必要になるとその敷設を始め、東アジア諸国間に経済協議体が必要だと唱えその構築に邁進した。反対もあったが今思えばいずれも先見の明があった。指導者には、周囲の意見を纏めるだけでなく、将来を見通し、真に必要な方針を打ち立て、かつ、遂行する資質が必要だ。

#### 講義の感想

- 指導者とは後の世代も配慮しつつ、集団を成功に導く人のことで、成功に伴った努力からも学ぶことができる人ということが分かった。また、失敗の原因を探求し、改善する事が最も重要な事だと知ることができた。
- 常に人々のことを考え、導く。これがあるべきリーダーの姿だと思いました。



マハティール・モハマド 先生 マレーシア首相

### 「アジアの次世代リーダーはいかに未来地図を描くことができるか ー93歳から10代へのメッセージ」

首相に就任してグローバルアリーナに戻って来られて日本やアジアの次世代リーダーに、93歳の私から考え方を教示できることがどんなに嬉しいことか。リーダーとして未来をデザインするには、過去の歴史から学び、現在、世界が抱える問題を学びとることが重要だ。平和な世界を構築することが何より重要であるとずっと言い続けてきた。日本は、唯一、原爆を落とされた国で戦争の悲惨さを最も知っている。核戦争は瞬時に人類を滅ぼしてしまう。戦争をなくせば兵器に使う巨額な資金を再生可能なエネルギーに使うことができる。「次世代リーダー塾」が世界各地にできて、若い世代が語り合うことが重要だ。国境を越えて、世界に飛び出して知らない人たちと出会ってほしい。そして、皆さんの手で平和を構築できれば、より高い文明を切り拓くことができる。平和構築が「次世代リーダーとしての責務である」と受け止めて、あなたというリーダーがいるから将来がよくなったと言われるように努力してほしい。

#### 講義の感想

- 今後、どのような世界に生きたいのかを考えるためには、過去と現状を正しく理解しておくことが必要だと分かった。
- 一度首相を引退した後でも、自分のために生きるのではなく、再度彼の愛する国民のために立ち上がったこと。これこそ真のリーダーの核心だと私は感じている。

**卒塾生発表** 社会に出て活躍する3名の卒塾生に話をしてもらいました。



**1期 齊藤 大地 さん** 株式会社バカー代表取締役社長

大学時代にエンターテインメントに命を捧げようと思い、株式会社ドワゴンに入社した。今は独立し、プロデューサーとして個人クリエイターとIP（知的財産）を作る仕事をしている。

グローバル化した世界では、敵は世界中だ。その中で勝つには、日本が強い所で勝負をした方がいい。日本の大学生が世界で一番である分野は、遊びだ。みなさんには大学で遊んで欲しい。日本の大学生は世界で一番遊んでいて、遊んでいる人は平均IQが高い。だから日本のエンターテインメント産業は広くて大きくて面白い。また、面白いことを考えるには学問的裏付けも必要なため、勉強もなくてはならない。私はエンターテインメントの次世代のリーダーになりたいと思っている。



**1期 島 広匡 さん** 復興庁原子力災害復興班主査

大学は建築をやりたくて建築学科にいき、大学院まで進んだ。しかし、違うことに心を惹かれて経産省に入省し、出向に出向を重ねて復興庁で東日本大震災の復興に携わっている。

建築学科から建築に関係の無い経産省に進んだのは、紆余曲折があったが、そのときに自分が本当にやりたいことは何かを考えたから。

リーダー塾の仲間は、身近なロールモデルとして、自分が考えていることを話す相手として、また一緒に夢を語り合える仲間として自分が広い視野を持つのに役に立った。

今は目の前の仕事を通して、いかにして国民の生活を支えていくかを考えている。

広い視野を持っていないと、「真の公益」というのがなにかが分からない。リーダー塾の仲間や周りの人と意見をぶつけ、自分はどうか考えるのか、なんとなくわかった気にならずに、言葉や文字にする。そして自分の輪郭を作って欲しい。



**9期 河野 朱音 さん** 慶應義塾大学法学部法律学科

6年前の高校2年生の時にリーダー塾に参加し、何かを変えたいければ自分が変えれば良い、頑張っても変えられないならもっと頑張れば良いということを学んだ。

大学の進路は、将来、国連職員として働き、発展途上国の法整備支援をしたいと思い、慶應の法律学科に進んだ。

自分が限界を超える挑戦をしたことは、スイスで一年間留学をしたことだ。自分の目指すべき道とは違うと感じ、今までやりたかったことを突き通すか、自分が本当にやりたい新しい道を探すのかを考えた。そして、国連職員としてではなく、ビジネスを通して途上国の支援をしたいと思った。みなさんにはどんなに辛くても考えることを辞めず前に進み続けて欲しい。

**発表の感想**

- 3人の講義によって自分の将来について深く考えることができ本当によかったです。意思や目的がないのは本当にもったいないとおっしゃったのをきいてとても恥ずかしくなりました。
- 全くタイプの異なる三人の卒塾生が行った講演を聴いて、改めてリーダー養成塾には様々な考えを持ったそれぞれ別のベクトルに凄い人達が集っているのだと思った。
- 今回卒塾生発表を聞いて、いろんな人生があると思ったし、今自分はなにがやりたいのかを考えて行くことが大切だと思いました。
- 3人ともリーダー塾で学んだことを活かした仕事に就いたり、学校に行っていることがすごいと思った。それだけこのリーダー塾が人生に与えてくれる影響はとても大きいのだと思う。このリーダー塾で決まった自分の夢に向かって精一杯努力していく。
- その時々自分が本当にやりたいことは何なのかを考えること、自分なりの軸を持ちながら広い範囲の中から進む道を選択することが大切だということ学んだ。また、どんなことがあってもずっと考え続けることが大切だということも学んだ。
- リーダー塾で出会った仲間が一生の仲間になるという言葉聴いて、離れていても切磋琢磨できる仲間に出会ったことに感謝したいと強く思いました。
- 卒塾生の発表では、リーダー塾を通して得た高い志と刺激が自分をどのように成長させてきたかを知ることができました。3名の先輩方全員が、リーダー塾での2週間は自分にとって大きな経験値だったとおっしゃっていました。私にとっても本当に貴重な経験だったと思います。
- 卒塾生のお話を聞いて、自分には自分の道があると思った。卒塾生のなかにもそういった自分なりの生き方を見つけた方がたくさんいて心から尊敬したいと思った。

## 6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第15回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

### 塾生概要

#### （1）概要

塾生は、負担金をいただいている9県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画県推薦枠から113名、全国から選抜する一般公募枠62名、アジア5ヶ国から招待したアジア奨学生11名、あわせて186名（男子66名、女子120名）が参加した。しかし、このうち2人が体調不良で途中で帰ったため、184名が最終的に卒塾した。

日本人卒塾生は、国内27都道府県129校、海外3つの国と地域3校の高校に所属していた。国内の高校に通う者の中にも、塾直前まで留学していた者や、海外生活を数年経験している者、卒塾直後に留学予定の者など、国際色豊かな塾生が揃い、アジア奨学生のフォローにも一役買っていた。塾生は23～24名ごとに8クラスに分け、各クラスにクラス担任1名がついた。（巻末参考資料③～⑤参照）

#### （2）アジア奨学生の招待

2014年より、日本だけでなく海外の同世代とも互いに切磋琢磨し、広い視野を持ったリーダーとして成長してもらうため、アジア奨学生としてアジア各国から高校生を無償で招待している。今年は、中国、マレーシア、モンゴル、タイ、韓国の5ヶ国から11名を招待し、2週間寝食を共にした。独立行政法人国際交流基金から、渡航費、宿泊費等のご支援をいただくことで招待が実現した。募集にあたっては、在中華人民共和国日本大使館（北京）、在福岡大韓民国総領事館、在タイ日本国大使館、成都外国語学校、石家荘外国語学校、帝京マレーシア日本語学院、新モンゴル小中高一貫学校などのご協力をいただいた。アジア奨学生の期間中の様子については26ページ以降で後述する。

#### （3）塾生の募集及び選考

塾生は、参画県推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、書類や面接による審査を経て塾に参加することができる。参画県推薦枠は、各自治体で個別に募集および選考をいただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。

一般公募枠に関しては、3月に全国900校以上の高校に募集要項や募集チラシなどを一斉に発送し、そのうち一部の学校には3～4月にかけて電話での営業活動や高校への訪問を行なった。学校においては繁忙期であるにも関わらず、ご対応・ご協力いただいた学校関係者の皆様には、改めて感謝申し上げたい。そのほか、卒塾生にも周知活動をお願いし、自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力してくれた。塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力を期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、今年度から、公式のFacebookページやtwitterにて広告した。参加した塾生から広告を見て応募した塾生もいたため、一定以上の効果を得たと考える。来年度以降は規模を大きくして行う予定である。

一般公募枠の選考については、一次選考（応募書類及び作文）、二次選考（個人面接）による審査がある。面接は全国5ヶ所の会場で実施し、海外や離島に住む者については、Skypeや電話による面接を

行った。個人面接の後には、審査には含まないが、塾でのプログラムを疑似体験してもらうため、場所によってはグループディスカッションを行った。今年は、アジア・ハイスクール・サミットのテーマにも関わる「次世代に伝えたいこと」をテーマにフリーディスカッションを実施した。次世代という言葉に縛りを設けず、「1つ年下から100年1000年先を次世代とする」という定義を与えた。ディスカッション内容は、「部活動の後輩へ指導するときの立ち居振る舞い」「効率的な勉強の方法」といった身近なものから、「現在の世界の環境問題」「伝統芸能」といった日本や世界を対象としたものまで幅広かったが、どのテーマでも議論が停滞することは少なく、応募者の社会的関心が高いことがうかがえた。

## 塾生の期間中の様子

### (1) 選考通過から入塾式まで

6月中旬、1次試験、2次試験を通過した合格者が決定。塾が始まるまで1ヶ月あまりの期間、塾生たちは与えられた課題や持ち物の準備を学校生活の傍ら行った。2週間もの長期間、家族と離れて過ごす経験がなかった者が多くいた。塾期間中は、洗濯からスケジュール管理など自分の事は自分でやることを基本としている。最低限の持ち物リストは塾から提示しているが、自身の普段の生活で必要としている物は、自分で考えて持ってくる必要がある。準備に関しても、自立した生活のための大事な学習の機会になっている。

塾初日、日本全国、アジア各国から集まった塾生186名や来賓が一堂に会し、入塾式を開催した。塾生を代表する3名が、榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行なった。まず、開催地を代表して、宗像市在住である福岡県立宗像高等学校2年生の窪田紫都紀<sup>くぼたしづき</sup>さんが、全国とアジアから集まった塾生へ歓迎の挨拶を行ない、2017年に世界遺産となった「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」と同じく2017年に開催された「第37回全国豊かな海づくり大会 福岡大会」に言及した。また、看護師になりたいという夢と併せ「何物にも代えがたい素晴らしい経験を積めるように、失敗を恐れず自分の意見をわかりやすく伝えられるよう努力します。」と決意を表明した。

次に、一般公募枠の私立桐光学園高等学校3年生味田村俊<sup>みたむらしゅん</sup>さんが、自分自身が過ごした南アフリカでの経験を振り返り、将来、国際機関で働き、貧困の問題解決に携わりたいという夢を語った。最後に「南アフリカの英雄、故ネルソン・マンデラ氏は『教育は世界を変える最大の武器である』と述べました。私はみなさんと一緒に世界の格差の問題について、どう対処していけばいいのか考え、議論したいです。そして、格差、貧困や移民などの世界共通の問題を解決し、世界のどこで生まれても幸せな人生が送れるよう、世界を変えるヒントを皆さんと見つけていきたいです。」と強い思いを宣言していた。

最後に、アジア奨学生を代表して、中国から参加した成都外国語学校2年生李沐川秀<sup>りもくせんしゅう</sup>さんが、5年間学んでいる日本語について話し、「グローバル化が進むこの時代は『共生』の時代であります。様々な言語や文化、習慣を持った人々が、その違いを乗り越えて、お互いに理解し合い、助け合いながら生きていくわけです。私はそういう文化の伝播者になりたいです。せめて中日間の交流の壁を打ち破るのに役立つように、私は自分なりに頑張っています。」と流暢な日本語で決意表明した。他の塾生たちは、これからはじまる塾に向けて期待と不安の入り混じった緊張感のある面持ちで3人の代表挨拶に耳を傾け、気を引き締めていた。



▲塾初日、受付をする塾生（左）と塾生を迎えるクラス担任（右）



▲決意表明する3名の塾生代表

## (2) 塾生の様子と特徴

15期の塾生は積極性のある塾生が多かった。塾開始前から、SNSのグループを作りたいと事務局に申し出たり、合唱リーダーのグループを作成後、塾生の合唱パートを決めるなど、それぞれが思い思いの行動を積極的にしていた。塾期間中にも、塾生から「平成30年7月豪雨の報告会」の実施や「ペットボトルキャップの回収」の提案があるなど、物事に対して積極的に取り組む姿勢は素晴らしいものがあった。

しかし、一方で周りが見えていないことも多くあった。特に学級委員やアジア・ハイスクール・サミット(AHS)などのリーダー職について者に関しては一番の学びを得たように思う。各組決め方は様々であったが、多くの立候補者がいる中でリーダーが決まっていた。

国や地域が異なり、各地域で一定の評価を得ている高校生達の集団をまとめることはとても難しかったようだ。どのクラスでも、リーダーは自分の思い通りにまとめることに集中するあまり、周りが見えず、突然のアクシデントに対応できなかつたり、孤立してしまうこともあった。

しかし、クラスメイトと時にはぶつかり、時には励まし合うことで、相手の立場を尊重しながら意見を交わすことを学んだようである。一つ一つの行動には多くの失敗があったものの、2週間という短い期間で一つのかげがえのないクラスをクラスメイトと共に形作っていく過程は彼らにとっても大きな経験になった事だろう。

一方、リーダーに選ばれなかった者も、初めは「自分がリーダーの立場だったらもっとできるのに・・・」と不満を感じている生徒もおり、リーダーとぶつかることも多くあった。しかし、目の前のリーダーは仲間でもある。話をしていく中で「自分がリーダーの立場だったらここが困るから・・・」という思いから、先回りしたサポートをし始める塾生が多く見られた。あるクラスでは、「クラスの誰かが前に出たら全力で応援する」というルールをつくり、皆でリーダーをサポートしていた。

全体として、塾生は挨拶などの生活の基本はできていて、難しい事でもヒントを与えると答えに向かって自分達で動き出す力強さは、目を見張るものがあった。また、一人一人個性が強く、地元の学校生活においては優秀であろうと思える学生が多かった。その為、塾に参加して多くの人と関わることで自分より優れた人がいると言う事に気づき、ショックを受けたり、今まで自分が知らなかった一面を仲間に見つけてもらったりしていた。ショックと気づきを繰り返すことでお互いがお互いを意識し、成長するなど塾生同士で良い化学反応が起きていたようだ。

積極性のある塾生が多いため、講義の質疑応答で多くの塾生が手を挙げ、自分の興味関心をしっかり伝えていた。塾生の中には、講師を求めて講義会場の外にまで行き、質問を繰り返す場面も見られた。序盤は手を挙げられなかった生徒も、仲間と話し、刺激を受け、後半には様々な質問をしていた。

前述の通り全体的に優秀な塾生が多かったが、楽しむ時は楽しみ、真面目な時には真面目にとメリハリをつけ、卒塾式前日の前夜祭では、ダンス、応援合戦、歌など、日頃見ることが出来ない姿を見ることが出来た。



▲平成30年7月豪雨報告



▲クラスは学級委員を中心に運営



▲合唱練習も塾生主導で行う



▲夕食の様子。2週間寝食を共にした仲間はまるで家族のよう



▲質疑応答では多くの手が挙がる

### (3) 短期間での成長

#### ■卒塾生代表挨拶

卒塾式では塾生たちの大きく変わった姿を見ることが出来た。

ぶつかり合ったこと。夜に仲間たちと夢について語り合ったこと。同じ志を持つもの同士、誓い合ったこと。辛くも充実した毎日を過ごした塾生は講義、ディスカッションから刺激された新しい想い、大切な仲間から得た絆と志など様々な想いを胸に卒塾式を迎えた。

今回は3名の塾生がスピーチをしたが、そこに塾生の成長が見える。

(右写真「卒塾式代表挨拶の様子」左から順に)

まず、愛媛県立今治南高等学校3年生兵頭洋介<sup>ひょうどうようすけ</sup>さんはアジア・ハイスクール・サミットで得た気づき「協力することの大切さ」について話をした後、「卒塾してまず最初の目標は、自分の通う高校の雰囲気をもっと生徒が活発に意見を言い合えるように、変えていくことです。将来は、高校の英語の先生になりたいと思っており、今、3年生ですので、

夢を叶えるために、これから受験勉強にさらに力を入れていきたいと思います」と未来への意志を示してくれた。

また、石家庄外国語学校1年野李笑寒<sup>りしやうかん</sup>さんは塾を乗り越えられた世界最高のエネルギーを「みんなの笑顔」としたうえで、講師の話で印象深かったことについて話してくれた。「『他人の為に100パーセントの努力』」とか『子どもたちの笑顔がみたいから』などと何度も言われました。他人の為に、社会の為に、世界の為に頑張る、生きているという事に初めて気づきました。今回、日本の次世代リーダー養成塾に参加できて本当に良かったです。私も中国でこんな塾をやりたいと思います。そして、中日関係の改善の為に頑張ります。私が見た日本を中国の青年に教えて、中国のことを日本の同世代の人達に伝えたいです。純粋な心で、子どもの時から、お互いの交流を深めていきます。私たちが作る未来は必ず、平和で幸せで皆もキラキラな笑顔をしている未来です！」と講義を経ていくごとに分かってきた看過できないアジアの国家間の情勢などを踏まえ、そんな現状を打破するような明るい未来への希望を述べてくれた。

そして、最後に福岡県立朝倉高等学校2年生行武詩音<sup>ゆくたけしおん</sup>さんは「全体の講義を通して私達は自分の夢について深く考えることができたと思います。この2週間のプログラムで様々な刺激を受け、夢が変わった人、新しくできた人、元々もっていた夢に対し更に決意を新たにした塾生が多くいるのではないのでしょうか。自分の夢を同じ高校生と共に語り合う経験は初めてで、とても刺激的でした。友人の意外な夢を知ることができ、自分自身の夢についても深く考えることが出来ました。この経験をすることが出来るのは、このリーダー塾ならではと思いました。このような機会を与えていただいた県や市の自治体の皆様、母校関係者、そして送り出してくれた家族に感謝したいと思います。」と自分の夢と仲間の夢そして感謝の言葉を述べてくれた。

最後は、ぶつかりながらもチームとして一生懸命に取り組んだ合唱を、涙ながらに歌った。これは彼らにとっても最高の青春の一ページを刻めたことだろう。個々が光る彼らだったが、卒塾時には「仲間に惜しみなく協力し、愛、感謝の心を持つ大人になる」と少し恥ずかしくなるような事を堂々と宣言してくれた。塾生たちが、今後の世の中を変えてくれるムーブメントを起こしてくれるのではないかと大いに期待している。



▲塾終盤、堂々と目標宣言する塾生



▲卒塾式代表挨拶の様子

## ■塾に参加した感想、塾で得たもの

塾終了直前に、塾に参加した感想や塾を通して得たものを塾生に聞いた。以下に主な内容を抜粋して掲載する。

自分自身の将来の選択肢が <b>世界規模に広がっている</b> という実感がより持てた。同じ日本に住んでいても、様々な人がいてみんな違う面白さを持っていることがわかった。
<b>物事を様々な観点から見ようと思うようになったり</b> 、たくさん知識を持っている人から話を聞き蓄えて自分に生かしたいと思うようになった。
一つのことを多面的に見るだけでなく、 <b>背景なども考慮する</b> ようになった。
自分の意見を人に伝えるのが恥ずかしくなくなり、 <b>楽しいと感じる</b> ようになりました。
今までは何か思い立って行動するとき、失敗したらどうしようと周りの目を気にして行動することがあった。しかし、リーダー塾に参加して、刺激を受け、 <b>自発的に周りの人のために行動することができる</b> ようになってきたと思う。
自分は自分、他人は他人の考え方があるということをより意識するようになり、 <b>相手の意見を今までより理解しよう、尊重しようと思うようになった</b> 。また、なんでもとにかくやってみよう、という気持ちも強くなった。
今やるべきか、悩んだらやる。やるからには楽しもうと思うようになりました。また、 <b>人のために何かしたい、人のために働きたい</b> と思うようになりました。自分の人生なんだから、自分らしく生きていこうと思いました。
今までは大学に行くことを目的に勉強していたが、参加後は大学で何をするのか、それを将来どのように活かすのかを考えたくて <b>大学に行くことの意義を見出す</b> ことが出来るようになった。
どんなことも前向きに捉え、 <b>何事にも挑戦しようと思う</b> ようになった。
リーダー塾では <b>寝ること・食えること・頼る</b> ことも学びました。疲労がたまると人間は何もできないことに気づいてから、しっかり睡眠とご飯はとるようにしています。人を頼らず全部自分でやろうとするのをやめて、 <b>周りをもう少し信用して頼る必要性</b> を実感しました。
今までは、組織を無理にまとめようとするとうまくいかなかった。しかし、合唱の練習を通じて、自分たちが合唱リーダー達に対して抱いていた不満を改善点として伝えることで、より良い練習になっていったことが印象的であった。そのため、 <b>不満は改善点やその人たちのやる気の裏返し</b> であると捉えるようになった。
自分の将来の夢について、またそれを実現するために今何をしなければならないかという点で、 <b>自分にはなかった考え方</b> を得ることができた。
参加する前の私は <b>井の中の蛙</b> だったと実感できました。世界への視野の広がりに加えて、どんなに大きな夢や希望を抱いてもいいんだと実感しました。
今までは、自分にはどうせ出来ないだろうと思って物事を始める前に諦めてしまっていた。けれどリーダー塾に参加して、 <b>どんな事にも挑戦してみよう</b> と思えるようになった。
私たちが当たり前だと思っていることに対して、 <b>本当にそうなのか疑問を持つ</b> ようになった。興味があることは変わらず、大学進学に向けて、より <b>自分の考えを深めていこう</b> と思う。
どんな些細な話題でも、様々な視点から物事を考えて自分の意見を持っている仲間の姿勢がとても印象的だった。今まではただ単に新聞やニュースを見るだけだったが、今では <b>見た上で自分の意見を持つ</b> ようになった。
リーダー塾の共同生活の中で <b>集団で何かをする楽しさ</b> を学べたと思う。共同生活は自由を制限するものだと思い込んでいた自分にとって、リーダー塾は <b>多動的になることでより一層深まる絆</b> があることを気づかせてくれた。

#### (4) 塾生の今後の課題

2週間を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。

##### ・相手を思いやる心

今回、それぞれのリーダー職を決める時には積極的に立候補があり、多くの塾生がリーダーというものを意識して行動していた。塾では、塾生が自分達でリーダー塾期間中の生活を自分達で進めること(自治)が出来るように委員会制度を設けている。全員が「学級委員」「施錠・防災委員」「会場委員」「掃除委員」「食事委員」「洗濯委員」「入浴委員」「保健委員」のいずれかの委員として活動する。各委員会では、委員長、副委員長を中心に、空き時間に自主的に委員が集まり、食堂での効率的な配膳や適切な鍵の管理、限られた時間で洗濯をするための工夫などを話し合い、着実に実行していた。例えば、自ら前に立ち聴講態度についてアナウンスする、他の利用者に迷惑をかけないように洗濯の制度を自分達で作るなど自治のために力を注いでいた。

しかし、自分の職務以外に関して相手のことを考えず、洗濯や食事を円滑にできないことを委員長のせいにしていたり、合唱に関しても協力をしない塾生がいたことは残念であった。そのため、リーダー職に就いていた塾生の中には期間中に皆をまとめることの難しさを感じ、ひとりで悩む塾生もいた。あるクラスでは涙ながらにリーダー塾に参加した覚悟や理由、リーダーを務める不安を話したことで一致団結したクラスもいた。今回は前述の通り個性あふれる塾生が多くいたが、全ての塾生が毎回リーダーになれるわけではない。しかし、全ての人がリーダーの視点というのは持つことが出来る。「もし自分がリーダーであれば彼より出来るのに」という思考回路ではなく、「もし自分がリーダーであれば困ることは何なのか」と相手のことを考え、先回りして行うことが大事である。相手のことを考えることから人間関係は始まる。相手を思いやり、行動している塾生が後半になるにしたがって見えてきたため、この経験を活かし、学校や将来所属する先でもチームを表裏どちらからもマネジメントできる人になって欲しい。

##### ・体調管理

今年度は例年以上に序盤から体調不良者が続出した。九州という土地の酷暑や睡眠不足もあるのだが、多くは、慣れない環境やクラス運営における人間関係など精神的な要因によるものが多かった。例年と同じく「カリキュラムを詰め込み過ぎる」「睡眠時間が短い」などの意見が多数見受けられた。確かに、カリキュラムの突然の変更や他の団体との兼ね合いによる食事時間の変更などがあったが、基本的には規則的な生活ができる様な配慮はしてある。将来、海外に留学したら授業までにこなす課題は、この比ではない。世界に飛び出して世界の同世代と伍して生きていくには、相当、自分に対して厳しくしなければ、自分のことは愚か、他人の上に立つリーダーにはなれない。

また、睡眠時間については塾期間中に「同室者が寝ていない。ライトをつけている人がいる」などの声があり、学生リーダーや事務局員による見回りを実施することになった。これは、本来、自治をしている自分達の中で声をあげ、お互いを注意するなどの方法がとれたはずである。多くの塾生が体調を崩している中、自分が体調を崩さなければ良いのだろうか。前述の通り相手のことを考えることから人間関係は始まる。また、リーダーとしてだけでなく、体力面、精神面の充実は社会で活躍するために必要なものであり、基本的なものである。

体調を崩してしまった者には自分の限界や足りない所を知る良い機会になったであろう。一方、体調は崩さなかったものの、周りに体調不良者が多かった者は自分の行動をもう一度振り返って欲しい。

健全な精神は健全な肉体に宿る。体力増進を図ると共に、相手を思いやる気持ちを持ち、自分の体調をコントロールできるようになって欲しい。

## ・計画性

塾期間中だけではなく、塾前、塾後はべ切を設けている宿題や提出物というのが多くあった。

塾前には、事前課題。塾中はみそ汁コンテストのプログラムの決定、アジア・ハイスクール・サミットの発表、合唱、オリジナルネッピーの製作など。事後には講義レポートやアンケートの提出を求めた。しかし、どれも締め切りを守らない、本番までに間に合わないなどの塾生がいたことは非常に残念である。

まず、事前、事後の提出物に関しては、日頃使い慣れないデジタルデバイスによるものであったり、学校生活や部活動、受験勉強の合間に行なうということで、忙しい中での提出となる。しかし、それは理由にならない。社会に出るにあたって同じことである。果たして、社会に出た後に納期やべ切に遅れることがどれほど周りに影響を与えるのか。一つの締め切りを守らないことで大きな損害を出してしまう事がある。勉強をしているから、家族の問題があるから、初めて使うソフトだからなどの理由で認められるものではない。自分の置かれている環境、状況を含めて求められているものをどうマネジメントするか。そこをしっかりと予測し、考えながら取り組む必要がある。特に、遅れている塾生の中には、事務局からの連絡にも出ず、最終的に保護者に電話するという案件も多くあった。もう一度、締切や約束の大事さを考えて欲しい。

塾期間中のスケジュール管理に関しても同じである。塾期間中には実際、停電による急な予定変更や、アジア・ハイスクール・サミットを改めて考えてもらうために開催したりハーサルの実施などの予定変更を行なってきた。塾生からは「こんな変更聞いていない」「何故変更するのか」などの意見が出た。その気持ちも分かるが、塾期間中だけでなく、他のことにおいても全て予定通りに行くことの方が少ない。議論をする中で着地点を考え、まとめていく、どんな状況にも対応できるように余裕を持ってスケジュールをマネジメントする事が必要である。

今回、多くの予定変更や締切、提出物の多さに驚いた塾生もいるだろう。しかし、どの事項に関しても、基本的には余裕を持って取り組めるように設定している。遅れは相手に対しての甘えである。しっかりと今回の自分のスケジュールリングを振り返り、今後に活かして行ってほしい。

ここまで、敢えて厳しい言葉を用いているが、どの塾生も、事務局や担任、学生リーダーが注意すると素直に話を聞く塾生が多かった。誰も間違いはあり、失敗することもある。失敗自体は問題ないのである。次をどうするか、塾生たちには何が足りなかったのか、今の課題は何なのかを考えて欲しい。現状に満足せず、リーダー塾での経験を活かし、より広い世界で羽ばたいてほしいと考えている。

## 卒塾後の活動

---

卒塾してから約1ヶ月後、塾生とその保護者、学校の担任の先生を対象に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。(詳細は59ページ以降を参照)

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。特にユニークだったのがLINEなどのSNSを使ったグループトークでのディスカッションをしているという報告であった。以前より全国規模で活動を行ないやすくなっていることを感じさせた。

その他にはアジア・ハイスクール・サミットの際に話していたというNPO団体の立ち上げを進める卒塾生や、学校などでの発表や企画を学校に直接依頼に行く卒塾生、今まで関わる気もなかった学園祭や体育祭に関わってみようと一歩踏み出す卒塾生、取り組みに大きいも小さいもない。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりととらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、これら卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

## 【リーダー塾報告会】

リーダー塾のレポートを仕上げ、 <b>全校生徒の前で発表した。</b>
学校と愛媛青少年センターで、 <b>リーダー養成塾についての発表</b> を行いました。
学校で放課後の時間を使わせてもらって、 <b>希望者の人達に向けてプレゼン</b> を行いました。
来年度の学校の講義に武藤先生をお呼びするために、 <b>全校生徒・全教員の前でプレゼン</b> を行いました。
自分の高校で、 <b>事後報告会</b> を行い、 <b>来年自分の高校から参加者ができるように呼びかけた。</b>
学校でパワーポイントを使った <b>リーダー塾に関する発表</b> をした。

## 【アジア・ハイスクール・サミットの発展的活動】

アジア・ハイスクール・サミットの時、宗像市の小学生に行ったプレゼンテーションを <b>地元の小学4～6年生を対象に行う予定。</b>
アジア・ハイスクール・サミットで出た意見などを <b>学校で発表し、ディベート</b> を行った。
アジア・ハイスクール・サミットでのテーマを基にした <b>英語弁論</b> に出場予定。
15期生77名で <b>NPO団体設立を考えている。</b> 具体的な内容としては、外国の平和教育と日本の平和教育の違いを伝え、その上で日本がこれから取り組むべきことについて講演会を開くことである。

## 【学校活動】

今まであまり関わってこなかった文化祭の準備に <b>積極的に顔を出す</b> ようにした。
実行委員長（生徒会長）として学校の文化祭に携わりました。 <b>去年は行えなかった、3学年のクラスTシャツ作成、</b> 周りの声により、 <b>文化祭の名前を変えました。</b>
自分の学校をより生徒たちが過ごしやすい学校にしたいと思い、 <b>生徒会長選に立候補しよう</b> と思っています。
放送部として今後「 <b>昼のラジオ放送</b> 」を学校内で行いたいと思い、 <b>企画を始めた。</b>
生徒会で <b>学校初の運動会を企画・運営</b> した。
リーダー塾のつながりで参加した福岡生徒会連盟会で上がっていた情報のオンライン化を受け、学校の生徒会に <b>アジェンダのオンライン化</b> を提案した。福岡県を中心に活動する <b>学生団体の副代表</b> に就任した。
中学生に勉強を教えるという学校の活動の管理、計画などを担当する <b>進路委員会の委員長</b> になりました。また、私も講師として参加する予定です。
学校で行っているGLE (global leadership education) という本校高校生だけで世界の一流アーティストを呼んでコンサートを企画運営する <b>イベントの実行委員</b> を務めた。
自分の住んでいる市が行なっている環境改善への活動について気になり、 <b>市役所に行って話を聞きに行った。</b> それをまとめ、 <b>学校の英語の授業のディスカッションの議題に持ち込みました。</b> そして、提案された <b>改善案を市役所にもっていきました。</b>
学校で行われる外務省の方々との <b>座談会への参加。</b>
自分がリーダー塾で学べた「 <b>人との関わり方</b> 」共同作業を楽しくすることでみんなの <b>生徒会のイメージを変えていった。</b> 自分がリーダー塾で変わったことで、自分の学校の生徒会の空気も変えることができました。生徒会運営の文化祭は生徒会みんなで意見を出し合い本当に充実したものになった。
<b>ペットボトルのキャップを集めて寄付する活動</b> を、同じ学校のリーダー塾15期生と一緒にはじめようとしている。

## 【ボランティア】

小学生対象の地域のイベントで、 <b>スタッフの手伝い</b> をした。プラバン製作と組み木製作のイベントで、会場準備の手伝いや作り方を教えたりした。
---

「Students Challenge Project」という <b>学生団体を立ち上げました</b> 。今後は高校生のスポーツフェスティバルなど、交流できるイベントを計画しています。
地区公民館で行われた <b>小学生向けのワークショップの手伝い</b> をした。講師の先生の接待をしたり、会場作り、小学生のサポートをしたりした。
p pバンドを使ってプラカゴ・収納トレイの販売、コースター・小物入れ作り体験を行ない、 <b>収益を寄付した</b> 。
交換留学生を対象に、家で <b>和菓子作り体験教室を開いた</b> 。
私が所属する <b>ボランティア団体の活動に積極的に参加するようになりました</b> 。来年度はリーダー塾での経験を生かし、 <b>役員として活動していく</b> 予定です。
<b>最寄り駅の清掃活動</b> に参加した。
病院で <b>英語を教えるボランティア</b> を実施。
北海道胆振東部地震の <b>地域ボランティア</b> に参加した。

### 【自己研鑽】

現在は、物事を考えるために必要な知識、教養を深めるため、 <b>日々の学習改革</b> をしたり、 <b>新聞を読んだり</b> しています。
英語力のUPと多様な知識を得るために、 <b>英語ディベート大会</b> に出場。
<b>JICA主催のイベント</b> に参加した。また、地域のことについてもっと知ろうと、 <b>地元の大学の公開講座</b> にも参加した。
ビジネスプランコンテストの <b>企画・進行</b> 。

### 【講演会、ディスカッション】

<b>講師の武藤杜夫先生の講演の企画</b> を学校に提案した。
<b>LINEの通話機能</b> で塾生とディスカッションをしました。これは、今後も定期的に行う予定です。
<b>SGHのシンポジウムのプレゼンター、東進衛星予備校 安河内氏とのパネルディスカッション</b> パネラーを務める予定です。また、企業の協賛を得て、福岡市長選挙に向けて <b>若者が参加できる政治討論会開催</b> の予定でもあります。四月に、代表を務めるボランティア団体が、 <b>福岡市長模擬選挙を主催</b> する予定です。
学校のクラスで <b>今後の方針についてディスカッション</b> を行いました。小グループに分かれてディスカッションをし、クラス全体で討論会をしました。私はリー塾で培った意見をまとめる能力を活かして、小グループの <b>まとめ役</b> になり活躍できました。

### 【その他】

<b>地元のラジオ局の番組に出演</b> して、リーダー塾の体験について発表した。
住んでいる町で小・中学生に向けて平和学習を提供したいと考え、 <b>町の教育委員長に提案</b> した。
自分が所属する高校と近隣高校との交流の一環である体育祭見学の際、これから先も <b>定期的な両校の交流を持続</b> していく事を決めた。その第一段階として、 <b>生徒会での交流会</b> を企画した。
愛媛県枠で、 <b>県下の高校生たちに活動報告や、ワークショップ</b> をした。

## アジア奨学生

昨今のアジア地域の情勢は目まぐるしく変わっている。日本を取り巻く近隣諸国との関係を考えるとき、若い世代の偏見のない関係構築が重要と考え、日本語を勉強しているアジア各国の学生を招聘している。このアジア奨学生制度は2014年にはじまり、今年で4年目を迎えた。今年も、在タイと在中国の日本大使館や在福岡韓国総領事館をはじめ、毎年優秀な生徒さんを快く派遣してくださる海外の学校から多大なご協力をいただき、中国、マレーシア、モンゴル、タイ、韓国から合計11名のアジア奨学生が

来日した。(74ページ資料⑤を参照)

アジア奨学生は各クラス1～2名ずつに分かれ、2週間の合宿生活を通して、日本人学生と共に考え、議論する。例年と同じく今年のアジア奨学生のほとんどが日本語上級者であり、その中でも数年間の日本滞在経験がある者は、むしろ同世代の日本人よりも丁寧な日本語を使う事が出来る塾生もいた。

その一方で、慣れない生活環境や日本語に対する自信の無さにより、塾開始当初はクラスに馴染めず苦心する者も見られた。そんな中、講義やディスカッションで難しい言葉があれば日本人の塾生がサポートし、発言しやすい環境をつくり出していた。塾後半には積極的に議論に参加できるようになり、国を越えた友情が育まれた。

しかし、アジア・ハイスクール・サミットや、日本を取り巻くアジア情勢の講義において、領土問題や難民問題、戦争など、日本と近隣諸国との問題になってくると国の立場から見る印象の違いなどから戸惑う事があったようである。

また、日本のゴミ問題や選挙などのローカルなテーマを採用したクラスでは、アジア奨学生は背景知識の無さにより議論に加わることが難しかったようである。

とはいえ、様々な国の塾生がいることは、日本人の塾生にとってもアジア奨学生にとっても大きな刺激となる。例えば、ある講義において日中関係における問題についてのお話があった。日本と中国の塾生の中には個人同士では仲良く出来ているのに、国家間の問題が起きていることが辛いと涙する者もいた。その後、講義についてディスカッションし、最後には、中国から来た塾生

が「自分が中国と日本の架け橋になる」と発言し、クラスの日本人の塾生はそれを聞いて感動していた。

また、アジア奨学生プレゼンテーションはまだ緊張感がとれていない佐賀にて行った。アジア奨学生の懸命な各国紹介によって、多様性を大切にする雰囲気醸成された。各国の学校生活の紹介では、日本のような部活や運動会がないことが寂しいという発言もあり、日本の高校生にとっては逆に新鮮だったようである。また、質問形式にしてプレゼンテーションするなど、外国語で巧みに笑わせることができるアジア奨学生に一目おいたようである。

アジア奨学生は、2週間という限られた期間の中で、宗像大社での本殿参拝、名護屋城博物館併設の茶室での茶道体験など日本文化を体験し、畳の心地よさや茶室から見える庭園の美しさに感動していた。生活スタイルや食事面で驚いたことや馴染みにくいことがあったようだが、体調を崩すこともほとんどなく、元気に楽しく団体生活を送ることができた。

以下に、リーダー塾に参加したアジア奨学生の感想を掲載する。また、アジア奨学生と2週間を共にした日本人塾生の感想も続けて掲載する。今年のアジア奨学生は、研究者、翻訳家、作家、国連職員など様々な夢を持ち、日本の大学への進学を考える者も多い。このリーダー塾が、アジアの若者同士が手を取り合う一助となっていれば嬉しく思うと同時に、塾として、彼らの活躍をこれからも後押ししていきたいと考える。



▲真剣に調べ物をするアジア奨学生  
(左)と日本人塾生(右)



▲プロジェクターを使いながら説明するマレーシアの学生



▲交流会で歌を披露する中国の学生



▲名護屋城での茶道体験

## ■参加したアジア奨学生の感想など

思っていたより気軽に話せる日本人が多かったです。また、日本人は意外にオープンな性格で、**仲間をすごく大事にする**という点に驚きました。アジア・ハイスクール・サミットでは、自分の考えだけでなく、**他人の考えも取り入れる大切さを知りました。**

これまで私はマレーシアのことしか考えていませんでしたが、**リーダー塾を終えて世界が幸せになること**を考えるようになりました。また、私は理系の学生なので、これまで歴史にはあまり興味がありませんでした。しかし、日本で色々な伝統文化を体験したり、歴史溢れる場所に行ったことで、**日本の歴史が好き**になりました。また日本の高校生はみんな優しく、私をたくさんサポートしてくれました。**宗教によりできないことに関して差別せずに理解してくれました。**

日本の高校生は外国人と接する機会が少ないため少しシャイなのだろうと思っていました。しかし、**皆非常に積極的に親切でした。**私は日本の高校生から色々なことを学びましたが、**特に時間を守っていること**が素晴らしいと思いました。

私は問題の解決策を考え出すとき、自分の損得だけでなく、**関係している他人のことも考えるようになり**ました。これは塾でのグループ行動や集団生活のおかげだと思います。また、ディスカッションの際、様々な意見やその意見に対する反論などを素早く交わされていたので、批判的思考で考えられるようになりました。更に、**自分の意見も批判的思考で考えられるようになりました。**

また、一番興味を持ったのは世界平和の維持です。そして、映画鑑賞や落語にも興味を持つようになりました。更に、他のアジア奨学生と接することで、モンゴルや韓国などにも興味を持つようになりました。

様々な国の友達と出会って**世界を見る視野が広くなりました。**

まず、講義を聞いて様々な分野に興味を持つようになりました。また、塾では理系の学生が多く、**私が専攻したい分野（航空宇宙工学）についての話も出来て刺激を受けました。**他にも様々な国から来た友達と話して**他の国の言語に関心が増えました。**

もっと積極的に自分のアイデアや考えを他人に伝えることが出来たのではないかと思います。

塾を通して**思考することやディスカッションが好きになりました。**前夜祭も大変盛り上がり、楽しい二週間を過ごすことができました。

**日本の高校生は純粋だと感じました。**リーダー塾を卒業し、将来は世界中で医者ボランティア活動をするなどの、**人のための仕事**をやりたいと思っています。

塾を通じて**物事をより多面的に深く考えられるようになりました。**また、自分の意見を出して、みんなと議論することも大切だと感じました。日本人は思いやりを大切にしていると感じました。塾生の質問や特技を披露するのも、なんでも積極的にやっている姿が良いなと思いました。

日本の高校生はとても親切だと思います。私は皆を見て**本当に世界はこれからも発展することができる**と信じるようになりました。そして、私自身、色々なことを勉強でき、**将来のやりたいことが明確になりました。**自信がないことでも、自分の夢を実際に叶えられるように頑張りたいと思います。塾が教えてくれたことは、**将来の意思決定の判断に役立つ**と思います。

**先入観で物事を決めなくなりました。**

日本の高校生は少しシャイかなと思ったけれど、みんなフレンドリーで、とても優しいかったです。また、思いやりの心がすごいと感じました。塾を通して**もっと世界や他の国と関わる仕事がしたい**という思いが強まりました。

## ■アジア奨学生と過ごした日本人の塾生の感想など

母国語ではない日本語を自分なりに一生懸命話す姿は素敵で、私も英語を話せるように少しずつでいいから頑張っていこうと思いました。たくさんのいい刺激を私たちに与えてくれていたので、これからグローバル化の世界になっていくにつれてアジアの方とも関わる機会が増えてくると思うけど、一緒にある問題について議論したり、目的を達成するために**切磋琢磨するのが楽しみ**になりました。

日本は、十把一絡げに何でも大きくとらえるところがあり、中国のこんなことがいけないから、中国人はみんな悪いと考える人が少なからずいる。リーダー塾で、アジアの学生と一緒に過ごしたことで、**国と国とが仲が悪かろうが、よかろうが、人と人の仲というものはしっかり築いていける**ということが分かった。リー塾の経験だけで、**アジアにはこんなにも面白くて、優しい人がいるんだ**と思った。

僕は特に中国からの留学生と関わる機会が多かった。リーダー塾に参加する前は中国に対していいイメージを持っていなかった。しかし2週間関わる中で、非常に優しく面白い一面を見ることができた。その子のおかげで**中国に対するイメージがとてよ良くなった**とともに、**中国が非常に近い存在になった**。

**一番驚いたことは、イスラム教徒の生活**です。いつもスカーフを被って、お祈りもしていた。イスラムはISというイメージがあったから始めは何となく怖かった。だけど、**関わっていくうちに人柄が好きになった**。

ディスカッションのときに、ある時、中国と日本の関係について話をしたとき、泣いていたにも関わらず、最後の日には、**笑顔で日中関係を良くしたいと言ったあの言葉が忘れられません**。中国人の女の子と過ごした2週間は、大切な思い出になりました。

どこが良い、悪いとかではなく、**それぞれでいいと思った**。その国の伝統などを受け継ぎながら、世界が1つになっている。言葉で表しにくい困難もそれぞれであるが、良い部分もあって日本と比べる必要はないと思った。

日本語がとてようまく、**すでにトリリンガル、マルチリンガルな人もいて驚いた**。韓国の南北問題や中国の貧困格差など、**自国への問題意識は日本人よりも大きいよう**に感じた。想像以上に日本への興味関心が高いということも感じた。

私は、潜在的に中国に対して上から目線で見たいのだと気づきました。他のアジアの国々に対してもそういう意識を持っていたのだと改めて気づいたのです。リーダー塾での2週間は、**私からアジアの国々に対する偏見を完全に**取り去ってくれました

1番驚いたことは、**言語を習得するということ自体をそこまで難しい事と**とらえていないことでした。実際に日本語・英語、その他の言語まで習得している留学生がほとんどで、**高いモチベーションの姿勢に感動**しました。自分自身が**他の言語に対し、知らぬ間に壁を作っていたんだ**なあと気付かされました。

## 7. 塾を支えるスタッフについて

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらいたためである。クラス担任は、協賛企業などが毎年、派遣してくださっている。今年は、20代～50代までの年齢も職種も多種多様な16名の社員で構成された。塾生は8クラスに分かれており、前半後半のそれぞれ一週間受け持つ。クラス担任は日々の講義や議論の指導だけではなく、健康管理を含む生活面の指導や進路の相談にも乗っていただいている。

そのクラス担任を支える主に卒塾生からなる大学生や大学院生の学生リーダーは、高校生である塾生にとって年齢も近く、すぐ先のロールモデルとして身近な存在であり、塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在である。今年は、昨年より学生リーダーの数を増やし、これまでは各クラスに1名の学生リーダーを配置していたが、サブの学生リーダーも加えて、2名のリーダーで1クラスを担当した。



また、短期でのお手伝いは、卒塾生を中心とした高校生、大学生が参加してくれた。短期お手伝いは、原則として交通費も宿泊費も支給されない完全なるボランティアである。初日の空港や駅での塾生のバスへの誘導や、事務作業など、塾生が気づいていないところで活躍してくれた。

その他、塾期間中、塾生や講師の送迎を担当して下さった福岡県の皆様、受付などのお手伝いをして下さった宗像市の皆様、佐賀フィールドトリップの間に対応して下さった佐賀県の担当者の皆様、またその他の参画県の皆様や、選考面接や夢ディスカッションなどでご協力いただいた過去のクラス担任を中心とした各企業の皆様にも心から感謝したい。

ここでは、2週間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて詳しく述べたい。

クラス担任と学生リーダーは、リーダー塾が始まる1か月ほど前に、本番と同じグローバルアリーナにて1泊2日の事前研修を行った。今年は過去にクラス担任として活躍して下さった経験者も招いて、塾に参加した感想や問題が起こったときの対処方法のアイデアなどを共有して下さった。



▲事前研修の様子

# クラス担任

## (1) 概要

担任の先生は、各協賛企業を中心に各社の中堅クラスのリーダー格の社員を送ってくださるので、安心して塾生をお任せしている。今年の派遣企業は、下記の通り。

### ■クラス担任派遣企業（五十音順）

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校
株式会社 NTT ドコモ
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
九州電力株式会社
株式会社ぐるなび
佐賀県
株式会社正興電機製作所
株式会社特殊高所技術
株式会社ふくや
株式会社ミズ
三井住友海上火災保険株式会社
三井物産株式会社
株式会社南福岡自動車学校
ヤマト運輸株式会社
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

クラス担任の先生方には、一クラス約25名の塾生を担当していただいた。先生方には、事前研修にて塾中に想定される問題をケーススタディーとして考えてもらったこともあり、塾期間中も慌てることなく、独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。なるべく教えすぎず、塾生に考えさせてほしいという指導方針を伝えていたため、方針に沿って、各人の社会人経験から指導方針をお任せした。

塾生にとっては、親や学校の先生以外の大人から日々指導を受ける機会はない。中には、大人に対してあまり良いイメージをもっていなかった塾生もいたが、クラス担任の姿を見て、「こんな素敵な大人もある」と感動し、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多い。

また、クラスにアジア奨学生を1～2名配属したが、今年のアジア奨学生の日本語のレベルはとて高く、講義も8割以上理解していたため、担任の指導もスムーズにいった。

クラス担任には、卒塾後にも様々な相談や報告があるようだ。塾直後には、クラス担任に「リー塾ロス」「〇〇組ロス」というような内容のメッセージが大量に送られてきたようである。それくらい、2週間を密なものにくださった「影の立役者」であるクラス担任の役割は大きいと改めて感じた。

クラス担任の感想は、次ページの通り。



▲塾生と一緒に講義を聴講するクラス担任



▲塾生からのメッセージTシャツをもつ担任（左）



▲クラスで自己紹介をする担任



▲キャリア教育をする担任

## (2) クラス担任の感想とクラス担任についての塾生の感想

### ■クラス担任の塾を通しての感想

<p>幼くマナーの面では目につくことが多かった印象ですが、根は素直な塾生ばかりなので成長が感じられて、教え甲斐がありました。アジア留学生はイベントなどには消極的になりがちでしたが、強い信念をもっておりそれがまた日本の塾生の刺激となり、良い相乗効果だと感じます。</p>
<p>事前の情報ではエリートが集うということで私も緊張しておりました。実際感じたことは全員素直だという前提はありますが、「高校生らしさ」という面です。特筆すべきそれは、話を聞かないことです。ただし学生リーダーがよくサポートしてくれ、クラス運営への影響は最小限でした。アジア学生が1名だった事もあってか、多様に触れさせる機会を作りきれなかったことは残念でした。言語の壁もあって、大人が誘導しないと自然なコミュニケーションを作れなかったと感じます。</p>
<p>考え方について、非常にしっかりしている一面、全体を通してみると高校生はまだまだ子供で、知らないことが多いというのを実感しました。</p>
<p>事前に、とても賢くてハイスpekな高校生たちだと聞いていましたが、実際に会ってみると、能力やポテンシャルはもちろん高いのですが、意外と「普通の高校生だな」と思うことも多かったです。例えば、食器を片付けないまま時間ギリギリまでしゃべっていたり、スケジュールを自分で確認せずに「次何時ですか?」と聞いてきたり…。</p> <p>しかしその分、高校生はとても素直だと感じました。こちらが全力で向き合えば、向こうも全力でぶつかってくる、そんな強いエネルギーを感じました。</p> <p>アジア学生につきましては、2人ともある意味で日本的と言いますか、あまり自己主張が強くなく、集団に溶け込むタイプだったからか、日本人学生との大きな違いは認識できませんでした。同じように未熟で、素直で、だからこそポテンシャルの高い学生でした。</p>
<p>塾生については、モチベーションの高い塾生と遠慮気味な塾生と両極端だったように思いました。性格やモチベーション、価値観等バラバラでしょうから大人しい塾生は、自分を出すのは2週間ではまだ足りないスロースターターであったと思います。もう少し一人一人と向き合う時間があれば・・・と感じるほど個性的で魅力的な塾生ばかりでしたのでもっと時間がほしかったです。</p> <p>生活態度は、先見性のある優秀な塾生がそろっている集団でしたので、集団行動はしっかり守れていると感じました。</p> <p>一方で体調管理については気になりました。病は気からという言葉があるように“意識づけ”を追加するともう少し体調不良者は減ったのではないかと感じました。</p>
<p>すごく優秀な子ども達で、私が教えることがあるのかと不安に思っていました。しかし、実際に接してみると意外にふつうの純粋な高校生だなと感じました。また、素直な学生が多かったように感じました。生活面などでできていないことがあっても、一回やさしく注意するだけで、すぐに改善されていたと思います。</p> <p>私が学生時代から日本人以外の友達と接することが多かったせいか正直、アジア学生と日本学生に違いは感じませんでした。素直で賢い子が多く、持っている知識を、みんなで話したり、学生リーダーや担任の一言で応用させて自分たちで答えを作り出して行っている姿に感心しました。</p>
<p>選ばれた高校生が参加するので、自己主張の強い子たちの集まりだと思い込んでいました。</p> <p>しかし、周囲の変化にも敏感で、自身に取り入れる能力も早く個性は強いが根っこは素直な塾生ばかりだと感じました。</p>
<p>自分が高校生以来、高校生と接したことは無かったため当初は接し方が不安でしたが、特に考え方や態度に今時の高校生という違いは感じませんでした。塾生は知識が豊富で、係決めや発言など何事にも積極性を感じました。</p>

優秀。多才（特に語学）な塾生が多いと感じた。議論に慣れていないので傾聴したり自分の意見をわかりやすく主張したり、ぶつかることを恐れて避けたりしている塾生が多かった。
全体的に優秀、とは感じましたがやはり年相応の幼さも良くも悪くも見えました。
高い志を持ち、話をしている気持ちの良い塾生ばかりだった。
生徒は非常に素直でセッションに取り組む姿勢も一生懸命であり、とても素晴らしかった。

## ■クラス担任の指導方針

担任がそれぞれ、悩みながら、工夫をし、全力でご指導にあたってくださった。

リーダー塾に参加した目的を常に声かけをして忘れないようにしていました。ただの友達作りの場でないことを認識させて、目的意識を持たせることで充実した2週間となるように心がけました。アジア学生は孤立しないように、声かけを積極的に行い1人の時間を少なくして、より周囲の人と交流する場を設けるようにしました。
前半後半のクラス担任及び学生リーダーで裏の行動指針（3つ）を事前に用意しました。加えてクラス運営コンセプトを塾生と共有することで短期間のチーム化はできたと思います。アジア学生に関しては、塾生の中に気遣ってくれる子がいたため、特に担任から気を遣う局面はありませんでした。加えて、目先の課題に向き合うことで本来の目的を忘れてしまう事がありましたので、都度問いかけることで軌道修正できるように気をつけていました。介入しすぎないことは私の中でもよい経験になりました。
全体：食事や移動時間なども含めてなるべく塾生との会話を増やすように心がけていました。あまりトラブルを起こすこともなかったので叱るようなシーンは余りありませんでした。 アジア学生：ムスリムの塾生は色々なケアが必要でしたが、前半終了時にはかなり手がかからなくなって成長を感じました。
塾生はひとりひとり違うということ意識しました。一口にリーダーになりたいと言っても、それぞれの目指す姿やアプローチの方法は違いますので、画一的な指導にならないよう配慮しました。 アジア学生については、環境に対してストレスを抱えたり、孤立したりするような様子はあまり見受けられなかったため、言語によるディスアドバンテージをサポートすること以外はあえて特に区別していません。
食事の時間を利用して、生徒の話をゆっくり聴くことを重要視していた。普段の学校の話や講義の感想、アジア・ハイスクール・サミットの悩み等聞くことができ非常に良かった。特にアジアからの生徒に対しては定期的な声掛けを実施。何人かの生徒が常に周りにいてくれて、気を使ってくれたので非常に助かった。後半も朝の散歩やラジオ体操等を取り入れて、少しでも体調を崩しにくい仕組みを取り入れても良いのではないかな。
アジア学生は、むしろ日本人よりも日本人のような塾生ばかりでしたので、まったく気をつかいませんでした。日本語だけでなく日本国や日本人をととても深くインプットしていて塾に参加する目的や意義が明確で彼らから学ばせてもらうことの方が多かったです。 塾生指導の課題や問題点は特にございませんが、提案としては、学生リーダーのポジショニングをもう少し明確にした方が担任もクラス運営や進行の計画をたてやすいと感じました。私の認識としては、学生リーダーは、クラス内のパイプ役として配置していると考えておりました。しかし、担当クラスはあるもののクラスごとの行事にほとんど出席できておらず、塾期間中関係（ロジ、クラス運営）が取りにくいこともありました。事務局運営サポート優先なのか、クラス運営サポートが優先なのか、学生リーダー本人も把握できていないように感じました。

<p>健康面に一番気をつけました。個人個人で食事の量、運動量、体力などのバロメーターは違うので、その管理はかなり難しいなと思いました。強制するのではなく、自己管理で本人に任せてもいいのかな？と思いました。(集団生活であるとある程度基準をつくって当てはめるようにしないといけないうのかもしれませんが・・・) 指導方針というほどのものは正直なく、自主性にかなり任せて最低限(時間を守る、けがをしないさせない)だけ徹底するように伝えました。</p>
<p>「私は察しの悪い大人ですから」と最初に宣言して、どんな小さなことでも自分から発信してもらうようお願いしました。(もちろん体調面は除く)そして答えはあげない、を心がけていました。改善点をあげるとすれば、スケジュールに塾生の委員会活動も日々入れるべきかと思いました。委員会はクラスをまたいでいるため HR とは別で時間を見つかなければいけないにも関わらず、合唱練習やお風呂の時間、点呼が…等。PDCA のサイクルが破綻していると感じました。計画通り進まず、改善されないままひたすらやっている委員も前半では見受けられたので、生活面を支える委員会の振り返りの時間をとって良いと思います。</p>
<p>立ち入らない。聞かれたりしない場合は基本的には対応しないようにしていた。</p>
<p>赴任後まもなく自分で考えることのできるクラスであると感じたため、基本的にはあまりクラスの決定に関しての介入はしていません。学生主導でよく回していったと思います。</p>
<p>介入しすぎないように、気を付けました。次どこで何があるか聞かれても、特別な変更がない部分は自分で調べさせるようにしました。</p>
<p>初日および2日目ははじめは日本人同士でまず仲良くなって、少し心配しましたが余裕が出てきた子からどんどんアジア奨学生に話しかけてくれたので、特段配慮することはありませんでした。</p>
<p>塾生の意思を尊重。極力指示しない。</p>
<p>①返事をはっきりすること②時間厳守③友達を中傷しないこと、それ以外は事務局で禁止されている事以外は自由としました。</p>

## ■塾生のクラス担任についての感想

<p>私たちがディスカッションなどで困った時に、もう一度冷静になって何をすべきかを考える機会を与えてくださったので、とても奥深いディスカッションをすることができました。</p>
<p>キャリア教育の時間で、自分の人生を振り返ることで、その時は辛かった出来事でも、今となっては必要不可欠な出来事だったということを感じることができました。人生に無駄なことなんて何もないんだと思いました。これからも色々なことに挑戦して、頑張っていきたいと思います。</p>
<p>リーダー塾のクラス担任の先生は、私たちが高校生、子供と認識せず、一社会人だと思って、分け隔てなく私たちの可能性を信じてくれる人でした。学級づくりの中心を常に塾生に置いていたところがよかったです。</p>
<p>自分の経験談を多く話してくれた。あまり馴染みのない「働く」ということが、先生の経験を聞くことで少し身近に感じるようになってよかった。一番印象に残っているのは、ディスカッションが行き詰まりった時に、一言先生がアドバイスをしてくれたこと。言葉は本当に少なかったけど、的確な指摘をしてくれて私達が自主的に動けるように導いてくれた。</p>
<p>クラス担任の先生は、塾生のことを信頼してくれていて、基本的に自分たちがやりたいようにやらせてくれていた。一人一人のことを把握してくれ、信頼してくれていた。佐賀にいたときの動画を作成して発表するとき、自分たちのクラスはスムーズに動画を作成することができずに、時間内に完成させることができず、他のクラスに迷惑をかけてしまった。そこで先生が私たちが叱ってくださり、時間の大切さ、社会に出たら、時間を守るのは最低限のマナーということを教えてくれたのが印象的なエピソードです。</p>

<p>リーダー塾の先生は<b>塾生が考えることを第一とされた</b>ので、自分で考えることによって得られるものが多かった。塾期間中のクラス内での問題が起こったとき、<b>ただ叱るのではなく、問題が起こったことに対して何が原因だったかや社会でのルールなどについても教えてくれ</b>、どうしたら改善するかは自分達で考えるように言われた。</p>
<p>アジア・ハイスクール・サミットのときは、<b>一緒になって悩んでくださり</b>、的確なアドバイスをくださって、とても頼もしかった。また、担任の先生方は経験が豊富なので、<b>他愛ない話でも為になることが多かった</b>。</p>
<p>先生というよりかは、みんなのお父さん、お母さんといった感じで、<b>私たち一人一人のことをよく観察して下さっていました</b>。学級委員だった私には、クラスをまとめる為に必要なことも教えてくださり、とても尊敬できる方々でした。後期から始まるアジアハイスクールサミットでは、少数派の意見を持つ人が孤立しないようサポートすること。話し合いが行き詰まった時は、時にはリーダーが道を決めてしまうことも必要だということ。ホームシックになっている人を気にかけること。<b>リーダーとして必要なたくさんのお話を教えていただきました</b>。</p>
<p>転職のことや大学生活のこと、家庭と仕事の両立などの話を聴けたのがすごく良かった。<b>将来私も先生たちみたいに働くんだけ、と実感が湧いた</b>。</p>
<p>後半のキャリア教育で、<b>リスクマネジメントについて教えてくださった</b>ことが印象に残っています。この話は難しい話だったけど、身近な例を用いて説明してくださったので、とてもわかりやすく、なおかつ<b>保険会社で働く先生ならではの授業だな</b>と思いました。</p>
<p>ずっと私たちのことを見守っている感じでした。特に、ディスカッションは、本当に困った時や、質問した時にだけ、ヒントや答えを出し、それ以外は口出しをせず、<b>自分たちの力で乗り越えることの大切さをすごく感じました</b>。担任の先生は安心感があり、私たちの考えや行動を尊重して、<b>間違えそうな時、間違えた時に教えてくれる、というある種の線引きが、自分の成長にも繋がるのではないかな</b>と思いました。</p>
<p>「高校生から学ぼう」という発言を聞いて、私も大人になっても、<b>このようなエネルギーのある人になりたい</b>と思いました。</p>
<p>私が考えていることや思ったことなどを、<b>見た目や行動などで判断せず、表情や私の言葉で理解してくれた</b>。佐賀で私が体調が悪かった時、担任の先生とお話しできる時間があつた。私が好きな音楽や、高校で転校した時の話などを話した。<b>その時の辛さや苦しさを聞いてくれ</b>、この話だけは学校の先生には話せないことだったので、<b>気持ちが楽になった</b>。</p>

### (3) 課題

今年はリーダー塾でも働き方改革を行うということで、夜のミーティングをなるべく塾生の就寝時間前にした。そのため、クラス担任の皆様には例年より睡眠時間も多く確保していただけたと思う。事務局と学生リーダーが常に忙しそうにしていたのを見て、「もっと頼ってもらってもよかった」という声もアンケートでいただいた。また、学生リーダーは、運営の雑務に携わることも多く、もう少し担任とペアになって指導する時間があればよかったというご意見もいただいた。

塾期間全体を通して、特に前半に体調不良者が多く出た。後半になると、塾に慣れてきたこともあり、体調があまり良くないという塾生はかなり限られてきた。例年、当塾のような特に危険を伴うわけでもないプログラムを行う場合に、医療スタッフが必要か否かという議論になっていた。塾の理念としては、世界のどこでも生きていけるような逞しさも身に付けてもらいたいと思ったからである。しかし、今年は酷暑ということもあり、熱中症になるなど体調不良者が多く、クラス担任をはじめスタッフの手が取られることから、来年からは看護師に常駐してもらうことを検討している。

# 学生リーダー

## (1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした大学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。今年度はクラス担任と塾生の橋渡し役になりクラス運営をサポートする「クラス担当」と事務局の仕事や録音・音響関係を行なう「全体統括」の2つに分けた。また、クラス担当と全体統括の学生リーダー同士の関係について、例年溝が発生するという事から、全体統括を各クラスの副担当として振分けをし、大きく体制を変更した。今年度は全国から15名の大学生・大学院生が集まった。クラス担当は8名、全体統括は7名の割り振りとした。また、卒塾生が10名、非卒塾生が5名、男性が9名、女性が6名であった。

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に4月に送付した「ニュースレター」に加え、卒塾生交流SNSサイトでも行った。これに加え、大学生のボランティアの募集を行なうサイトなどでも掲示を行なった。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としており、選考は書類審査と電話面接で行った。例年、塾期間が大学の試験期間に重なること、就職活動や卒業論文のスケジュールと被る、学生リーダーの募集期間に夏の予定が把握できないことなどの理由から、応募者が少なく募集に苦慮していた。今年度は卒塾生が集まるタイミングごとに声を掛ける等の活動も行った。そのため募集人数をかなり上回る応募があった。また、例年以上に卒塾生以外の学生リーダーも申し込んでくれ、大学の友人から塾の魅力を聞いて参加を決めた者や、インターネットで募集を見つけた者もいた。

今年の特徴としては、就職活動が終了した大学4年生や大学院生と大学2年生のみであり、お互いがお互いをサポートする姿がとても印象深かった。また、昨年までに学生リーダーを経験したことのある者が1名だけで、その1名も1週間のみ経験であったが、ほぼすべての学生リーダーが初体験という中で率先して動き頑張ってくれた。

学校	性別	学年	卒塾期	担当
大阪歯科大学	男	2年	10期	全体
慶應義塾大学大学院	男	2年	—	全体
九州工業大学大学院	男	1年	8期	全体
金城学院大学	女	4年	10期	全体
関西学院大学	男	2年	—	全体
東京外国語大学	女	2年	12期	全体
宮崎大学	男	2年	13期	全体
広島大学大学院	男	2年	—	クラス
東京学芸大学	女	4年	10期	クラス
早稲田大学	女	2年	—	クラス
東京工業大学大学院 ／清華大学大学院	男	2年	7期	クラス
京都教育大学	男	4年	10期	クラス
早稲田大学	女	2年	11期	クラス
高崎経済大学	男	4年	—	クラス
西南学院大学	女	4年	9期	クラス

▲学生リーダーの所属大学・大学院

## (2) 学生リーダーの役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、以下の4点を重視している。①塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること②スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること③塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと④主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動することである。



▲黙々と前日準備をする学生リーダー

今年度は前述したが、全ての学生リーダーが初めての経験という課題とともにスタートした。しかし、これは、意外と良い方面に働いたのではないかと感じる。初日から、様々な変更点が出て、現場での対応が多くある中、自分だけで判断をせず、しっかり相談をしながら自ら率先

して動いてくれ、素晴らしいスタートを切ることが出来た。また、塾期間が進むにつれ、小さなことは自分で処理し、事後報告を行い、必要な時は事務局に確認してから実施するなどの動きを自分自身で身につけ、塾運営における中核を担ってくれた。

また、例年、塾生と学生リーダーの関係が指導者というより友人関係になってしまっていたという反省点から、採用面接の際から研修、塾中も学生リーダーは事務局側の視点を持つことを繰り返し伝えていた。その視点をしっかり守り、クラス担当の学生リーダーはクラス担任と塾生の架け橋として活躍し、塾生から相談を受けた際は自ら考えさせるなどの姿も見ることができた。また全体統括の学生リーダーはその日のスケジュールを確認し、必要な備品の準備などを行ないながら自分のクラスの生徒の相談にもものっていた。仕事内容に関わらず、塾生との関係に関してもしっかりとバランスをとっており、塾生からは尊敬を集めていた。また、学生リーダー同士も非常に仲が良く、お互いに敬意を持ちながら、相手が何を必要としているかを先回りして考え、行動に移すことが出来ていた。担任と事務局に対しても同じ行動が出来ており、塾運営においてなくてはならない存在であった。

しかし、その一方で精神面の未熟さが見えることもあった。特に後半になるにしたがって、学生リーダー同士、事務局と学生リーダーの間で甘えがあったように感じる。これは事務局としての反省点でもあるが、仲が良くなることによる、行動の粗さ、精神面のもろさが見えることがあった。特に前半は楽しむ時と真剣にやる時のメリハリが出来ていたが、後半になるにつれ、疲れとストレスからか塾生の前において、指導者としての意識不足からくる粗相や、必要な写真が撮れていない、講師の飲み物を忘れるなどそれまで出来ていたことが出来なくなることが目立った。これは、事務局、学生リーダー、担任のお互いの甘えから来ているものである。後半を迎える前に、一旦気を引き締めるなど、事務局としても配慮が必要であったと考える。

また、学生リーダーたちも塾生のことを考え、自分は事務局側である認識をしていたのだろうと思うが、特定の塾生に対して多く対応する行動がところどころ見られた。勿論、個別に塾生に対応する事は必要であるが、他の塾生から見た時、特別視しているのではないかという認識を与えてしまう。行動をすぐに起こすフットワークの軽さを維持しつつ、自分が周りにどのように見られているのかという第3の視点というものを持つ必要もある。

しかし、相手に敬意を持って思いやりながら仕事をしている姿は、様々な塾生にとって身近なロールモデルになったようだ。前述したが、塾生がアジア・ハイスクール・サミットやクラス運営において相手のことを考えながらまとってきたのは、学生リーダーの行動による要素が非常に強い。塾生へのアンケートの中でもすべての学生リーダーが一人一人感謝されていた。また、卒塾生の保護者からも「学生リーダーの素晴らしさについて、こどもが話している姿が印象的だった。ありがとうございました」とあった。

また、目立つ部分だけではなく、会場である武道場と事務局を何往復も走ったり、写真やデータの整理、資料の整理、会議の議事録作成など表に出ない仕事も多い。そのような仕事に関してもしっかりと実施していた。

体力的にも精神的にも非常に大変であったであろうと思う。しかし、辛い時も、苦しい時も彼らが一貫して「相手のために何が出来るか」と考えながら率先して行動したことはしっかりと糧になっている。これから社会人になる中で、彼らがどんな活躍をするのか楽しみである。願わくば、塾期間の姿勢を忘れず、どんな仕事でも一生懸命行う社会人になり、これからも様々な形で塾に関わってほしい。



▲佐賀のクラスごとのビデオ発表では企画・運営を学生リーダーが担当（司会の様子）



▲運営側の視点で塾生にアドバイス



▲卒塾式での塾生との熱い抱擁

### (3) 短期お手伝い

2週間スタッフとして働く学生リーダーのほか、2017年に14期で参加したばかりの高校生から大学院生まで、卒塾生を中心とした多くの方が短期お手伝いとしてサポートをしてくださいました。人手のいる塾初日の空港や駅での誘導や体力勝負のみそ汁コンテストの準備、書類や物品の管理など、事務局員や学生リーダーが手の回らない仕事を臨機応変に対応してくれました。目立たない作業が多かったが、彼らの献身的な働きぶりは、この塾が卒塾生を中心とした多くの方の陰ながらのサポートで成り立っていることを印象付けるものだった。

### (4) 塾生の学生リーダーに対する感想

塾生への事後アンケートから、学生リーダーに対する塾生の感想を紹介する。大学生は高校生と異なり、自分の意志で自由に授業を選択し、一人暮らしやアルバイトを通して家族以外の大人と接する機会も増え、精神的にも大きく自立する時期である。塾生の声からも、あまり年齢の変わらないはずの学生リーダーが、全体を見て、時に塾生を鼓舞し、時に厳しく指導する姿は、「手の届きそうな目標」として塾生の刺激となっていたことが伺える。また、塾生たちは学生リーダーの影の努力もよく見ていることがわかる。

クラス担任の先生が社会で活躍している大人、という存在であるならば、学生リーダーは塾生の私たちと担任の先生の間になつ、**身近に話しかけることができる存在**だったのではないかと思います。自分も数年後、学生リーダーのような存在になりたいと心から感じた。

アジア・ハイスクール・サミットのときに、上手くいかない時は助け舟を出してくださったり、クラスのみんが迷っている時は声をかけてくださってすごく助かりました。印象に残っているのは、哲学の勉強をしている学生リーダーだったので、**哲学的に物事を一緒に分析する**のが楽しかったです。

**クラスを内側から支えてくれた存在**だったと思う。よかった点は一人一人に対して親身になって接してくれ、アドバイスなどをくれた点がよかったと思う。印象的なエピソードはアジア・ハイスクール・サミットの時、クラスの雰囲気少し悪くなり、その責任を感じてか学級委員長が泣いてしまったときに**クラスメイトとともに励ましてくれた**ことです。

塾生が集まった時に積極的に行動しており、所謂**リーダーでないときには気配りや気づいたことはほとんどんやっ**ていくべきだと行動で示していて、毎日講演の度に密かに見習っていた。

**一番近くにいる先輩**でした。楽しむ時は一緒に楽しみ、ディスカッションの時は一緒に悩み、2週間様々な場面で支えてもらいました。学生リーダーの方々から学ぶことも多く、特に、**メリハリのある姿**はこれからの自分の課題だと気づかせてくれました。

感謝していることは、**僕の心の支え**になってくれていたことです。悩んだり辛かったりしたときに親身になって解決できるよう僕らをゴールにいつも促してくれて、近い将来僕らが**目指すべき未来像**が学生リーダーの方々だと思います。

私の話を**聞き、受け入れ、一緒に考え、励ましてもらった**事です。温かい言葉をかけてくれたこと、外のベンチに座り二人で話したこと。本当に最後まで心配をかけ、自分を一番出せ、たくさんの涙を見せたのが学生リーダーでした。みなさんとてかこよくて、頼もしかったです。

アジア・ハイスクール・サミットやグループディスカッションで自分の意見が言えずに悩んでいた時に声を掛けてくださいました。アドバイスをしてくださったことを生かして上手くいくように努力することができました。**ちょっとしたことに気づける**ようになりたいです。

**部活の先輩のような憧れ**であり相談相手であり大切な存在です。私が、落ち込んでいるときや、頑張りすぎていたときにいつも一番に気づいていました。私が、**成長するためにいつも見守っていました**。

## (5) 学生リーダーの感想

学生リーダーたち自身の感想を紹介する。期間中は、疲労の蓄積や精神的な負担から不満を口にする者もいたが、普段接することのない高校生や社会人との生活、プログラムの準備や講師の先生方の対応を通して、多くの気づきを得たようである。学生リーダーには、これからも塾生たちの憧れであり続けるとともに、この経験を自身がさらに成長する糧とし、社会で広く活躍することを願っている。

高校生の未来へ向かう力が、間違いなくこの国のエネルギーだと思った。私は若者が試行錯誤しながら前に進もうとする姿を見続けたいと思った。自分のためではなく塾生のためにと、自分を犠牲にして働くからこそ見える感動や嬉しさがあると思った。

塾生時代に体験した感動の数々は、事務局の方々や担任の先生、学生リーダーの裏での苦勞の賜物だったと実感、体感した。また高校生が2週間でこれほど変われるのかと感動した。吸収力があり、日に日に表情を変えて行く姿を間近で観られたことは良い経験になった。と同時に、自分が塾生として参加してから高校を卒業し、大学生活を送る中で当時持っていた素直さや純粋に夢を追いかける気持ちを失っていると気づいた。

高校生に対する指導は想像以上に難しかった。答えを出して指導を行うことは簡単だが、いかに自分で考えさせ、いかに優しい言葉でヒントを出すか、がとても難しかった。今後社会に出て自分が上の立場に立った時に必須の能力であるから、社会に出る前に学生として経験できたことは本当によかった。また、今回の2週間を経た高校生の成長ぶりと、最後の「いつか超えます」といった発言を受けて、勝ち・負けや超える・超えない、があるとは思わないが、今回指導した塾生に恥じないような先輩として生きていかなければならないと強く感じた。自分が今後生きていく上で必須となる能力を体験できたこと、塾生指導を通して、新たに頑張り続けなければならない枷をかけることができたことに感謝している。

感じたことは、「素直な感動」であった。普段学問なり、問題解決の日々に追われていると様々なことを要素分解して考えがちになる。そうすることで、感動できるものに感動できなくなり、純粋に捉えるのではなく、穿った見方をすることが常となる。リー塾では、そういったものではなく、本当に純粋な涙、純粋な感動、素直に頑張ることのすばらしさがあった。これこそが大人になるにつれて、忘れてしまうものではないかと感じた。私がやっている学問の性質上、穿った見方はしなければならない。しかし、素直な感動を忘れないようにしたい。

今回リー塾に初めて参加しましたが、2週間意識高い高校生たちと接して、自分も負けていられない気持ちになりました。自分が塾生に対して何か影響出来たかはわかりませんが、私自身もリーダーとはどうあるべきか、自分のこれからについても再確認出来ましたし、良い経験となりました。

人を指導するということの難しさを感じました。ただ答えを示すのではなく、「その答えに自分で気づくための道作り」と「その問題にそもそも気づかせるきっかけづくり」という2つの大切さに気づくことができたことがいちばんの学生リーダーとしての収穫であったと感じています。

軽い言葉に聞こえますが、素晴らしい経験ができました。これ以上の2週間を経験したことはありません。塾生と密に関わることはできなかつたですが、運営側の方々素晴らしい出会いをすることができ、この出会いは一生大切にしたいと心から思いました。学ぶことしかない2週間を提供していただき感謝しています。

今回のリーダー塾では人のつながりの大切さと自分を知ることの大切さを感じた。全く会ったことのない他人だった人間同士が2週間の活動を通し信頼し合い、刺激し合いながら互いに高め合うことは非常に難しいことではあった。しかし、体力的にも精神的にもみんなが大変な状況にありながら互いに気を使い、尊敬しあうことで人のつながりが強くなった。一人ではできないこともチームで協力することで個人以上に力を発揮することができることを改めて感じた。

## 8. カリキュラムについて

### (1) 全般

リーダー塾の大きな柱は、日本や世界を代表する一流の講師による講義と、2週間かけて取り組むプロジェクト「アジア・ハイスクール・サミット」である。

2018年は、開塾した2004年から講師として皆勤賞であるマレーシアのマハティール先生が5月に92歳で首相に返り咲き、多忙な公務を縫ってリーダー塾に首相としていらして下さった。夫人のシティ・ハスマさんに加えて、マズリー教育大臣ら首相府、教育省ら約50人の関係者が同席した。首相として講師を務めていただいたことをきっかけに、マレーシアでもリーダー塾が来年開塾することがマレーシアの閣議で決まり、予算化された。

新しい講師として、立命館アジア太平洋大学学長の出口治明先生には、行先が見えない時代を生き抜くリーダーに必要な心構えや歴史を学ぶ大事さについて「これからのリーダーに必要な思考力」という演題でお話いただいた。

慶應義塾大学環境情報学部教授の神成淳司先生には、「持続可能な社会システムの構築を目指して（農業、介護を事例に）」という演題で、AIを使った最先端の取り組みを教えていただいた。

防衛大学校長の國分良成先生には、「東アジア情勢をどう見るか—中国・北朝鮮を中心に—」という題で、昨今の緊迫した世界情勢の中で日本の立ち位置をどうしていくかを学ぶことができた。

また、上方落語福岡県人隊の皆様には、落語のいろはから、人が聞きほれる「伝える醍醐味」を落語という形で実際に聞かせていただきながら教えていただいた。

2017年からご講演いただいている元法務教官で非行少年の立ち直りに取り組む日本こどもみらい機構代表の武藤杜夫先生に2018年も講義をしていただいた。自分と環境の異なる少年院の同世代の生きざまの共通点に気づき、命の大切さを学んだことからこの1年間で塾生が校長先生を説得して学内での講演会をするケースが5校あったことをこの場で紹介しておきたい。

一方、もう一つの柱である「アジア・ハイスクール・サミット」のテーマは「日本や世界の『未来地図』を描こう～高校生から小学生へメッセージ～」だった。50年後の未来に起こりそうな問題である「環境」「政治」「働き方」「戦争・紛争・平和」の4分野でどう問題を解決するか挑んだ。

これまで、2週間最後の政策発表は、塾生同士や塾長代理、事務局長、担任による投票で優劣を競ってきた。しかし、塾生の過去の感想から、議論を重ねて結論に至った政策を全くリーダー塾を知らない外部の方々に発表し、実行につなげていきたいとの要望があったため、今年は、宗像の小学4年生から6年生にグローバルアリーナに来てもらい、わかりやすく彼らに発表をする方式をとった。

ネットを見ても解決策が書いていないことに取り組むことで、自分の頭で考える訓練になる。事前課題に小学生や小学生に關係する大人にインタビューしてもらったが、小学生が思っている以上に知識があって、核心をついた考えを持っていることに衝撃を受けたようである。その経験をもとに発表を考えながら発表内容を臨機応変に変えて「わかってもらえるように伝える」ことの学びは大きかった。



▲講義会場の様子



▲講義の質疑応答の様子

## (2) 首相に返り咲いたマハティール首相がリーダー塾へ

5月10日に政権交代を果たして、マレーシアの第7代首相として返り咲いたマハティール氏は、リーダー塾に首相として来福した。教育改革がひとつの政策の柱であることから、例年いらっしゃるシティ・ハスマ夫人のほか、教育大臣や首相府の方々など50人余りを連れてグローバルアリーナを訪れた。これで、リーダー塾発足以来15回連続で講師を務めていただいたことになる。

### ① マハティール首相の講義と塾生との質疑応答

2015年の「アジア・ハイスクール・サミット」のテーマは戦後70年の記念の年「高校生が拓く平和な未来」と題して行い、マハティール氏に英語で政策発表を行った。マハティール氏は「若い皆さんは様々な理想的な考え方を持っているが、現実の世界はそう簡単ではなく、不幸にも今日の世界を牛耳っているのは若い時に理想を失った老人たちだ。大事なのはどんな時もその理想をずっと持ち続けることだ」と語り、マレーシアに帰国後、巨額の汚職を指摘された与党「統一マレー国民組織」(UMNO)を率いるナジブ首相(当時)を打倒する「セイブ・マレーシア・キャンペーン」を本格的に組織化して、政界復帰の先頭に自ら立ち、激戦を勝ち抜き、2018年に首相に就任した。



▲質疑応答するマハティール首相

それから3年、野党時代も欠かさずリーダー塾にいらしたが、今回のリーダー塾では、「アジアの次世代リーダーはいかに未来地図を描くことができるかー93歳から10代へのメッセージ」と題して講義をしていただいた。講義の内容は講義概要(16ページ参照)を参照いただきたい。

質疑応答では、塾生から「92歳で首相になる決断は大変だったと思いますが、なぜ、その選択をしたのですか」との問いに「2003年に若い世代に譲った方がいいと首相を退任した。しかし、汚職で国が大きなダメージを受けていたため政界に戻った」と胸の内を語った。また、「日本は国連で常任理事国ではなく拒否権がないが、反対したい時はどう声を挙げたらいいですか」との問いに「5か国の大国に拒否権があるのは、70年前に戦勝国だったからだ。しかし、戦勝国が世界の将来を未来永劫決めてはいけない。この5か国は、他の国々と同じ条件になる日が来るべきだ。そうすれば、国連が、過半数、大多数で決議する場になれる」と述べた。

韓国からのアジア奨学生の「戦争を防止するために高校生として果たす役割は何ですか」との問いに「民主主義国家であろうが、なかろうが、子どもたちは親に影響を受けます。親は戦争を拒否すべき。民主主義国家では選挙があるので、国民は戦争を拒否する候補者に投票すべきだ。そうすれば戦争に加担しない政治家が選ばれるわけだ。民主主義国家でなくても、子どもたち側から親に影響を与えることができる」と語った。

また、「戦争が起こる理由に宗教や人種の違いがあると思います。マレーシアはマレー人、中国人、インド人と多民族国家で宗教も多様ですが、どうしたら共存していけるのでしょうか」との問いに「マレーシアでは、幼い時から違う人種の人たちが近くにいます。私も学校でマレー人、中国人、インド人と一緒に机を並べました。大人になって違う人種の人たちと働いても何ら違和感もなく、お互いに違いを尊重しました。お互いの宗教を尊重するのは当たり前。ボーダレスの時代、多くの国々ではマレーシアのような多民族国家になっていくと思います」「次世代リーダー塾が世界各地にできて、若い世代が語り合うことが重要だ。国境を越えて、世界に飛び出して知らない人たちと出会ってほしい。そして、皆さんの手で平和を構築できれば、より高い文明を切り拓くことができる。それが次世代リーダーとしての責務である」と締めくくった。まさに質疑応答で90代と10代が対話し、世界最高齢93歳の首相が国民を思って立ち上がった思いを直に聞くことができたことは、一生の思い出になったはずだ。

## ②マハティール首相係と塾生主導のマハティールご夫妻歓迎行事

マハティール首相のリーダー塾訪問を担当する塾生を募ったところ、20人余りの塾生が立候補した。マハティール首相ご夫妻に差し上げる巨大なメッセージ板の美術を担当した塾生、福岡空港に出迎える塾生と学生リーダー、当日マレーシアの歌や合唱の指導をした塾生、バイオリンを演奏した塾生、メッセージを述べた塾生などが休み時間を使って準備を進めた。

福岡空港では、小川洋福岡県知事ら県庁の方々ブリッジまで出迎え、到着ロビーで塾生たちが「ようこそ」のうちわを片手に出迎えた。そして、日本語で塾生が、マレー語で塾生と大学でマレー語を専攻している学生リーダーの高橋はなさんが「再びリーダー塾にいらしていただきありがとうございます」と歓迎のあいさつをした。

また、講義の後、塾生から首相就任したお祝いの歌を歌った。歌の途中では塾生の中にマハティール首相夫妻が入り歌を合唱した。そして、塾生、マレーシアからの奨学生、マレーシアから日本に留学しているリーダー塾学生リーダーで宮崎大学2年ムハンマド・アクマルさんらが将来の夢を披露。93歳のマハティール首相と92歳のシティ・ハスマ夫人にそれぞれの夢を塾生全員が書いた将来の夢のボードに書いてもらった。マハティール首相は、「マレーシアが日本のようになること」、シティ・ハスマさんは「世界が平和と調和で満たされること」とそれぞれ書かれた。その後、マレーシアの歌をマハティール夫妻にプレゼントした。



▲合唱の輪の中に入るマハティール夫妻



▲マハティール夫妻にプレゼントしたメッセージボード

## ③マレーシア次世代リーダー養成塾設立へ

マハティール首相は、その後、取材に来ていた新聞社やテレビ局に対して記者会見を行った。ちょうどこの日が、長崎に原爆が投下された日と重なったため、記者から平和憲法について聞かれ「戦争を放棄した平和憲法をマレーシアの憲法にも導入したい」と答え、その後、9月の国連総会でも言及した。

一方、塾生に語っていた次世代リーダー塾が世界に広まってほしいということに関して、帰国後の閣議で「日本の高校生からは毎年呼ばれて講義をしているが、マレーシア国内では一度もない。次世代リーダー塾をマレーシアにも開塾しよう」と教育大臣に設置を指示、来年度予算に盛り込まれた。



▲マハティール夫妻のほか教育大臣夫妻からもリーダー塾へ

## (3) アジア・ハイスクール・サミット

日本や世界の「未来地図」を描こう ～高校生から小学生へのメッセージ～

### ①概要

リーダー塾では、一流の講師の先生方の講義を拝聴するだけでなく、さらに踏み込んで日本や世界が将来どうあるべきかを真剣に考えるプロジェクトを行っている。2週間を通して、日本とアジアの高校生が本音で語り、徹底的に議論して政策を打ち出す「アジア・ハイスクール・サミット」である。今年も、中国、マレーシア、モンゴル、タイ、韓国の5ヶ国から11名のアジア奨学生が参加した。

これから塾生が生きる50年は、過去の50年に比べて、さらに速いスピードで様々な物事が進んでいくと予想される。未来について考えるとき、過去の歴史を学ぶことが大切である。なぜ戦争が起きたかな



ど、過去の失敗を学ぶことにより、二度とその失敗を繰り返さないために、どうしたらよかったかを検証するのが歴史を学ぶ大切な視点である。

このため、塾生には未来の世界で起こりそうな問題は何か。どうしたらその問題を防ぐことができるのか。そのためには、今、何をすればいいのかを考えてもらった。テーマは、「環境」「政治」「働き方」「戦争・紛争・平和」の4つとした。

サミットの集大成として、塾生の考える未来の課題とその対策案を、福岡県宗像市の小学4年生～6年生（10歳～12歳）にわかりやすく伝える30分の授業をしてもらった。

今回、小学生には、いかにこの時代を生き抜き、明るい未来を築くために、考えることの重要性を育んでもらえるのか。塾生には「先生」という立場で、チャレンジしてほしいと考えた。小学生というフィルターを通して考えることにより、リーダーとしての視点で、世界が直面する社会問題を塾生一人一人自分の問題としてとらえ、いかによりよい未来を築き、次世代につないでいくことができるのか。自分たちが今、生きている時代だけを考えるのではなく、次世代が生きていく未来を想像し、「考える力」を存分に発揮してほしいと期待した。

ゴールは、将来直面する社会問題を小学生にどう興味を持ってもらい、その社会問題を解決するために何をしたらいいのかを真剣に小学生に考えさせること。

小学生には、全国各地やアジアからやってきた高校生である塾生と出会うことで、学校で学び始めたばかりの日本や世界地図をより身近に感じ、塾生を通して、彼らの「世界」を広げてほしいと考えた。

また、マハティール・マレーシア首相がいらした際に、サミットの内容を発表した。



▲小学生への授業の様子



▲準備の様子

## ②事前課題

塾参加前にできれば小学生、難しければ小学生と関わりのある保護者や塾の先生、地域のお世話役の方など2名にインタビューをするように課題を課した。兄弟や親戚に小学生がいない塾生は、インタビューをする相手を探すのに苦労したようだが、全員が課題にしっかりと向き合って挑戦した。その内容を事前に他の塾生にも共有した。

インタビューをする前に、小学生が社会問題など考えているわけではないと想像していた塾生たちは、実際インタビューをしてみると、自分の妹や弟をはじめ小学生が思った以上に知識があって、真剣に考えていたことに驚いた。また、大人よりももっとシンプルに考えて、核心をついていること気づいた。そして、高校生の自分達には、小学生のような純粋な見方ができなくなっていることにショックさえ覚えたようであった。たった、5、6年の成長の過程で、これほどまでに社会の見え方が違う、立場が変われば視点が全く違うという大きな発見があったようである。思い込みではなく、しっかり現場で情報収集して、真実を追求していくという経験が、宿題の時点でできたようだ。また、小学生からどう話を引き出すか、インタビューの仕方も随分考えたようである。概して、小学生にインタビューできて、本当に良かったという感想がほとんどであった。

事前課題の感想：

小学生にも対等に話すことが大事。小学生は私より賢い。誰にでも敬意をもって接することはとても大切だ。

思っていたよりも難しいAIの問題を真剣に考えていて、とても興味深かった。

<p>弟は外で遊んでゲームばかりしていると思っていたが、社会問題についてよく知っていて、その上自分の考えを持っていることにとっても驚いた。</p>
<p>小学生をなめてはいけなかった。なぜなら、もう将来の夢など決めている。小学生は私より沢山政治や経済のことについて知っていた。</p>
<p>私の従妹の小学5年生の女の子にインタビューしました。後で、その子の母親から、いつも新聞など読まないのに、私のインタビューの依頼を受けた途端、新聞を読みだしたと言って笑っていた。そうやって一生懸命応えようとしてくれる姿がなお嬉しかった。</p>
<p>私達が小学生の頃には考えもしなかった不安や課題が見えていて驚いた。今後彼らに不安をいだかせないように社会を作りかえるのは、私達の仕事であると感じた。私も小学生に負けないくらい広い視野をもって、課題に挑んでいきたいと思った。</p>
<p>私のホストシスターが小学生だったので、身の回りの関心事について聞いてみたところ、銃が身の回りにあることや爆破予行が起ることがやはり不安に思うと言っていた。</p>
<p>小学生が大人になったときの日本は僕ら次第だと思い、少し尻込みした。</p>
<p>インタビューをすると想像の何倍もの上に行く回答が返ってきたり、自分達では思いつかない視点からの意見があり、驚きが多かった。しかし、大人が言ったなど周囲の大人からの意見も多く入っていた。</p>
<p>小学生には小学生の視点から見える世界があり、それは私達にはもう見るこのできない世界だと思うと、とても貴重な時間だと思った。</p>
<p>毎日新聞を読んでから学校に行くという小学生もいて驚いた。</p>
<p>不安も沢山あったが、勇気を出して小学校にアポをとり、取材したことは、自分の中でもとても印象深く、やりきったと思う。</p>
<p>みんなの情報源は、同じ一定のメディアや親から教えられた薄い知識だけであって、自分で調べたり本を読んだりした知識ではないような気がした、そこは問題だなと感じた。むしろ私の方が勉強になった。</p>
<p>質問に対する言葉使いも含めて本当に今の小学生はすごいなと思った。小学生の疑問は純粋で単純なものが多かったが、そのようなことに答えられない私達大人がいるということにも気づいた。難しい制度や政策を整えることも大切だが、根本的な物事のあり方や素直な疑問に答えられる大人になりたいと思った。</p>

### ③塾中の様子

ここでは、主な展開とその様子について述べる。

#### ■課題設定

事前の小学生へのインタビューで、小学生が挙げた回答で一番多かったテーマから「環境」「政治」「働き方」「戦争・紛争・平和」の4つをテーマにし、事前に自分がどのテーマになるのかを知らせておいた。1つのテーマに2クラスずつが取り組んだ。具体的な課題設定には、どのクラスもかなり手間取ったようである。それぞれ、事前課題に真剣に取り組んだからこそ、自分が調べてきた内容を取り入れたいという思いが強く、課題設定にかなりの時間を使ってしまったクラスが多かった。

また最初に課題を決めていたが、途中で行き詰まって課題を変えるというクラスもいくつかあったようだ。自分のやりたい課題でなければモチベーションが下がるなどの症状が見られ、この時



▲課題設定の議論の様子

点で温度差が生まれたクラスもあるようである。しかし、課題設定の時点で、誰がどんなことに興味があるか、同じテーマの中でも様々な問題意識があることを知れたことは良かったのではと思う。「何を小学生に一番伝えたいのか？」という軸がしっかり定まっていたかどうか、後ほどの議論の質を左右することになったようである。

## ■議論の様子

課題設定がやっと決まったところで、議論に入ったが、切り口はそれぞれで、小学生に発表するからわかりやすいものという視点で入ったクラスもあったようだ。また、その他のクラスは、小学生に難しい問題にも興味をもってもらいたいと思い、敢えて小学生に馴染みがないと思われたテーマを選んだところもあったようである。とりわけ「政治」と「戦争・紛争・平和」については、重いテーマであったようだ。

クラスの議論では、「自分自身に問う」「考える」「表現する」という繰り返しを何度も行った。中間発表は、テーマが決まった直後で議論がまだ始まったばかりだったことに加え、後半のクラス担任の先生方が着任して間もなくだったため、議論が浅かった。

しかし、小学生への発表を控えた直前にも同じような内容で進展が見られなかったため、再度、発表をするチャンスを与えた。発表の模造紙を見ても、とても小学4年生が読める漢字でなかったり、文字がぎっしり書いてあって、読みにくかったりなど、あまり受け手側の小学生を意識したものになってはいなかった。

そこで、「これ以上ないくらい自分が議論に集中していると思う人」と手を挙げさせたら、3分の1くらいしか手が挙がらなかった。その日のあるクラスは、あからさまに議論に参加していない塾生が数人いて、それに対するもどかしさで、その他の数人の塾生が悔しくて泣いていたようだ。とてもおとなしいリーダーだったが、そこで全員を集めて、どうやったらみんなが議論に参加するのかを聞いた。その後、ほぼ白紙だったそのクラスの発表内容がものすごいスピード出来上がっていった。その他のクラスも、大なり小なり議論の温度差があったようであったが、前日になって、やっと皆の「本気スイッチ」がオンになった。

また、小学生への発表前日の最後の調整として、同じテーマに取り組む2クラスがお互いの発表を聞いて、改善点をアドバイスし合うという時間を設けた。小学生を8チームに分けて、同じテーマで違う2クラスが授業を30分ごとにするとしていたので、小学生から見たら2つのグループの発表を聞くことになる。2チームの内容が似通ってしまったというところは、なんとか一部変えようと試みたが、時間があまり残されてなかったため、そのままになってしまったところもあった。小学生が全く違う分野の2チームを聞くことにしたら被らなかったのという不満もあったが、それは事前に予想して情報収集するという知恵を働かせてほしかったと思うところである。

今回は、未来の課題の予想、政策提言に加え、小学生に教えるという非常に高いハードルが課された。ちょっとできないと思われるような課題に取り組ませることで、彼らが持つ潜在能力をより引き出すことができたと思う。

## 議論の感想：

学校では意見が出ないことが懸念されて、結局は一部の人の意見が総意としてまとめられている。それとは正反対にサミットでは、**沢山の意見がある中で妥協点を探っていかなければならなかった。**



▲議論の様子



▲議論の様子

<p>クラスみんなが明らかに焦っていて、そのせいで議論も空回りしていた。意見を言えないもどかしさや、高度な話し合いについていけない自分への悔しさから、泣いてしまった。もう少し周りの人を尊重した話し合いをするべきだった。しかし、泣いた時に慰さめたり、一緒に復習してくれる友達に助けられた。</p>
<p>自分達は何を話せばいいのか、毎回振り出しに戻ることを繰り返していた。遊びだす人達、寝ている人達さえもいた。こんな悪循環の中で迎えた前日。サミットの会議が始まって意見言えば誰かに否定される、そんな状況で司会の子が泣いてしまった。それに連鎖して泣いてしまう子が続出した。発表前日のサミットのスタートは最悪だった。しかし、20分間それぞれに休憩をとって見直す時間にした。意識を整えて迎えたサミットの会議は自然と上手く行った。</p>
<p>議論のゴールが見えていないときは、話がどんどん広がっていったり、何もまとまらなかったり、議論に進展がなかった。自分達が伝えたいことと、小学生が知りたいであろうこと噛み合わずに苦労した。議論が進まないとき、必ず誰かが進むべき道を明確にしたり、雰囲気明るくしてくれたりした。</p>
<p>自分はどうやら自分が思っている以上に自分の意思を通そうとすることがわかった。そのことが原因で問題を起こしてしまった。しかし、僕を支えてくれたのはクラスみんなだった。会ってから2週間も経ってないのに、真剣に僕と向き合ってくれたのが嬉しかった。</p>
<p>中間発表では、高校生向けの資料からそのまま図を抜き出して満足していた。しかし、小学生はその資料を何回もかみ砕かないと内容を分かりやすく伝えることはできなかった。</p>
<p>リーダー塾に参加する前は人前で手を挙げて発表することは苦手だった。しかし、皆が手を挙げやすい雰囲気を作ってくれたので、最終的に意見を言うことができるようになった。これが2週間で一番成長できたことだと思う。</p>
<p>サミットでリーダーをしたが、これは人生で初めてのリーダーの経験だった。普段は、仕切るのが遅いリーダーに野次を飛ばすだけだった自分が、まとめる側の立場になってその難しさを知り、過去の自分を恥ずかしく思った。</p>
<p>議論中は沢山言い争ったり、ぶつかることもありましたが、その場が終わると何もなかったかのように皆それぞれ仲良く過ごすことができ良かったと思います。</p>

## ■アジア・ハイスクール・サミット発表内容

当日は宗像市の約60名の小学4年生～6年生の子供たちが来てくれた。募集にご協力いただいた宗像市のご担当者様、また小学校や学童の先生方には、心より御礼を申し上げます。

小学生は、吉武小学校学童、赤間小学校学童の子供たちに加え、宗像市の全ての小学4年生～6年生にチラシを配っていただいたお蔭で、一般の参加者も沢山来てくれた。

小学生が会場に入場してくると、どこからともなく歓声と拍手が起こった。2週間気持ちを想像し続けた小学生がとうとう目の前に現れたということで、塾生たちにも「しっかりやらなければ」という気持ちが更に強くなったと思う。

発表の日は広島に原爆が投下された日でもある。開会式は、高校生が司会進行を行ったが、起立・黙とうから始まった。

実際に小学生と触れ合うと、自分達が予想していた反応と違うことも多々あったようである。そこから、臨機応変に対応して、どう伝えていくか、短時間での分析力、判断力、決断が迫られた。100%満



▲小学生の緊張をほぐそうと話しかける様子



▲発表の様子

足いく発表ができたチームは少なかったと思うが、一生懸命伝えようとする気持ちは小学生に十分伝わったと思う。小学生からは、「難しかったが、学校よりわかりやすかった。知らないことを知れてよかった」などのコメントをもらった。

また、このサミットで一番学んでほしかった「社会課題を他人事ではなく自分事として考える」という点においては、小学生への最後のスピーチで、「これらの社会の問題を一緒に解決していきましょう！」と呼び掛けていた。同時代を生きる今の高校生と小学生だからこそ、お互いが学び合って、共に行動することを誓い合うよい機会になったと思う。小学生を引率してくださった先生方からも、来年も開催してほしいという嬉しいお言葉をいただいた。

### 【各クラスが取り組んだ発表テーマ】

- 1組 地球温暖化
- 2組 ゴミ問題
- 3組 自分の意見を持ち、選挙で意見を伝えよう
- 4組 領土問題（北方領土、竹島）
- 5組 私とあなたで考える未来の理想の働き方
- 6組 子どもたちに夢と希望を与える
- 7組 子ども兵、難民
- 8組 核兵器のない平和な世界へ



▲発表の様子



▲発表の様子

小学生にわかりやすいようにと、子供に人気のお菓子の「きのこの山」と「たけのこの里」のどちらを食べたいかと選ばせて、選挙の仕組みを説明したり、椅子取りゲームの要素を使って難民受入問題を説明するなど工夫した。また、働き方については、AIの技術が発達した世界で、自分だったらどのような働き方をしたいかを、実際に1日24時間のスケジュールで考えさせてみた。また、核兵器の問題については、アジア奨学生や海外在住経験がある日本の高校生がモンゴル語、韓国語、英語でその国の教科書に日本に落とされた原爆についてどのような記述がされているか話してもらい、外国では原爆についてあまり詳しく教えられていないことや、これまで核兵器に関心がなかったが、隣国が核開発を始めたことで関心が高まったなどという事情を伝えた。

50年後について想像することは、高校生にも小学生にとっても難しかったと思うが、まず自分たちができることは、考えること、そして目の前の課題に一生懸命取り組むこと、また仲良くしようという気持ちを持つことではないかななどの活発な議論がされた。また、いろんな視点で物事を見てほしいと小学生に伝える塾生の姿から、この2週間で多様な考えを持つ仲間との触れ合いから、自らの視野が広がった様子が伝わってきた。小学生は、高校生のクイズや質問に積極的に挙手して答えており、高校生もその反応に安堵の表情を浮かべていた。

### ■サミットの感想

小学生に授業をした後、ふりかえりを行った。「メンバーの課題に対する知識や理解度が違うので議論が難しかった」、「説明が多くなってしまった」、「リハーサルより随分時間が遅くなった」、などという反省点が出てきた。同世代や大人に発表すると、聞いている側も、わかってなくてもわかったふりをすることが多い。その点、小学生はとても素直に表現するので、理解できなければ、「納得いかない」という雰囲気



▲小学生との集合写真

気や態度が返ってくる。一方的に「自分は上手に伝えたので、理解していなければ相手が悪い」ということでは、将来リーダーになったときに自分の考えやビジョンは相手に伝わらない。相手によって、臨機応変に伝え方を変えるという経験をしたことは、今後あらゆる場面で生きてくるのではないかと期待している。また、今回自分達で一から作ったという経験は、今後自分達の議論の場づくりをしたいという強い思いを醸成し、実際に地元に戻ってから小学生にプレゼンしたり、団体を立ち上げたりということにつながっている。

私は <b>将来小学校教諭になりたいので、今回はとても貴重な経験</b> となりました。小学生との関わり方があまりわかっておらず、不安が残るものとなったが、自分から積極的かつ真剣に小学生と向き合えたら、きっと信頼関係を築けると思った。
今回のサミットの内容を、 <b>リーダー塾から戻ってからもう一度一人で弟にプレゼンしてみた</b> 。弟は興味を示してくれたので、他の事柄も調べてプレゼンしてみた。
サミットの副リーダーをして、私は改めて <b>先頭に立つよりも一歩下がってリーダーとフォロワーをつなぎ留め、人に寄り添うという立場が好きなのだ</b> と感じた。
このように後世の人々に、 <b>今起きている問題や起こった事件・災害などについて語り継ぐことは本当に重要だ</b> と思った。
「質の高い自己満足」では、本当に人には <b>伝えたいことは伝わらない</b> ということを知った。
サミットで熱く議論をかわし、自分達で <b>一から創り上げたので、その分のやりがいも達成感も大きかった</b> 。あんなに同世代の人と議論をかわしたのは初めてで楽しかった。価値観の違いや視点が違う人との話し合いはこれからの人生で生きてくると思う。
事前課題をするときに小学生など年下の知り合いが沢山増えたので、 <b>私なりにサミットの内容を改良した勉強会やディスカッション会を開きたい</b> と思う。
今まで一人でやろう、一人で片づけようとしていた。今回 <b>周りの人に頼るということを知った</b> 。
私は選挙権をもっていないのですが、 <b>政治・選挙への関心は格段に上がりました</b> 。まずは、周りの友達から巻き込んで、 <b>このような議論をしたい</b> です。
<b>サミットでの経験を学校生活で活かしたい</b> です。まずは、手を挙げて発表するという事です。 <b>意見をもっていても、それを誰かに伝えなければ、その意見をどうすることもできない</b> と思いました。
領土問題について発表したが、自分が北海道に住んでいるから北方領土だけには詳しくて、知識がある感じになったけど、尖閣諸島や竹島、米軍基地の話になったら全く知らなくて、 <b>もう身近なところに目を向けているだけでは足りない</b> と感じた。
サミットで培った「 <b>本気になれば、相手を動かすことができる</b> 」ということを中心に留めて、生徒会活動を行い、更にパワーアップした文化祭になったと思います。
今回のサミットで「働き方」について学んだで、 <b>夏休みを利用して日本と海外の働くことに対する考え方を調べたら、全く異なることに気がついた</b> 。もっと働くことへの多様性を認め会える社会を作るため、私は <b>自分の意見をスピーチコンテストで、英語で発信するつもり</b> である。
私達のクラスの結論として、この先何が起こるかかわからない、だから何が起きても対応できるよう、 <b>今から考える力を身につけることが大切</b> ということになった。
始めて「先生」という視点から <b>小学生に自分の考えを伝える経験をして、教師の苦勞を感じた</b> 。
考えさせるような授業が小学校の頃から行われていたら、自分の考える力はどれほど違っていただろうと想像し、 <b>学生が議論できる場を自分で作ってみたい</b> と思った。
戦争としっかり向き合っていくことで、 <b>平和に貢献していきたい</b> 。
教育の現場で、 <b>海外の人がどう見ているかの視点も教えることが大切だ</b> と思った。

## (4) 今年の特徴的なカリキュラムについて

### ■オープニングディスカッション

開塾翌日にオープニングディスカッションを行い、塾生全体で議論をした。今悩んでいることを数人に発表してもらい、他の塾生たちがアドバイスをしてもらった。最初に発表した塾生は、「将来地方記者になりたいが、これだけ沢山の地方からリーダー塾に集まっているので各地域の魅力を教えてほしい」と発表した。すると、22名の塾生が手を挙げたので、全員に前に出てもらい、一人30秒程度でお国自慢をもらった。また、すでに高校生団体の代表をしている塾生が5名いたので、それぞれの取り組みについて発表してもらった。若者の政治参加を推し進めるような地域活性化を手助けする団体、災害でボロボロになった写真を洗浄する団体、東日本大震災からの復興をお手伝いする団体、伝統文化を伝える団体、そして最後に発表した韓国の塾生は、障がい者に読み聞かせする活動をしていると発表した。すでに、行動を起こしている仲間を見て、自分も何かやってみたいと思った塾生も多かったと思う。



▲オープニングディスカッションですでに社会課題に積極的に取り組む塾生の発表の様子

### ■佐賀フィールドトリップ

毎年佐賀でのフィールドトリップは、佐賀県立名護屋城博物館の見学を中心とした日本列島と朝鮮半島の交流史を学ぶことをテーマに実施している。名護屋城は、豊臣秀吉が朝鮮出兵の拠点とした地である。今年は、それに加え、肥前さが幕末維新博覧会の幕末維新記念館を見学し、幕末から維新时期にかけて、日本の近代化を推し進めたものづくり、人づくりを特徴とした佐賀藩の取り組みについて勉強した。

名護屋城博物館では、学芸課長の松尾法博先生が、日本列島と朝鮮半島の交流史をはじめ、できるだけ冷静な立場で豊臣秀吉らによる侵略戦争を分析し、今後二度と同じこと繰り返さないようにという願いが込められて博物館が建設されたことを教えてくださいました。

講義中に佐賀唐津地域の大規模な停電があったため、急遽、先に名護屋城博物館本丸跡地を見学した。名護屋城本丸跡地まで松尾先生をはじめとする職員の方やガイドさんの解説を聞きながら登った。午後には停電も回復し、特に大きな混乱は生まれなかった。午後からは名護屋城博物館を解説を聞きながら見学した。

夕方には映画プロデューサーの李鳳宇先生が南北朝鮮離散家族をテーマにした短編映画「あの人に逢えるまで」を上映してくださり、南北朝鮮問題の生き別れてしまった家族の衝撃的で悲しい結末に、もし自分が予期せぬ争いに巻き込まれて、平安な日常が全て奪われてしまったらどう感じるかと想像し、涙を流す塾生もいた。

李先生からは「映画で世界をみよう」という題でご講義いただき、映画から歴史背景やその時代の人の感情を理解しやすくなるということなど、映画の新たな見方についてお話しいただいた。

その他佐賀では、大阪学院大学法学部教授の笠谷和比古先生に、幕末から明治にかけての近代化と国際化について、学校の教科書では習う事のない内容をお話しいただいた。



▲名護屋城博物館本丸跡地見学では、タブレットでバーチャル名護屋城を体験した



▲名護屋城博物館本丸跡地は、天気の良い日は、朝鮮半島が見える



▲幕末維新記念館の最新の技術等による映像見学

また、朝鮮出兵のときに連れてこられた朝鮮人陶工の末裔である薩摩焼の十五代沈壽官先生に「伝統を守り現代を表現する」という題でご自身のアイデンティティと伝統を背負っていく生き方についてお話しいただいた。

佐賀最終日は今年が明治維新150周年ということもあり、肥前さが幕末維新博覧会の幕末維新記念館を見学した。佐賀が幕末から維新时期にかけて行なった先駆的な取り組みや一時代の礎を築いた偉人たちについて最新の技術等によりダイナミックに紹介されている映像を見て学んだ。偉人達の当時の活躍は近代国家を建設するという意味で、今の日本の基礎を作ったともいえる。その偉人たちの志を受け継ぎ、未来に繋ぐとはどういうことかを、現在の佐賀県の取り組みなどを通して、佐賀県知事の山口祥義先生にご講義いただいた。

## ■チームビルディング

佐賀での Cutter 活動（野外活動）が天候不良のため中止になったことから、もともとの趣旨であったチームビルディングを別の形で行うこととした。今年は、九州電力より iPad をクラスに一台お借りしていたので、それを使って、佐賀のプログラムで学んだことをまとめて2分間のビデオにしてもらうことにした。携帯を取り上げられてデジタルデバイスに暫く触れていなかったこともあり、iPad を手にした塾生はとても嬉しそうであった。

まずは、この動画作成のルールを決めるために、学生リーダーが団結し、ルール説明の動画をすぐに作成した。その後、クラスに分かれて話し合い、ロケを行った。塾が始まって5日目となり、クラスのメンバーの特徴も把握してきたころであったため、主に学級委員が陣頭指揮を執り、短時間で企画から製作までをマネジメントした。ビデオの出来はまずまずであったが、クラスの個性が出てきたのと、製作の過程でかなりクラスがまとまったようであった。またこのときにタイムマネジメントに失敗したチームは、サミットのときにその反省を活かして、時間管理を徹底して行ったようである。



▲野外で動画を撮影している様子

## ■キャリア教育

キャリア教育は、高校生のうちに社会や働くことへの関心を持ってもらい、進学や将来の目標設定をしてほしいという目的で行っている。内容は、クラス担任の皆様にお任せしてプログラムを作成いただいた。前半の担任の先生方は、これまでの人生をふりかえり、今後、成し遂げたいことを考えるというプログラムを実施された。後半の先生方には、ご自身の仕事の説明ややりがいなどを、それぞれのクラスで話していただいた。ある担任の先生は、近々発表する製品のネーミングを考えてもらうなど、実際のビジネスシーンで行われる会議を再現するような取り組みを行った。



▲後半担任によるキャリア教育  
実際のビジネスシーンを再現するよ  
うな会議を実施する様子

高校生であると、どうしても目先の大学進学に意識が行くが、あくまでもそれは一つの通過点である。これまでの塾生を見ても、人生の大きな目標をリーダー塾で決めることで、そこから逆算し、どのような勉強をしておくとうい視点で大学を選ぶことができるようになる傾向がある。

## ■卒塾生発表

今年は全くタイプの違う3名の卒塾生に話をしてもらった。社会人2名と就職を目前に控えた大学生1名。1期の斉藤大地さんは、コンテンツサービスを提供する会社を立ち上げた社長である。社会にインパクトを与えるような面白い企画を作るにはどうすればよいか、また会社の代表として今後どのようなこ

とを目指しているかについて話した。また、復興庁で東日本大震災による原子力災害からの復興を官僚の立場から支えている1期の島広匡さんは、自身の仕事をする上での心構えなどを語ってくれた。9期で慶應義塾大学の河野朱音さんは、リーダー塾で明石康元国連事務次長の講演を聞いて国連職員への夢をもったことや、その後スイスに交換留学し国連について実際に国連機関でインターンをして研究したこと、またどのようにそのようなチャンスを掴んでいったのかなどを話してもらった。講師とは違う、より身近なロールモデルの話を書くことにより、高校卒業後の自分の進路などについて、より具体的に考えるヒントになったと思う。



▲卒塾生発表の様子

## ■夢ディスカッション

過去のクラス担任の先生や卒塾生にも、ファシリテーターとしてご協力いただき夢ディスカッションを行った。学校では夢を語るという機会はほとんどないようである。昨今の塾生を見ていると、はっきりとしない漠然とした将来への不安を抱えている若い世代が増えてきているのではないかと感じることもある。また、その不安を口に出せないという状況で、一人で悩んでしまう傾向にある。リーダー塾の2週間で目標ができた塾生も多いが、その一方で刺激を受けたからこそ、やりたいことが沢山出てきて、今後どうしていいかと悩む者もいる。また、目標がすぐに見つからない者もいる。そのような自分の今後の希望や不安についてもざっくばらんに語り合うのが夢ディスカッションである。全国から持ち寄ったお菓子を食べながら、リラックスして語り合う場として、塾の締めくくりに自分の今後を考えるととてもいい機会になっている。



▲夢ディスカッションの様子

## ■合唱

全体のチームビルディングの一環でリーダー塾では合唱を取り入れている。今年のテーマ曲は DREAMS COME TRUE の「その日は必ず来る」であった。塾前に、リーダーとピアノ伴奏者を募ったところ多くの応募があった。合唱リーダーを統括する全体リーダーを立候補があった中から日本人1名、アジア奨学生2名選出し、各クラスに一人ずつの合唱リーダーを配置した。練習内容や方法はリーダーたちが塾前に連絡を取り合って決めていたが、練習が進まず、リーダー内での方向性の違いに悩み、全員の意志の統一が難しかったようである。

しかし、各リーダーや塾生同士が対話を繰り返すことで相手の想いと自分の想いをすり合わせていった。「夢をあきらめずに登るんだ！」という強いメッセージが込められたその歌詞に、徐々に自分の決意も重なってきたのではと思う。途中、DREAMS COME TRUE の中村正人さんよりサプライズでビデオメッセージが届き、会場に大きな歓声が上がった。ボーカルの吉田美和さんからの歌唱アドバイスもあり、塾生はさらにそこから練習に力を入れた。そして、担任の先生、アジア・ハイスクール・サミットの際に来た小学生たち、マハティール首相に素晴らしい合唱を届けることできた。最後の卒塾式の時はどの塾生も涙混じりに歌っていた。



▲マハティール首相への歌のピアノ伴奏はマレーシア出身の塾生



▲DREAMS COME TRUE の中村正人さんからのビデオメッセージ放映の様子

## ■みそ汁コンテスト

塾8日目の8月2日には「みそ汁コンテスト」が行われた。みそ汁コンテストでは、各クラスがオリジナルのみそ汁を考案し、味、見た目、コンセプトを審査ポイントとして、優勝クラスを決める。みそ汁は古くから日本の食卓に欠かせないものであり、全国各地で具材やダシ、味噌などの違いがある。しかし、残念ながら、近年、毎日みそ汁を飲む習慣が少なくなってきた。全国から集まる高校生にみそ汁を通して日本の食文化の大切さと多様さを学ぶ機会を提供するためにみそ汁コンテストを開催している。

使用する味噌はフンドーキン醤油株式会社から協賛いただいた、「生詰無添加あわせみそ」、「生きてる米みそ」、「九州育ち麦みそ」、「生きてる純正赤」の4種類。この中から味噌を1種類選ぶ。食材は開催地であるグローバルアリーナにご協力いただき、宗像市産のものを中心に、塾生が要望した食材を集めていただいたことに感謝したい。

各クラスは、事前にホームルームで具材やコンセプトを決め、当日に向けて準備を行った。より良いみそ汁を作るために、クラスにおいて様々な議論が行われていたようである。審査時にクラスのみそ汁をアピールするプレゼンテーションについても、話し合いを重ねていた。

フンドーキン醤油株式会社社長の小手川強二先生の講義の後、各クラスでグローバルアリーナのバーベキュー広場に移動し、みそ汁の調理に取り掛かった。調理の制限時間は30分。各クラスで、かまどの火の調整から、食材を切る・煮込むなどの調理をしたり、審査・食事会場となる食堂の準備を行ったりと手際よく役割分担しながら、協力してみそ汁づくりに取り組んだ。

塾生たちは昼食とともに自分たちが作ったみそ汁を堪能。昼食と並行して、審査員による実食審査が行われた。審査員には、小手川社長ご夫妻、宗像市教育委員会教育長の高宮史郎様、株式会社テレビ西日本常務取締役報道局長藤井通彦様、リーダー塾専務理事・事務局長の加藤暁子の5名を迎え、8クラスのみそ汁を審査した。各クラスの代表者がコンセプトや工夫した点などを1分半の持ち時間で審査員に発表した。プレゼンテーションでは、ジェスチャーのみそ汁を表現するクラス、クラス全体での掛け合いを実施するクラス、奇をてらわず真摯に発表するクラスなど、個性のあるプレゼンテーションに食堂は賑わった。

最優秀賞は5組の「日本と中国のかけは汁」が受賞。クラスに中国のアジア学生がいることから中国のスープによく入っている「肉団子」と日本



▲結果発表の瞬間よろこぶ塾生たち

の「すいとん」を掛け合わせたもので、みそ汁のように日本と中国が仲良くなったらという願いが込められている。フンドーキン賞には2組の全国の素材を使ったダイバーシティをもじった「ダイバー汁～みその可能性みそたるで！！～」が輝いた。教育長賞には同率で3組の「藤井「総」太7段が宗像での対局中に食べたいみそ汁」と4組の「宝のみそ汁」が選ばれた。みそ汁コンテストは、楽しいだけでなく、短時間で最大限の結果を生み出すための計画、創意工夫や役割分担、協力し合うことの大切さなどを学べる機会である。



▲協力してみそ汁を作る塾生たち



▲各クラスのみそ汁



▲審査員にプレゼンテーション

## ■台風の接近と想定外の事態に対する対応

今回のリーダー塾では2回にわたって、台風の影響を受けた。台風の接近で、佐賀での野外活動と卒塾式後の塾生の帰路での行程が大幅に変わった。

まず、佐賀での行程だが、佐賀に移動する前に、7月30日に予定されていたカッター活動及びオリエンテーリングの野外活動が台風12号の影響を受ける可能性が大きいことが分かった。佐賀の宿泊施設に到着後、宿泊施設と協議し、塾生の安全の確保を最優先に、野外活動を中止することを決定した。代わりにチームビルディングを目的に、クラスごとに佐賀で学んだことをまとめた動画を作成するというプログラムを行った。

次に、塾終了後の塾生の帰路についてだが、塾後半に台風13号の接近が報じられた。卒塾式当日である8月8日に関東に接近する可能性があるため、宿泊施設の延泊対応、地方自治体など関係者への連絡、バス運行会社との打ち合わせ及び塾生の交通機関情報の収集を行い準備・対策を進めていった。

8月8日は台風の影響により、夕方以降の関東圏の空港発着の便について、欠航、遅延が発生したため、早い時間の便へ振替を実施した。このため、卒塾式のスケジュールを前倒しにするなど変更し、振替対象の塾生については予定より1時間30分早く会場を出発し、台風の影響が出る前に帰宅できるようにした。空港では、事務局員と学生リーダーを配置して、塾生の便を早い便に振り替えるなどの措置を取った。

一般枠の塾生については全員便の振替ができ、帰宅させることができた。参画県枠のうち、岩手県枠の全員及び北海道枠の一部については搭乗直前で欠航になり、延泊となった。

台風の進行を鑑み、岩手県枠については岩手県担当者との協議で飛行機から新幹線へ振替をして、翌日、全員が帰宅することができた。北海道枠の一部の塾生についても、キャンセル待ちをして席に空きがでたり、別のルートの便がとれて、翌日帰宅できた。対応にご協力いただいた、保護者の皆様、参画県担当者ら関係者の皆様には改めて感謝申し上げたい。

## 9. 参画道県・市の声

リーダー塾には、9つの県と2つの市が参画しており、塾生の募集、選考などで多大なる協力をいただいている。参加塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画道県・市に対しアンケート調査を実施した。

### 【北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年グループ】

今年度は9名の生徒が参加することとなり、第二次審査で行ったグループディスカッションでも全生徒から様々な意見が飛び交い、審査の合間の短い時間でも他校生と交流するなど、活発なメンバーであった。

北海道では、毎年関係機関から塾期間中に道産品の差し入れをいただいております、北海道生全員で協力して、同品はもちろんのこと、本道のPRを行った。

北海道生は、出発前に集まる機会が第二次審査しかなく、往復職員が同行することもできない状況だが、塾の参加によって“北海道の代表”としての自覚や今後の生活に繋がる様々な経験を積んだと感じている。

### 【青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

参加した塾生皆が、充実した塾生活の中で自分の将来、日本、世界の事を真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようである。

事前研修の際には、自身のやりたいことへの強い思いがあふれていたが、卒塾後の感想では、切磋琢磨した仲間の大切さと、これからの自分の将来についての具体的な考えとその行動へ向けた決意を新たに、意欲の高さを示す言説が多く見られた。

保護者の感想では、一回りも二回りも大きくなった塾生を目の当たりにし、塾への感謝の言葉が多く見られた。



事前研修会の様子（提供：青森県）



壮行式の様子（提供：青森県）

### 【岩手県 教育委員会事務局教育企画室】

リーダー養成塾は、日本や世界を代表する学者、経済人による講義の受講や全国の志の高い高校生や海外からの留学生との本気のディスカッションを行える貴重な機会であると思う。リーダー塾には、今後も魅力的なプログラムの提供を期待したい。

参加した受講生からは、リーダー養成塾に参加したことで新たな考えや人脈、将来の目標を得ることができたという話があり、生徒にとって貴重な経験となったと実感している。受講生たちには、リーダー養成塾で得た経験を糧にして、将来の目標に向かって努力し、次世代のリーダーとして成長することを期待したい。



事前研修会の様子（提供：岩手県）

### 【静岡県 教育委員会高校教育課】

塾生は、2週間のカリキュラムを通じて、仲間の大切さ、国を越えた心の繋がり、夢に対する考え方、常に考え続けることの重要性など多くのことを学ぶことができた。講師の方から「出会いを大切に」、「粘り強く、優しく」、「いつか花開けばいい。今は自分を磨きなさい」など心に響く様々なメッセージをいただき、全国から集まった高い志をもつ同世代との集団生活の中で、自己を見つめ直し、これまでの考え方、人や事物との接し方が大きく変容している。アジア・ハイスクール・サミットでは、テーマについての結論を導き出すためにディスカッションを重ね、最高のものを生み出す楽しさや辛さなどをともに経験し、一緒にいる仲間を、かけがえのない、信頼できる一生の仲間に変えた。この先、「その日は必ず来る」ことを信じて努力を続け、成長した姿で仲間と再会したいと心に強く刻んでいる。

塾生全員が、更に高い目標に向かって、積極的に活動していくことを願っている。

### 【岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

卒塾後に県へ提出された感想文から、塾生たちが2週間のリーダー養成塾で充実した時間を過ごし、将来の目標に向かって大きな手がかりを掴んだことが感じられた。また、塾の講義や他県、海外から参加した塾生から刺激を受け自分の弱点に気づき向上していこうとする姿勢が感じられた。保護者からも塾生たちが出発前に比べて、積極的に自分の意見を話すようになったなど変化を感じているようである。

塾生たちには、参加した時の意欲や経験を忘れず、将来の目標に向かって継続して活動してほしいと願っている。また、次世代のリーダーとして日本や岐阜県へ貢献してくれることを期待している。

### 【和歌山県 教育庁学校教育局県立学校教育課】

本県から次世代を担うリーダーを輩出することを目的とし、発足当初より参画し、毎年10人程度の高校生が参加している。県の面接では、「視野を広げたい」、「自分を変えたい」、「著名な講師の話に期待している」等々、塾への期待を語っていた。

卒塾後の感想文を読むと、著名な方々の講義や多彩なプログラム、仲間との交流を通して、「積極的に行動すること」、「常に考え続けること」、「出会いを大切にすること」等、様々なことを学び、これまでの意識や考えが変化し、成長したことが窺えた。

リーダー養成塾は、子供たちが持つ可能性を大きく伸ばす良質な取組だと実感している。今後もさらにプログラムを精選し、事業が継続されることを望んでいる。

### 【愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾修了後は、「参加者とディスカッションを行う中で、今後の学習への意欲が高まった。将来

の目標を見据え、リーダー養成塾の仲間と共に将来の夢に向かって歩を進めたい。」との感想が聞かれるなど、リーダー塾での経験が、将来に向けて大きな目標を得ることにつながったことが感じられました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩を進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。



事前研修会の様子（提供：愛媛県）

### 【福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

本県では、“Think globally, act locally”、国際的な視野を持ち、地域で活躍する「人財」の育成が必要と考え、「ふくおか未来人財育成ビジョン」を策定している。子どもたちに眠る無限の可能性を引き出した、地域の未来を担う子どもたちを社会全体で育てたい、その思いで取りまとめたものである。

このリーダー養成塾は、日本や世界で活躍する一流の講師陣による講義やアジア諸国から招致した高校生との活発な議論や交流など、学校の授業では経験できない貴重な体験をすることができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっている。卒塾生からは「視野が広がった」、「自分の世界観、価値観が変わった」、「一生の仲間ができた」などの声があり、塾に参加してかけがえのない経験をしたことが窺えた。

今後も事業を継続し、未来を担う人材の育成を進めていただくようお願いしたい。

### 【佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課】

本県では、地元“佐賀”に愛着と誇りを持った人材の育成を期待しています。

今年は明治維新150年を迎え、本県では「肥前さが幕末維新博覧会」を開催しており、当塾においても、博覧会メイン会場である幕末維新記念館を訪れ、地元“佐賀”の偉人やその志などを学ぶとともに、全国の仲間に“佐賀”を知ってもらう最高の機会になりました。

また、塾中は、相手の意見を尊重しながらも自分の意見を一所懸命に伝えようとするなど、自分自身の殻を破ろうとする姿が見られました。

卒塾後の塾生のアンケートでは、「最高の仲間を作ることができた」、「常に高い目標を持ち続け、挑戦し続けたい」、「学んだことを学校のみならずにも伝えたい」、「将来の夢に向かって勉強し、絶対に実現させたい」といった意見があり、また、知事への報告会では、感極まって涙する生徒もおり、塾生にとって何物にも代えがたい一生の経験になったことがうかがえました。

卒塾生には、自分を育ててくれた“佐賀”に愛着と誇りを持ち、日本や世界で活躍する人材となることを期待するとともに、今後も、この素晴らしい塾へ志をもった多くの高校生が参加し、ますます発展していくことを願います。



事前研修会の様子（提供：佐賀県）



山口知事への報告会の様子  
（提供：佐賀県）

### 【福岡県宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係】

本市では、昨年度、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」が世界遺産にされ、昨年度に引き続き、カリキュラムに宗像大社宮司の講義や宗像大社の見学を入れて頂き、全国の塾生たちに宗像の歴史を学んでもらえたことは、大変嬉しく思います。

今年度のアジア・ハイスクール・サミットでは、「日本や世界の「未来地図」を描こう～高校生から小学生へのメッセージ～」と題して、塾生から本市の児童約60名に様々なテーマで語りかけていただいたことは、彼らの「世界」を広げることにつながったことと思います。このような機会をいただいたことに感謝いたします。

また本市から参加したある塾生は、「歴史を単純に学ぶだけでなく、その史実に対して自分なりの意見を持つことで、今後世界がどうなっていくのか、自分達はどうあるべきなのかを考えられる存在になりたい」と力強く語ってくれ、宗像市が目指すグローバル人材像「お互いを尊重し、そうぞう力を持って、世界とコミュニケーションできる（宗像市グローバル人材育成プラン）」に近づいたのではないかと思います。今後の活躍が期待されます。

### 【沖縄県うるま市 経済部商工労政課雇用推進係】

例年、様々な地域・人種とコミュニケーションがとれるので生徒の視野の広がりを感じる。

意識の高いメンバーの中で自分がどのようなリーダーシップを取ればいいのか、少しつかんだ様子だった。

本人はもともと行政職希望で塾に参加後さらにその気持ちが強くなったようだった。

県外や海外の様々な価値観に出会いもっと沖縄を良くしていきたい気持ちが高まっている。

## 10. 15周年記念祝賀会について

### (1) 概要

2004年に始まったリーダー塾は今年の塾で15回目を終えた。世界に羽ばたく夢を持った若者を育てて15年、卒業生は2617人となった。そこで、15周年を記念した祝賀会を10月28日、国立オリンピック記念青少年総合センターで行い、講師、理事、協賛企業、企画委員、参画地方自治体、卒業生ら関係者250人余りが出席した。

リーダー塾は、今から16年前、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所の榊原英資所長のもとで、様々なプロジェクトを改革派知事や財界の方々と地方分権研究会で行う中で、「昨今、若者の粒が小さくなっている。世界に雄飛する人財の育成は大学生では遅すぎる」と2週間のサマースクールを開催することに。普段、世界で活躍する一流の講師の講義を聞くチャンスの少ない地方の高校生たちに機会を与えたいとの思いもあった。

当時、福岡県知事だった麻生渡氏から「福岡に素晴らしい合宿ができる場所がある」と福岡県宗像市のグローバルアリーナを紹介していただき、施設の素晴らしさはもちろんのこと、献身的な施設の皆さまに支えられて今に至る。

発足当時は、「なぜ、一握りの高校生を選抜してリーダー育成をしないといけないのか。平等教育に反する」との批判もあったが、今では、リーダー育成はどここの教育現場でも教育の柱となっている。

現在、1期生は31歳となり、卒業生は政府の官僚、国際現場で働くNGOやグローバル企業、地元の地方自治体、教師、医師、看護師、農業に携わるなど、様々な分野でようやく中堅として社会に貢献できる人財に育っている。

祝賀会の内容は以下の通り。



▲祝賀会に参加くださった皆様

### 第一部

祝賀会は2期で株式会社ハッピーズ代表取締役の芦川泰彰さんを実行委員長にした卒業生による祝賀会実行委員12人が半年かけて準備を重ね取り仕切った。第一部として4ブースに分かれたパネルディスカッション&トークセッションを2セッション行った。

種別	対象	テーマ
パネルディスカッション①	社会人	社会のあれこれ。ネットでは聞けないリアルな話
パネルディスカッション②	高校生・大学生	充実した高校&大学生活を過ごすために
パネルディスカッション③	全て	仕事についてのディスカッション
トークセッション	学生・社会人	① 大学の時にやりたかったこと大学でやりたいこと ② リーダー塾の思い出

### 第二部

第二部は、講師、理事、協賛企業、企画委員、地方自治体ら関係者の皆さまにご出席いただき、榊原英資塾長代理、麻生渡最高顧問に挨拶をしていただき、マハティール首相からビデオメッセージをいただいた。また、海外からの卒業生を代表して、カンボジアで医療サービスの会社を立ち上げた佐藤創さんからビデオメッセージをいただいた。その後、社会人の卒業生から自己紹介をもらった。

最後に15期生の田島唯さん、船山貫さん、伊藤千夏さんが塾で学んだことをスピーチし、参加した15期生で今年の合唱「その日は必ず来る」を歌った。

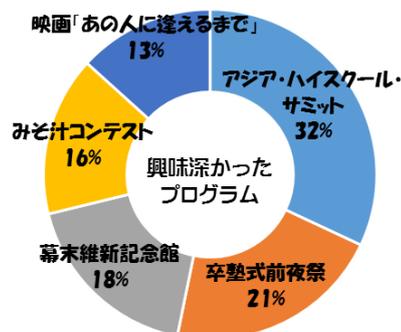
## 資料① 塾期間中の塾生アンケート調査結果

塾が終わるにあたり、塾に関する全般のことについて、塾生に対しアンケート調査を実施した。本報告書では、主な設問について掲載することとする。塾生184名のうち181名が回答。なお、一部回答のなかった設問については未回答人数を明記し、その数を除いてパーセンテージを算出した。

### 興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位5つを記載

①アジア・ハイスクール・サミット	32%
②卒塾式前夜祭	21%
③幕末維新記念館（佐賀）	18%
④みそ汁コンテスト	16%
⑤映画「あの人に逢えるまで」 （李鳳宇先生の授業の教材）	13%

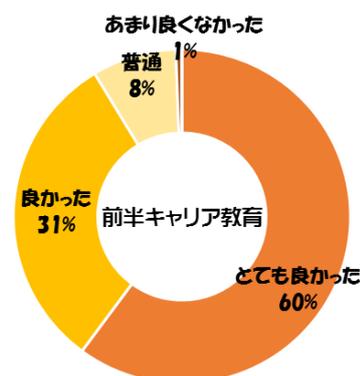


### カリキュラムについての評価・感想

#### （1）キャリア教育（前半）

とても良かった	60%
良かった	31%
普通	8%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

※未回答1名を除いて集計

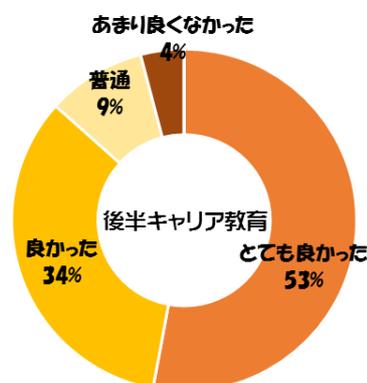


#### ■主な感想

- ・自分の将来について**ビジョンを持つことが出来た**。
- ・**もっと悩んでいいのだ**と思う事が出来た。自分の将来と真剣に向き合うきっかけになった。
- ・仕事ができる社会人は学生から見ても**とてもカッコ良かったです**。

#### （2）キャリア教育（後半）

とても良かった	53%
良かった	34%
普通	9%
あまり良くなかった	4%
良くなかった	0%

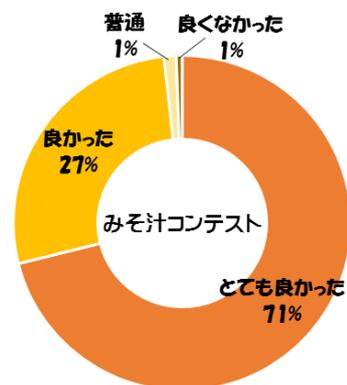


#### ■主な感想

- ・これからは**企業の仕組みやお金の流れ**なども気にしながらニュースを見ようと思った。
- ・自分の将来**どのようなことをしたいのか**を考えることができた。
- ・社会に出た上での**“人”のすごさ**といったものを実感しました。

### (3) みそ汁コンテスト

とても良かった	71%
良かった	27%
普通	1%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	1%

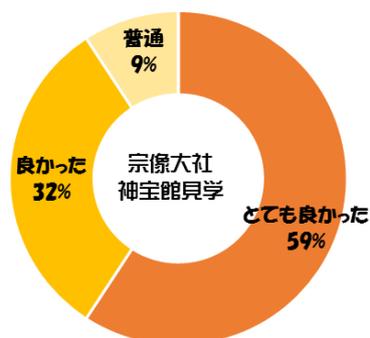


#### ■主な感想

- ・全員で協力して料理することは**とても絆を深めた**と思う。
- ・30分間という短い時間で**クラスの中での役割分担**をして効率よく作ることが出来た。
- ・夜に集まってホームルームで足りなかった話し合いの続きをするなど**クラスの団結力が深まった**のは良かった。

### (4) 宗像大社・神宝館見学

とても良かった	59%
良かった	32%
普通	9%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

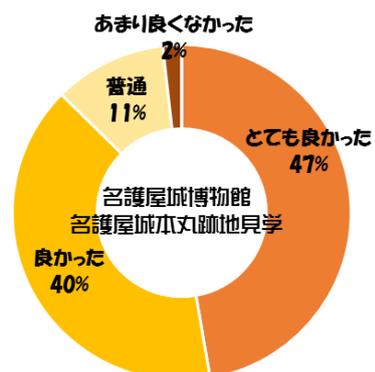


#### ■主な感想

- ・いつも何気なく眺めているこの宗像の風景には、過去の歴史が残されていることを考えると遠い歴史の中にいる**自分がとても小さく感じられた**。
- ・自分の**日本人としての感性**が活性化している様子を**肌で**感じている様な感覚だった。
- ・大昔の人達の形跡がある事で、**過去を学び、これからに繋げられる**のだろうと考える。

### (5) 名護屋城博物館・名護屋城本丸跡地見学

とても良かった	47%
良かった	40%
普通	11%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0%



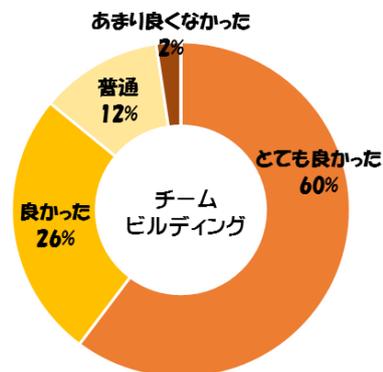
#### ■主な感想

- ・タブレット端末などを活用しながらの見学だったので、**イメージしやすくわかりやすかった**。
- ・特に歴史については過去にタイムスリップすることができないから、現地に行ったり資料を読むことが**"知る" 一歩だ**と思う。
- ・実際に見学できたということで、急に佐賀を身近に感じた。もっと佐賀、**日本の歴史について知りたい**と思った。

## (6) チームビルディング（佐賀で学んだこと動画製作）

とても良かった	60%
良かった	26%
普通	12%
あまり良くなかった	2%
良くなかった	0%

※未回答4名を除いて集計

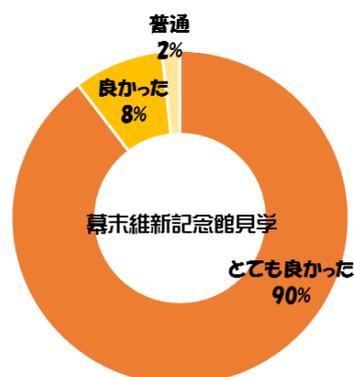


### ■主な感想

- ・佐賀で最も印象的な出来事でした。**タイムマネジメントの大切さとスケジュール管理の仕方**を学び、クラスで団結することができたのでよかったです。
- ・最初は案が出てこず話が停滞してしまい、**自分の発想力が欠けていることに気がきました**。効率よく物事を進めていくために、柔軟な考えを持てるようになりたいと思いました。

## (7) 幕末維新記念館見学

とても良かった	90%
良かった	8%
普通	2%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

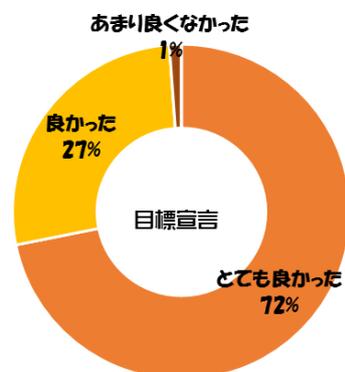


### ■主な感想

- ・幕末に関する資料や品物が見られると思っていたが、実際は映像や劇のような感じでとても楽しむことができた。**近代の技術で昔の歴史を学ぶ**ことはとても良いアイデアだと考えた。
- ・昔の技と人と志が今を作り上げたのだと思うし、**それを未来へと繋げていく**ことが私たちにできることだと思う。
- ・幕末維新記念館では、昔に実在した偉人たちの活動を肌で知ることができて、**自分もこのように人のために何かしてみたい**と改めて考え直すことができた。

## (8) 目標宣言

とても良かった	72%
良かった	27%
普通	0%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%



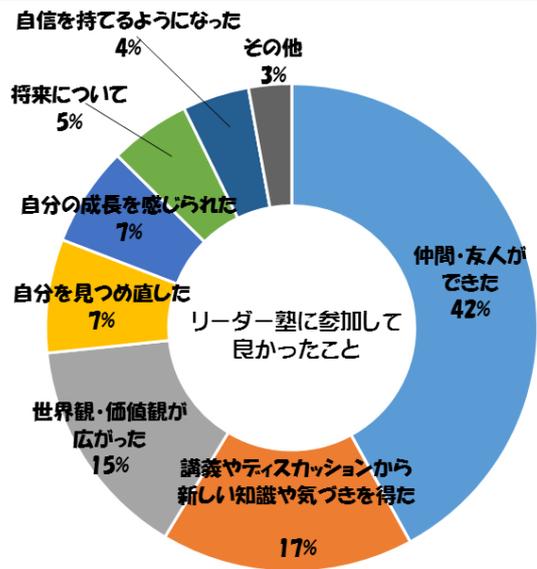
### ■主な感想

- ・他の人の目標を聞いて、刺激になりました。自分の目標はこれからも少しずつ変わっていきと思いますが、**この時のことを忘れず、一步一步進んでいきたい**です。
- ・みんなの前で宣言することによって、**自分の言葉に覚悟をもつ**ことが出来ました。

## リーダー塾に参加して一番良かったこと

※記述式のため、キーワードをピックアップして集計

- ①仲間・友人ができた 42%
- ②講義やディスカッションから新しい知識や気づきを得た 17%
- ③世界観・価値観が広がった 15%
- ④自分を見つめ直した 7%
- ⑤自分の成長を感じられた 7%
- ⑥将来について 5%
- ⑦自信を持てるようになった 4%
- ⑧その他 3%



### ■主な内容

仲間・友人ができた	同じ志を持つ仲間と出会うことが出来たことです。 <b>新しい考えもたくさん知ることが出来ました。</b> この考えや仲間に出会えたことは、私にとって宝物です。
	様々な志を持った人たちに出会えたこと、 <b>その仲間たちと携帯電話を通してではない、心と心のコミュニケーションをとれたこと。</b> 全部が自分の誇りです。
	リーダー塾で日本中から集まった学生と共に、様々な事柄について話し合うことで、 <b>次の世代としての意識そしてやる気を見出すことができた。</b>
	皆の壮大な夢、目標、皆の能力の高さにとても圧倒されました。 <b>私も負けられないと思ったし、その為にももっと努力しようと思いました。</b>
	人脈を広げられた。日本各地にとどまらず、世界各国、そして同じ高校生から大学生、大人まで幅広い人と面識を持つことで、 <b>自分ができることの幅がかなり広がった</b> と思います <b>志高い仲間達とつながることが出来たことだ。</b> 卒塾後にもSNSで塾生の活躍が見られて、 <b>負けちゃいけない</b> といつも触発される。
講義やディスカッションから新しい知識や気づきを得た	将来、理系の分野に絞った道を考えていたのですが、多くの先生方の講義やたくさんのリーダー塾生の意見を聞いて <b>狭い分野だけで考えなくてもいいんだ</b> と気づかせてもらいました。意識もレベルも自分よりずっと高い塾生とディスカッションすると、得られるものが多くて、 <b>様々な考え方を吸収することが出来た。</b>
	歴史を深く読むことで現在の問題の解決に繋がると話していたので、今だけを見つめず、 <b>過去から学んだことを今後に活かしたい</b> と思った。
	出口先生の「人旅本」という考えは印象に残った。教わったことをこれからの人生で生かしたいと思う。
	<b>言葉は意思疎通の道具であるが、万能ではない</b> ということがわかりました。ディスカッションでは、頭の中で描いていることを相手に伝えるのがいかに難しいかを痛感しました。 <b>「本質を見抜こうとする意識」</b> をひしひしと自分の中に感じる。この感覚を持ち続けていきたい。
世界観・価値観が広がった	リーダー塾に参加してみて、今まで <b>自分が見ていた世界がどれほど狭かったのかに気付くことが出来ました。</b>
	各業界の現場で活躍する講師の方々や大きな夢を持ってその夢に向かって努力している同年代の人たちと接して、 <b>今まで持っていた価値観が大きく変わりました。</b> <b>人として大切なことを学び、考え方を考えることが出来て新しい視点で見ることが出来るようになったことが良かった</b> です
	自分の考えがさらに広がり、自分には <b>何が足りないのか</b> が本当にわかった。

自分を見つめ直した	現状で満足している自分でしたが、リーダー塾で様々な面でレベルの高い同年代と接して、 <b>モチベーションが上がりました。</b>
	リーダー塾に参加したことで <b>欠点を自覚し、向上心を思い出す</b> ことが出来たことは本当に良かったと思います。
	<b>自分自身に対する認識がとても深まった</b> と感じられたこと。自分の強み弱みを確認できる機会が本当に多かった。
自分の成長を感じられた	AHSでは何を話すか頭の中に入れ、聞き手の目を見て話すことが大切だと知り、自分が <b>今までしてきたプレゼンとは全く違ったやりかた</b> で行いました。本当にいい経験になりました。
	今まで人の前に出て意見をいうことが苦手だった私もディスカッションの時など、 <b>意見を言うことができる</b> ようになって良かったです。
	挑戦する勇気がなかった <b>自分を変える</b> ことができた。何事も前向きに捉えることができるようになり、 <b>一步踏み出す勇気</b> を持つことができた。
	積極的になれた気がします。また、 <b>人の話から学べることの多さ</b> に驚きました。今まで話を聞き流していたことが多かったので、これは大きな成長だと思います。
将来について	<b>自分の夢が見えた</b> 。こんな自分になりたいと思えるビジョンが描けた。
	高校三年生という時期に参加することを迷っていたが、 <b>リーダー塾に行ったことで大学生になったときの自分を想像することが出来る</b> ようになり、 <b>やりたいことが明確になった</b> 。
自信を持てるようになった	自信が出来た。 <b>自分にもはっきりとした長所があると分かった</b> し、様々な講義で自分の生き方をさらに強固にすることが出来た。
	自分と同じ高校生で自分以上にたくさんのことを考えてそれを実行している友達が出来た。そして、その友達から <b>自分の意見を認めてもらえたことが大きな自信</b> になった。
その他	マハティール首相をはじめ、 <b>様々な人生の先輩方からのお言葉をいただけたのも</b> 今考えると、めったにないことで、貴重なことだと感じています。
	<b>多くの挑戦が出来た</b> 。クラスでの議論の時や、講義の時の質問、学級代表など日頃ではこんなにも多くの挑戦する機会は無かったと思う。また挑戦にも成功や失敗があり、失敗したらどう修正し、成長に繋げるかという訓練を沢山行う事が出来た。

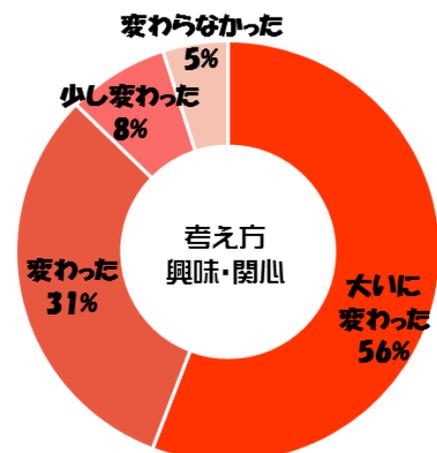
## 資料② 卒塾後の塾生・保護者・学校アンケート調査結果

卒塾してから約1ヶ月後、184名の15期生（アジア奨学生を含む）と、その内173名の日本人塾生の15期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。卒塾生は181名から（98.3%）、保護者は133名から（76.8%）、学校の担任教員は131名から（75.7%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

### 塾生へのアンケート

① 塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	56%
変わった	31%
少し変わった	8%
変わらなかった	5%



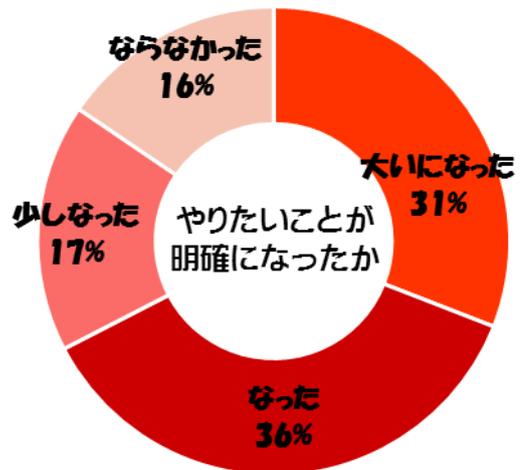
## ■主な内容

視野が広がった 社会・世界に興味を持った	物事を常に多面的、かつ批判的に考えられるようになった。自分のことが出来るのは当たり前前で、ほかの誰かのために物事を考えるということをリーダー塾で学んだ。
	自分自身の将来の選択肢が <b>世界規模に広がっている</b> という実感がより持てた。同じ日本に住んでいても、様々な人がいてみんな違う面白さを持っていることがわかった。
	1番大きく変わったのは、 <b>物事を色々な方向で見ようとするようになったところ</b> だと思います。また、リーダー塾の目標宣言から、毎日、新聞を読むようになり、社会での出来事に興味を持つようになりました。
	講義を聞いて新しい知識を得るとともに、 <b>固定概念をもたず色々な角度から物を見ること</b> の大切さを知った。全国から集まってきたリーダー達と生活することで、 <b>自分の力不足がよくわかり、とても刺激を受けた</b> 。
	2週間ディスカッションや社会の第一線で活躍する方々のお話を聞いて、自分が思いつきもしない意見がたくさんあり驚きました。特にディスカッションでは、 <b>自分の意見を客観的に見ること</b> を学び、それはリーダー塾が終わっても、心がけるようになりました。
主体性・責任感、 意欲向上、自信	今までは何か思い立って行動するとき失敗したらどうしようと周りの目を気にして行動していたが、リーダー塾で、刺激を受けて、 <b>自発的に、周りの人のために行動することができるようになってきた</b> と思う。
	何に関しても、以前はたった1人の自分が行動を起こしても意味がないだろうという意識があったが、 <b>前向きに行動することで、いくら高校生であっても、社会に貢献できる</b> ということがわかった点。
	どんなことも前向きに捉え、 <b>何事にも挑戦しようとするようになった</b> 。
大学・将来の 職業・生き方	今まで消極的だったのが、やるかどうか悩んだらやる、やるからには楽しもうと思うようになりました。また、 <b>人のために何かしたい、人のために働きたい</b> と思うようになりました。自分の人生なんだから、 <b>自分らしく生きていこう</b> と思いました。今は心理学を学んでみたいと思っています。
	リーダー塾参加前は、とにかく世界に出たい、世界に貢献したいとだけ思っていたが、リーダー塾後は、日本にしながら世界のために働き、 <b>世界に出て日本のサポート</b> をすることも大切だと考えるようになった。
他の意見を受け 入れる力	人を簡単に判断して苦手意識を持つのではなく、 <b>まずは関心を持って関わってみる</b> ことが大切だと実感した。
	今まで先入観で決めつけていた部分があったけど、ディスカッションやアジア・ハイスクール・サミットの話し合いなどで色々な考え方があることを知り、 <b>自分の考えだけにとらわれないように</b> しようと思うようになりました。
リーダー像、 リーダーシップ	自分が人を支えられるということ、 <b>自分が頑張れば頑張るほど、付いてきてくれる人がいる</b> ということに気づいた。
	その場所や環境によって求められるリーダー像は違うので、「 <b>こうあるべきだ</b> 」と決めつけてはいけないということ。
知識の習得、 学習の仕方	普段の生活や学校の授業などで、今の自分にあまり関係なさそうな内容に見えても <b>一つ一つ大切にしよう</b> と思った。
	<b>歴史に対する見方がかなり変わった</b> 。今まではただ教科書に書いていることを覚えているだけだったが、様々な先生から歴史に関する授業を受けたことで、 <b>各地域の繋がりや教科書とは違う解釈も注目するようになった</b> 。
	今までは本を読んだ方がいいと言われても全然関心がなく興味も湧かなかった。しかし、 <b>今は、少しずつではあるが読んでいる</b> 。

<p>アジア各国、 他国の見方</p>	<p>外国に関する関心や興味がとても湧きました。前は少し外国へ行くのが怖かったりもしたけど、今は行ける機会があればぜひ行ってみたいと思えるようになりました。同様に英語への意識も変わり、<b>もっと実用的な能力が欲しい</b>と思いました。</p> <p>中国や韓国など、日本との政治的な問題を抱えている国の人に対して、なんとなく良いイメージを持っていなかったけれど、実際にアジア学生と接してみて、みんな優しくて日本が好きで、私たちと<b>なんら変わらない普通の高校生だ</b>ということがわかった。世間に流されるのではなく、<b>自分自身のアンテナを張っておくべきだ</b>と思うようになった。</p>
<p>その他</p>	<p>自分の弱さが周りにどのような影響を与えているかをリーダー塾では学びました。<b>自分を客観視してコントロールするように意識</b>できるようになりました。また、疲労がたまると何もできないことに気づき、<b>しっかり睡眠とご飯はとる</b>ようにしています。</p>

？ 参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	31%
なった	36%
少しなった	17%
ならなかった	16%



■主な内容

<p>訪日外国人と関わる仕事がしたかったのだが、地域過疎化の話聞き<b>地域活性化と訪日外国人を結びつけたい</b>と思うようになった。</p>
<p>岩手県沿岸部の観光客の減少を止めるために、<b>沿岸部をモチーフとしたアニメーション</b>を作成し、<b>聖地化</b>させる。</p>
<p>行きたい大学が<b>はっきり固まりました</b>。</p>
<p>リーダー塾には、強いカリスマ性や斬新なアイデアを生み出す力を持つ人が、数多くいました。自分はその人たちの右腕として<b>その人たちのアイデアや考えを具体化し、プロジェクトに変えていく</b>ということがやりたいと思いました。</p>
<p>自分には教師が向いているかもしれないと思い、<b>子供達に夢を与えられる教師</b>を目指すという将来の夢を確立することができた。</p>
<p>今までは自分の進路についてあまり考えていなかったが、<b>工学部に進んでAIを勉強したい</b>と強く思った。また、ゆくゆくは仕事と両立して<b>劇団にも関わりたい</b>と思った。</p>
<p>自分の力ではどうすることもできない問題や孤独を持つ子どもを助ける仕事をしたいと、強く思うようになり、<b>将来やりたいことが見つかった</b>。教育に関するニュースや本をよく読むようになり、大学では<b>教育や心理学を学びたい</b>と思う。</p>
<p>講師の先生の話や15期塾生との会話を通じて、<b>観光業に携われる人</b>になりたいと思った。</p>
<p>参加する前は、将来の夢はあいまいでしたが、リーダー塾に参加して、自分の住んでいる地域に対しての思いが強くなり、<b>将来、熊本を世界に広めていけるような活動</b>をやりたいと思いました。</p>
<p>県外や国外の人と2週間関わるなかで、<b>自分の郷土愛が思っていた以上に強い</b>ということが分かった。リーダー塾を終えて、<b>沖縄県の行政機関に勤めて沖縄県に貢献できる人材</b>になりたいという夢が生まれた。</p>

アジア学生と一緒に2週間過ごしたり、英語での講義を受けたりしてさらに海外に強く興味を持つようになりました。だから、大学では国際関係学を学び、それを通して**発展途上国の子供たちのために何か役に立てるような仕事に着きたい**と思うようになりました。

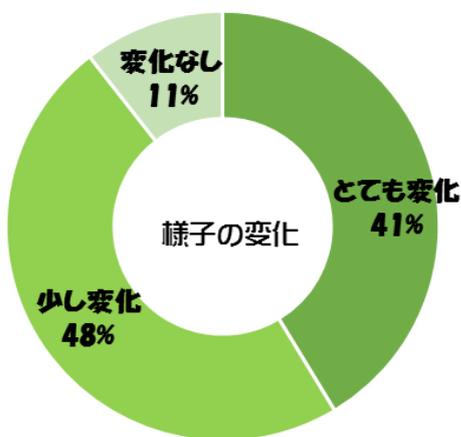
農業にAIを取り入れる内容の講義を聴いて、農業に興味湧き、**農業をやりたい**と思いました。

神城先生のお話の中の「これからはロボットとどう関わっていくかが重要だ」という言葉を聞いて、私は人とロボットの関係がもっと温かみのあるものにしたいと思った。前から興味を持っていた**芸術工学の分野への情熱がますます大きくなった**。

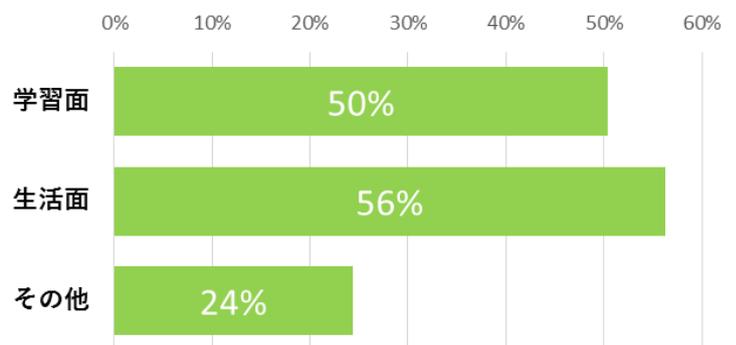
これからの日本を担っていく**子どもを生む出産のお手伝い**をし、そこで終わるのではなく、**その後の教育にも携わりたい**。

## 保護者アンケート

❓ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような点に変化がありましたか？  
(複数回答可)



### ■主な内容

学習面	参加前は資格試験を受けたくないといっていたのが、参加後は <b>資格試験（英検）</b> を受けるというようになりました。
	リーダー塾で出会った中国のお友達ともっと中国語でコミュニケーションをしたかったと、 <b>中国語を習い始めた</b> 。
	学校内では英語ができる方だと自負していましたが、まだまだ努力が足りないと感じ <b>学習時間が増えました</b> 。
	高校2年生の時に、将来やりたいことがなんとなく見えてきて、その時点で理系受験から文系受験に切り替えました。その時には、将来やりたいことというのは、まだぼんやりとした感じで、大学で何を勉強したいのか、迷走しているようでした。
	リーダー塾から帰ってきてからは、 <b>自分の将来に対するビジョンが大分はっきりした</b> ようで、大学で勉強したいこと、行きたい学部、 <b>そのためには今、何をすべきか、明確になった</b> ようです。
	リーダー塾で目標宣言をしたということで、目標の資格試験に合格できるよう、 <b>進んで勉強するようになりました</b> 。これについて、娘曰く「 <b>みんなの前で宣言した以上、合格できるように努力しないと自分自身に恥ずかしい</b> 」と <b>驚きの発言</b> をいたしました。
	なんでも <b>目標をもって 計画をたて挑戦している</b> ようです
	将来、 <b>自分が何をしたいか、どうなりたいかというビジョン</b> がはっきり話せるようになりました。そのために今自分ができることを積極的にやろうとする力が身につきました。
	大学の進学についても、上を目指したいと、更に <b>学習面の取り組みが変わりました</b> 。
	積極的に勉強に取り組むようになり、 <b>勉強量が圧倒的に増えた</b> 。

生活面	早起きをするようになり、自分の部屋をきれいにするようになった。 <b>時間の使い方を工夫するようになった。</b>
	自分から率先して、 <b>家庭での手伝い</b> などするようになった。
	人に対しての <b>優しさや思いやり</b> が見られるようになりました。
	家では自分のことだけではなく、 <b>家族のために仕事を進んでする姿</b> が見られるようになりました。今まで当たり前だったことが当たり前ではないことに気づき、 <b>感謝の気持ちを素直に表現</b> できるようになりました。
	人との関わりを大切にするようになった気がします。以前まで友達は学校で会えば充分！LINEなど面倒だ、という感じでした。しかし、台風や地震で塾生のお友達のことを気にかけて連絡をとったり（以前は気にはしても行動はしないところがありました）、学校では友達と勉強を教え合ったりするようになりました。
	相手との価値観の違いを認め、相手があってこそその自分がいる事、 <b>相手の意見を重んじ敬意をもって接する事、支えてくれている人々に対する感謝の心</b> に気づくことができたようでした。
	自分が納得出来ない事が起こると、原因を他者へ向けていたが、少しずつ、 <b>事の本質や自身の振り返り</b> をするようになった。
	自分に <b>自信が持てて</b> 、意見とか表現の仕方が上手になりました。
	<b>意欲的になった</b> ことが一番大きい。又、同じ高校生でも様々な考え方、表現をする人達に出逢い、多様性を肌で感じた様子で、自分と違う考え方に対して広く受けとめ <b>考え方が柔軟になった</b> 。
	親に対し「 <b>ありがとう</b> 」という言葉が自然に出るようになった。参加前までは言葉で表すことができず、促すことが多かった。
	自分で決めて、行動できるようになったと思います。特に、自ら提案をできるようになりました。些細なことですが、待ち合わせをする場合も、どうしたらいいと聞くのではなく、何時にここで決めて、提案するようになりました。また、 <b>自分と違う意見の人の話を聞けるようになった</b> と思います。家族の中でも、より話し合いができるようになりました。
	本人が苦手とする相手でも、 <b>積極的にコミュニケーションを取る</b> ようになった。
<b>身の周りのことを以前よりすすんで</b> するようになった。また、同世代の人だけでなく、少し上の方たちと接することができ、より将来について考えるようになった。	
その他	まず、リーダー養成塾から帰ってきた日は、 <b>目がキラキラ</b> して、誰かに話したい事がたくさんあって、 <b>体全体からエネルギーのようなものが溢れて</b> いました。そして、リーダー養成塾の仲間の事、講師の先生方の事、今自分が考えている事をたくさん話してくれました。娘の変化を期待して送り出した私ですが、正直、「 <b>2週間でこんなに変わるものか</b> 」と驚きました。
	塾の仲間たちの生徒会活動への参加率が高いことにも影響を受け、これまでずっと生徒会活動には関わってきましたが、 <b>活動に対する意欲が高まり</b> 、また塾で築いた繋がりを活かして他県の学校の生徒会と交流することを考えるというように、 <b>視野を広く持てるようになった</b> と思います。

### ■お子様の感想で印象に残ったこと

帰宅した日、駅の改札口で迎えると、顔を見るなり涙目になり「 <b>凄かったわ、行ってよかった</b> 」と。本当にいい2週間だったのがわかりました。
とにかく楽しかった、たった2週間なのに学校の友人より深い絆を得られた、本当に行って良かった、参加費支援してくれた学校や県に感謝していると言ったこと。
「 <b>身の回りの事を自分でする事が大変だった。ありがとう。</b> 」と言った事。
クラスメイトとの関わり、アジア・ハイスクール・サミットにおいてのみんなで作あげたこと、 <b>担任の先生、講師の先生の話と止まりませんでした</b> 。同じ気持ちの仲間に出会えた事が今回の1番だったと思います。

将来についての夢もはっきり持っていない娘でしたが、いろいろな意味で、やる気が出て、**自分に出れることは何か考えたり**、今まで興味を示さなかった分野の仕事などにも目を向けるようになり、「仕事＝お金を稼ぐ事」から「**仕事＝社会に貢献できる事**」に考えが変わって来たようです。

祖母に「社会貢献できる人間になるためには、勉強が大事ということがわかった。**勉強は自分のためでもあるけど人の為にもするものなのかも**」と言った。

普段の時間の使い方を考えることができるようになり、**スマホのない生活で、一日のうち、もっと使える時間がある**と感じたようです。

「**皆、凄かったし、とても楽しかった!**」と、目を輝かせていました。そして、マハティール首相がとてもお若い…と、まだまだ勢力的に活動されている事に大変驚いておりました。お目にかかれるだけでも凄いですけど…。

「**こんなに短期間に泣いて怒って感動したことは今までない**」と話したことで、塾前には2週間もスマホを使えない状況に不安を覚えていた娘が「スマホを返されたとき、”この物体はいったい何?”って思ったくらいすごく違和感を感じた」と話したことです。

帰りの空港を出て「**行かせてくれて、ありがとう**」と、号泣しました。

「**こんなところでボヤボヤしている場合じゃない!**」との言葉と、アジア・ハイスクール・サミットの準備について「**学校なら1週間くらいかけてすることを3時間でできた。**」と参加しているメンバーたちのリーダー力とみんなが自然に役割分担して行う行動力がすごかったと話していたことです。

「**リーダー塾に参加させてくれてありがとう。自分に言い訳することなく、まず行動を起こすことが大切だと分かった。これから頑張ります**」という言葉で帰ってすぐに言ってくれたことです。

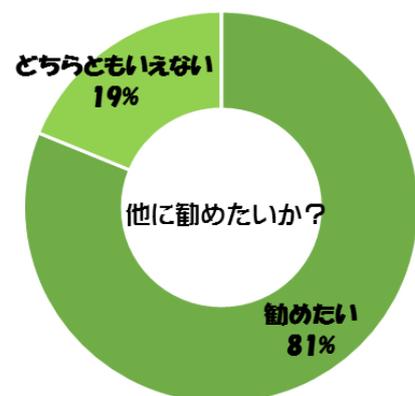
とても興奮状態で帰宅しまして、しばらくの間、リーダー塾の話題で持ちきりでした。

「**生まれて初めてこんなに泣いた!!学級委員をして本当に辛くなって泣いた夜もあったけど、最後は本当にみんなと別れたくなくて泣いた!!**」「**リーダー塾のみんなと通う学校だったら充実した学校で最高だ!**」と言っていて、正直なところ驚きました。

帰宅後すぐから、同年代でも学習のレベルや、都会と田舎の学習面での環境の違い、色々な考えや進路に関しての目標の話し、刺激を受けることが多かったと話し、**自分ももっと外の世界を見たい**と感想を言ってくれた。

**?** 他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	81%
どちらともいえない	19%
勧めたくない	0%



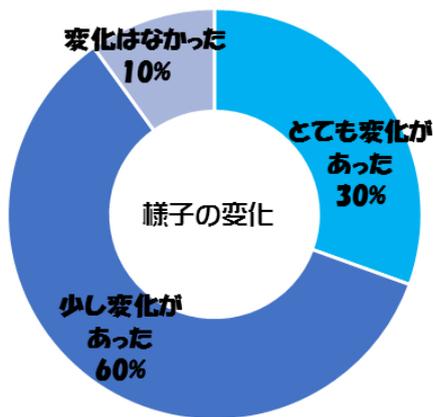
**■主な理由**

勧めたい	人生経験豊富な方のお話が聞けて、同じ高校生と2週間一緒に過ごせて切磋琢磨できるし、なかなかこういう経験はできないと思うので。
	机上の学習では得られない、コミュニケーション力や問題解決力、積極性など、 <b>社会人になる上で一番大切な力を引き出してくれる経験だ</b> とおもう。学校の夏休みの課題は何とかできるので、 <b>ぜひ参加を後押ししたい。</b>
	子供が <b>明確に強く、たくましく、いい方</b> に変わったから。また、さまざまな方や友人との関わりに刺激を受け、 <b>世界の見方がグンと広がった</b> から。
	普段では、関わるができない、たくさんの友人らと出会い、 <b>目を輝かせて、楽しかった。最高だったよ。</b> と言った <b>光景が忘れられません。</b> とても素敵な体験をさせていただきました。

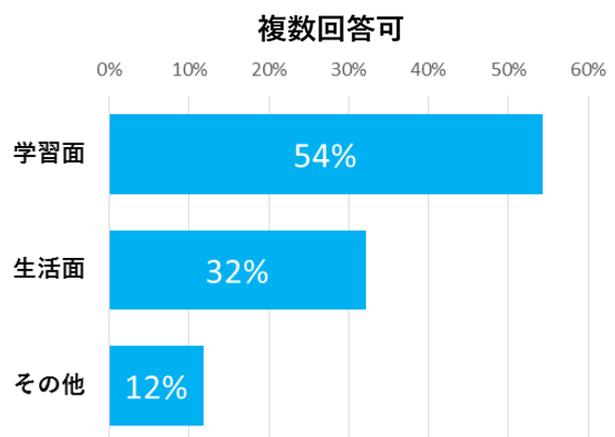
	<p>より良い日本。より良い世界の為に、考える事の出来る若者が増える事。<b>日本中、世界中に、励ましあえる仲間が作れる事。</b></p> <p>娘の話を通して、高校生はきっかけさえあれば溢れんばかりに純粋で大きなパワーを発揮できること、そして、今の混沌とした世界にも<b>明るい未来を期待できる</b>かもしれない、と思わせてくれたこと、これらすべてを<b>一人でも多くの高校生とその保護者の方々に実感してほしい</b>というのが理由です。</p> <p>自分より優れた人たちから受ける刺激は、確実に「<b>その子のスイッチを押す</b>」と我が子を見て感じられたから。</p> <p>金額を見て躊躇する方が多いかと思いますが、<b>参加した娘や塾後の娘の変化を感じた私が塾を勧めることも大きな役割</b>のように思います。</p> <p>高校生のこの時期、どうしても大学受験を意識した勉強だけになりがちですが、この時期だからこそ、外の世界と積極的なかわりを持ち、<b>多くの経験をしたり、自分自身を見つめなおしたり、将来に向けた夢を語りあったりする機会を持つ</b>ことは重要だと思います。</p> <p>ただ体験を積むだけの林間学校的なものでなく、しっかりと考えさせ、意見を持ち、相手に分かるように説明し、議論を展開するという、<b>将来に役立つスキルを集中的に訓練できる場であった</b>と思う。最近、内向的であり自分の意見を表明しない若者が多いように思われる中、こうした体験を高校生のうちにできることは<b>大変有意義である</b>。</p>
どちらとも いえない	<p><b>希望者全員が参加できるものではない</b>ので、場合によっては勧めにくい事項もある。</p> <p>一流の講師の方々が来られることからリーズナブルな料金だとは思いますが、<b>一般的な家庭からすると、なかなか出せない金額</b>だと思います。保護者の立場として「内容は良い」ことはお話はできますが、参加費を考えると積極的にすすめることは難しいです。</p> <p>それなりの覚悟をもって受講しなければ意味がないので。</p> <p>子供によって必要とする体験は異なる。</p>

## 学校の担任教員アンケート

？ 塾参加前と参加後で生徒の様子に変化がありましたか？



？ 「変化があった」と答えた方は、どのような点に変化がありましたか？



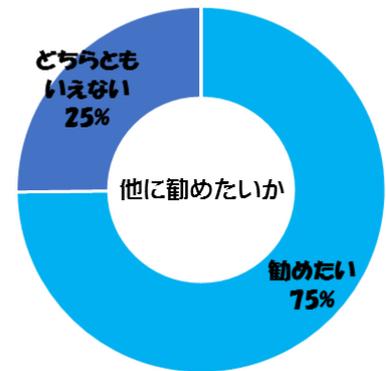
### ■主な内容

学習面	知識の重要性を認識した上で学習により取り組むようになった。
	授業へ積極的に取り組めるようになった。
	新聞をよく読むようになった。目的意識が明確になり、さらに勉強するようになった。
	学習面では特に意欲を向上させた。ホームステイなどにも積極的に参加しようとする気持ちをもった。
	学習面では、他国の生徒との英語でのコミュニケーションがうまくいかず、 <b>アウトプットを意識した学習</b> をするようになった。

	<p>学習面では難関大学を志望する友達ができたと、<b>夢を大きく持つようになった</b>と思います。また、参加以前からよく勉強する生徒でしたが、<b>学習に対し、より積極的に取り組むようになった</b>と感じます。</p> <p>自立的学習意欲（<b>与えられたもの以外を進んでやろうとする姿勢</b>）の高まりが見られた。</p> <p>刺激を受けたのか、<b>受験に向け意欲的に取り組むようになりました</b>。</p> <p>学校の学習だけでなく、<b>新たな事にチャレンジしていく姿勢</b>がかなり強くなった。</p> <p><b>苦手教科に積極的に取り組むようになった</b>。学習や進路に対するモチベーションが上がっている。</p> <p>他校の生徒と交流を持ったことが刺激となって、<b>夏休み前よりも学習意欲が高まっている</b>。</p> <p>学校生活での自由時間は、<b>読書や調べ学習などを積極的に</b>行い、多様な知識を多く取り入れようとする姿が見られるようになった。</p> <p>研修前は卒業後のなりたい自分を目標として努力していた。研修後は現段階での自身の課題を自ら考えて動いているように感じる。また、<b>情報の集め方が上手になったように感じる</b>（メインで調べることに加え、周辺の情報も集めるようになった。）</p>
生活面	<p>何事にも意欲が感じられるようになった。<b>行動の随所に「核」や「柱」のような物</b>を感じる人が多い。クラスの委員長を務めており、以前はへこたれてくじけることもあったが、<b>今では困難に立ち向かう場面が多い</b>。</p> <p>運動会で新たに取り入れた学年種目のルール確認について、公正に参加できるように<b>自主的に生徒に声掛けをし話し合いを行った</b>。</p> <p><b>より一層伸び伸びとクラスの前</b>に立ってリーダーとしての力を発揮している。進学先を海外の大学に決めたことも大きな変化だと思われる。</p> <p>文化祭発表など<b>人前で積極的に発表する姿</b>が見られるようになった。</p> <p>参加中に会った中国人の女性に憧れをもち、彼女のようになりたいと、<b>様々なことに意欲的に挑戦するようになりました</b>。</p> <p>あらゆる活動でリーダーを<b>影で支えている</b>。</p> <p>生徒会の顧問の先生方や、部活の先生方から彼女がとても<b>積極的に発言をするようになった</b>と聞いています。私自身、彼女が学校に捉われず、<b>学外の活動に参加している</b>のを聞いて彼女が大きく成長していると感じました。</p> <p>今まで以上に<b>人とのつながりを大切に</b>するようになったように感じます。授業をお休みしたクラスメイトに自分できれいにまとめたノートを見せてあげる等、<b>仲間を助ける行動</b>を進んでいます。</p> <p>物事を<b>多角的に見られるようになった</b>。自発的行動が増えた。</p> <p><b>積極性が目立つようになった</b>。（文化祭の舞台発表で自ら主役をやりたいと申し出るなど）</p>
その他	<p>国外での経験にややもすると闇雲に突き進んでいましたが、<b>芯となるようなものが出来たように</b>思います。</p> <p>今までは自分のレベルに合わせて周りに指示をしていた面が多かったが、<b>相手のことを考えて指示をしたり、気遣いしたりと、相手を中心に行動することが増えたように</b>感じます。</p> <p>クラスのHR役員（総務）をしていたが、学級より視野を広げ、学校全体を見まわし、<b>生徒一人一人の役に立ちたいと生徒会長に立候補した</b>。選挙後も副会長として学校運営に寄与することを決め、活動をはじめた。</p> <p>「小学校の先生になりたい」と以前から言っていたが、塾後は「<b>どういう小学校の先生になったのか</b>」が以前よりもはっきりとした様子である。</p> <p>周囲に決められたものではなく、<b>自分なりに進む進路を考えようとしている点</b>です。</p> <p>リーダー養成塾で学んだ積極性、コミュニケーション力、協働力などを生かしていく場を創りたかったので、<b>学生団体を創設し、代表を務め、参加者が交流できるように活動している</b>。</p>

？ 他の先生または高校生に参加を勧めたいと思われませんか？

勧めたい	75%
どちらともいえない	25%
勧めたくない	0%



■主な理由

勧めたい	日常を離れて貴重な体験ができ、 <b>同世代の人たちからの刺激を得られる</b> ため。
	学校の小さなコミュニティだけでなく全国各地の方々と話す機会は、 <b>社会人として必要な能力を成長させてくれる</b> と思うからです。
	様々な人と接し、活動することで視野が広がり、 <b>活動範囲を広げる機会を得られる</b> から
	様々な分野の専門的な方からの話を直接聞くことができ、生徒自身も日本や世界が抱えている問題について、 <b>主体的に考えるきっかけ</b> になるから。
	小規模校のため、 <b>他校の生徒と交流できる機会を増やしたい</b> から。また、地方で一流の講師の講義を受ける機会が少ないから。
	できるだけ校外活動をさせたい。 <b>本物の学びは学校の外にある</b> 。
	田舎の高校ではTOPでも自信につながらないし、変な自信を持っていても役に立たないので <b>大海で多くの見聞を広めさせたい</b> 。
	全国の意識の高い生徒や海外の学生との交流、一流の講師陣による講演等、これ以上ないハイレベルな環境で刺激を受け、 <b>貴重な体験をさせられる</b> ため、またAOの実績づくり。
	生き生きとした笑顔で、興奮させられる雰囲気伝わってきて、必ず <b>生徒に刺激を与え、成長してくれる機会</b> であると思われるから。
	学校の先生だけでなく、 <b>様々な「大人」と接するのは有益である</b> と思います。
	今後、日本の若い世代に訪れるであろう様々な社会問題に対して、 <b>解決に向けた取組を意欲的に行ってもらいたい</b> 。また、世界の動静を見据えた人物に育ってもらいたいとも考えているから。
	<b>リーダー塾には教育の本質がある</b> と思います。特に内側からやる気を引き出す教育が実践されていることに敬服します。また、明治維新の時の若き獅子たちのように、社会を良くしようという気概あふれる高校生同士の学びあいなど、 <b>視野を広くするとともに、必ず実現できる設計図を作成させ、成就させようとする教育</b> が行われています。
	学校という狭い社会では <b>気づくことのできない、様々な事を気づく事ができる</b> 。同じ地域の似通った人々の集団の中では感じることのできない刺激を受け、視野を広げさせたい。
広い視野を持ち、 <b>多くの人役に立ちたい</b> と考え、行動できる生徒になれることが一番の魅力であり、参加することで全国的な友人が作れ、人間ネットワークを構築できるなど、 <b>卒業後にも大きな宝が作れること、他数え上げられないほどプラス面がある</b> と考えます。	
どちらともいえない	今回参加した生徒は積極的に研修に望んでいたのだが、そうでない生徒だと <b>研修をどのように過ごすか不安</b> 。
	<b>自己負担額が大きいこと、書類の作成が大変であること、先生方の協力が得られにくいこと</b> が懸念されます。
	全国規模で様々な同世代と思いを交わすことは大変貴重な体験だと考えます。人間としての強さや寛さを身に着けることの出来る素晴らしい環境であるとも考えます。但し、 <b>参加者自身に求める姿勢が必要である</b> 為、どちらとも言えません。

### 資料③ 塾生概要

#### 第15回日本の次世代リーダー養成塾 塾生概要

塾生総数 173名 (男子62名・女子111名)  
27都道府県とアメリカ・ベトナム・台湾

##### ○参画県推薦枠 112名 (男子39名・女子73名)

1	北海道	9名	(男子 3名)	(女子 6名)
2	青森県	10名	(男子 4名)	(女子 6名)
3	岩手県	10名	(男子 7名)	(女子 3名)
4	静岡県	10名	(男子 0名)	(女子 10名)
5	岐阜県	10名	(男子 5名)	(女子 5名)
6	和歌山県	11名	(男子 4名)	(女子 7名)
7	愛媛県	12名	(男子 5名)	(女子 7名)
8	福岡県	22名	(男子 8名)	(女子 14名)
9	宗像市	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
10	佐賀県	14名	(男子 2名)	(女子 12名)
11	うるま市	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
計		112名	(男子 39名)	(女子 73名)

##### ○一般公募枠 61名 (男子23名・女子38名)

1	群馬県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
2	埼玉県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
3	千葉県	3名	(男子 1名)	(女子 2名)
4	東京都	10名	(男子 3名)	(女子 7名)
5	神奈川県	4名	(男子 1名)	(女子 3名)
6	静岡県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
7	愛知県	3名	(男子 2名)	(女子 1名)
8	三重県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
9	京都府	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
10	大阪府	6名	(男子 1名)	(女子 5名)
11	兵庫県	5名	(男子 3名)	(女子 2名)
12	奈良県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
13	岡山県	2名	(男子 0名)	(女子 2名)
14	広島県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
15	香川県	3名	(男子 2名)	(女子 1名)
16	福岡県	7名	(男子 3名)	(女子 4名)
17	佐賀県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
18	長崎県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
19	熊本県	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
20	大分県	2名	(男子 2名)	(女子 0名)
21	沖縄県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
22	アメリカ	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
23	ベトナム	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
24	台湾	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
計		61名	(男子 23名)	(女子 38名)

資料④ 塾生高校一覧

第15回日本の次世代リーダー養成塾 塾生学校一覧

27都道府県とアメリカ・ベトナム・台湾、129校

学校所在地	学校名	学校所在地	学校名	
北海道	北海道旭川商業高等学校	兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校	
	私立遺愛女子高等学校		兵庫県立星陵高等学校	
	北海道札幌国際情報高等学校		兵庫県立北条高等学校	
	私立札幌新陽高等学校		私立三田学園高等学校	
	北海道登別明日中等教育学校	奈良県	私立西大和学園高等学校	
	北海道夕張高等学校		私立開智高等学校	
青森県	私立立命館慶祥高等学校	和歌山県	和歌山県立桐蔭高等学校	
	私立青森明の星高等学校		私立智辯学園和歌山高等学校	
	青森県立三本木高等学校		私立和歌山信愛高等学校	
	私立松風塾高等学校	岡山県	岡山県立岡山一宮高等学校	
	青森県立田名部高等学校		岡山県立倉敷天城高等学校	
	私立八戸ウルスラ学院高等学校	広島県	私立広島三育学院高等学校	
私立八戸工業大学第二高等学校	香川県	私立大手前高松高等学校		
岩手県		岩手県立岩泉高等学校	私立香川誠陵高等学校	
		岩手県立久慈高等学校	香川県立高松桜井高等学校	
	岩手県立高田高等学校	愛媛県	愛媛県立今治西高等学校	
	岩手県立遠野高等学校		愛媛県立今治南高等学校	
	岩手県立花北青雲高等学校		愛媛県立大洲高等学校	
	岩手県立花巻北高等学校		愛媛県立西条高等学校	
	岩手県立盛岡第一高等学校		愛媛県立松山北高等学校	
群馬県	私立共愛学園高等学校		愛媛県立松山西中等教育学校	
	埼玉県		私立浦和明の星女子高等学校	愛媛県立松山東高等学校
千葉県			私立市川学園市川高等学校	愛媛県立三瓶高等学校
	千葉県立柏高等学校	愛媛県立三崎高等学校		
	私立麗澤高等学校	愛媛県立八幡浜高等学校		
東京都	私立郁文館高等学校	愛媛県立弓削高等学校		
	私立国際基督教大学高等学校	福岡県	福岡県立朝倉高等学校	
	私立聖心女子学院高等科		福岡県立育徳館高等学校	
	国立東京学芸大学附属高等学校		福岡県立嘉穂高等学校	
	国立東京学芸大学附属国際中等教育学校		福岡県立輝翔館中等教育学校	
	私立東京都市大学付属高等学校		私立九州産業大学付属九州高等学校	
	私立東邦音楽大学附属東邦高等学校		福岡県立玄洋高等学校	
	私立豊島岡女子学園高等学校		福岡県立山門高等学校	
	東京都立富士高等学校		福岡県立城南高等学校	
私立明治学院東村山高等学校	私立西南学院高等学校			
神奈川県	私立洗足学園高等学校		福岡県立筑紫丘高等学校	
	私立桐光学園高等学校		私立筑紫女子学園高等学校	
	私立フェリス女学院高等学校		私立東海大学付属福岡高等学校	
岐阜県	私立鶯谷高等学校		福岡県立戸畑高等学校	
	岐阜県立大垣桜高等学校		私立中村学園女子高等学校	
	岐阜県立大垣東高等学校	私立福岡海星女子学院高等学校		
	岐阜県立岐阜高等学校	私立福岡雙葉高等学校		
	私立岐阜東高等学校	福岡県立宗像高等学校		
	私立城南高等学校	私立明光学園高等学校		
	私立高山西高等学校	私立八女学院高等学校		
	岐阜県立武義高等学校	福岡県立八女高等学校		
静岡県	静岡県立科学技術高等学校	私立リンドンホールスクール中教育学部		
	私立静岡学園高等学校	佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校	
	静岡県立清水東高等学校		佐賀県立敵木高等学校	
	静岡県立清水南高等学校		私立弘学館高等学校	
	静岡市立高等学校		私立佐賀学園高等学校成穎高等部	
	私立常葉大学附属菊川高等学校		佐賀県立多久高等学校	
	私立常葉大学附属橘高等学校		佐賀県立武雄高等学校	
	静岡県立沼津東高等学校		佐賀県立致遠館高等学校	
	静岡県立浜松西高等学校		佐賀県立三養基高等学校	
私立不二聖心女子学院高等学校	私立早稲田佐賀高等学校			
愛知県	私立海陽中等教育学校	長崎県	私立精道三川台高等学校	
	私立名古屋国際高等学校	熊本県	熊本県立宇土高等学校	
三重県	私立南山高等学校女子部	大分県	大分県立中津南高等学校	
	私立四日市リノール学院高等学校	沖縄県	沖縄県立向陽高等学校	
京都府	私立同志社国際高等学校		沖縄県立与勝高等学校	
	大阪府	国立大阪教育大学附属高等学校池田校舎	ベトナム	British International School Hanoi
		私立関西学院千里国際高等部	アメリカ	私立慶應義塾ニューヨーク学院高等部
		私立四天王寺高等学校	台湾	私立淡江高級中学校
私立清風高等学校				

資料⑤ アジア奨学生概要

第15回日本の次世代リーダー養成塾 アジア奨学生概要

○奨学生総数11名 (男: 4名 女7名)

1	中国	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
2	マレーシア	4名	(男子 2名)	(女子 2名)
3	モンゴル	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
4	韓国	2名	(男子 2名)	(女子 0名)
5	タイ	1名	(男子 0名)	(女子 1名)

○奨学生学校一覧 (5ヶ国 7校)

中国	成都外国語学校
	石家庄外国語学校
マレーシア	帝京マレーシア日本語学院
モンゴル	新モンゴル小中高一貫学校
韓国	開成高等学校
	釜一外国語高等学校
タイ	THE PRINCE ROYAL'S COLLEGE

## 資料⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任（前半：7月26日～8月1日、後半8月1日～8月8日）

クラス	期間	氏名	会社名
1組	前半	岡野 圭介	株式会社ぐるなび
	後半	佐伯 悟	佐賀県
2組	前半	北村 亮人	株式会社ふくや
	後半	山本 大輔	学校法人麻生塾 麻生情報ビジネス専門学校
3組	前半	中村 夏希	ヤマト運輸株式会社
	後半	市川 智也	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
4組	前半	重岡 覚	株式会社麻生
	後半	片村 文崇	株式会社特殊高所技術
5組	前半	中原 輝	株式会社正興電機製作所
	後半	坂本 亨	株式会社NTTドコモ
6組	前半	富永 恭世	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
	後半	吉田 綾花	株式会社南福岡自動車学校
7組	前半	小寺 藍	株式会社ミズ
	後半	佐伯 智洋	三井物産株式会社
8組	前半	蓑田 大輔	九州電力株式会社
	後半	能満 有加	三井住友海上火災保険株式会社

■学生リーダー

浅井 拓人	広島大学大学院
上田 剛義	大阪歯科大学（10期生）
数見 智也	慶應義塾大学大学院
亀井 菜々子	東京学芸大学（10期生）
後藤 祥太	九州工業大学大学院（8期生）
工藤 沙季	早稲田大学
坂本 文香	金城学院大学（10期生）
志和 智広	関西学院大学
鈴木 崇大	東京工業大学／清華大学（7期生）
高橋 はな	東京外国語大学（12期生）
田中 魁人	京都教育大学（10期生）
時津 美弓	早稲田大学（11期生）
三上 開聖	高崎経済大学
ムハンマド アクマル	宮崎大学（13期生）
安田 莉那	西南学院大学（9期生）

開催県・市	赤尾 浩太郎	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	稲田 清美	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画主幹
	木山 大輝	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主任主事
	福井 香月	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課長
	山口 光史	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課副課長
	嶺川 政行	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当係長
	山田 晃也	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当副主査
	塔野 賢一	宗像市 子どもグローバル人材育成担当部長
	早川 靖彦	宗像市 教育子ども部子ども育成課長
	船越 健樹	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係長
	内野 由太	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係主事
参画県	大西 千都	北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年グループ主査
	市原 由博	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主事
	浅沼 佳子	岩手県 教育委員会事務局教育企画室主任主査
	松下 直由	静岡県 教育委員会高校教育課教育主幹
	伊藤 大介	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主査
	井田 恵	和歌山県 教育庁学校教育局県立学校教育課指導主事
	川井 由佳	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	伊藝 智明	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係主事
グローバル アリーナ	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
	石田 達也	株式会社グローバルアリーナ
	森田 智	株式会社グローバルアリーナ
企画委員	石坂 広孝	三菱商事株式会社 シンガポール支店 業務部（事業開発・市場調査）部長
	大嶽 一省	I N・C O M株式会社 代表取締役エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
	小林 浩	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長
	中嶋 紀子	株式会社 エム・シー・コミュニケーションズ CSR 事業部 国際貢献チーム
	山根 正司	三井物産株式会社 ビジネス推進部長
	松浦 克巳	広島国税局長

(短期お手伝い) 事務局サポート	山根 有紀子	
	栗林 佐也子	久留米大学 10期卒業生
	松尾 桜子	私立明治学園高等学園 14期卒業生
	本多 賢一	福岡県立宗像高等学校 14期卒業生
	沖永 光佑	北九州市立大学 11期卒業生
事務局	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	相戸 和歌子	日本の次世代リーダー養成塾 副事務局長
	築地 雄太郎	日本の次世代リーダー養成塾 プログラム部長
	松尾 駿	日本の次世代リーダー養成塾 総務・経理部長
	濱崎 有加里	日本の次世代リーダー養成塾 1期卒業生

## ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)

### ■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生  
学校法人麻生塾麻生専門学校グループ  
株式会社インスパイア  
AGC 株式会社  
株式会社エヌケービー  
株式会社 NTT ドコモ  
株式会社エフティ資生堂  
公益財団法人オリックス宮内財団  
九州電力株式会社  
九州旅客鉄道株式会社  
株式会社 QTnet  
株式会社九電工  
株式会社ぐるなび  
国際ロータリー第 2700 地区  
西部ガス株式会社  
株式会社サニックス  
医療法人社団静英会あしかわ耳鼻咽喉科  
株式会社伸良商事  
株式会社正興電機製作所  
株式会社全教研  
株式会社玉屋  
株式会社テノ. ホールディングス  
株式会社戸上電機製作所  
株式会社特殊高所技術  
株式会社トクスイコーポレーション  
中村ブレイス株式会社  
株式会社西日本シティ銀行  
西日本鉄道株式会社  
株式会社日本政策投資銀行  
株式会社ハッピーズ  
久光製薬株式会社  
株式会社日立製作所  
株式会社福岡銀行  
株式会社福住  
株式会社ふくや  
フンドーキン醤油株式会社  
株式会社ミズ  
三井松島産業株式会社  
三菱商事株式会社  
株式会社三菱UFJ銀行  
株式会社南福岡自動車学校  
モトコ リソーシス株式会社  
株式会社安川電機  
YASKAWA 未来クラブ  
ヤマトホールディングス株式会社

### ■ご寄付いただいた皆様

相戸 太  
相戸 和歌子  
青山 太輔  
鹿子生 友香  
酒井 陽菜  
坂下 和也  
竹田 信  
田中 邦裕  
永松 資紹

### ■ご協力いただいた皆様

IN・COM株式会社  
開成高等学校  
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾  
株式会社グローバルアリーナ  
在タイ日本国大使館  
在中華人民共和国日本大使館  
在福岡大韓民国総領事館  
佐賀県波戸岬少年自然の家  
佐賀県立名護屋城博物館  
新モンゴル小中高一貫学校  
成都外国語学校  
石家庄外国語学校  
株式会社ディーシーティーエンタテインメント  
帝京マレーシア日本語学校  
幕末維新記念館  
釜一外国語学校  
THE PRINCE ROYAL'S COLLEGE  
株式会社ホテル日航福岡  
三井住友海上火災保険株式会社  
三井物産株式会社  
宗像市総務部地域安全課  
宗像大社  
ヤマト運輸株式会社  
山本美千子  
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ  
学校法人立命館立命館アジア太平洋大学

### ■助成いただいた皆様

独立行政法人国際交流基金  
公益財団法人福岡県市町村振興協会



Japan Future Leaders School  
日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号  
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp  
<http://leaderjuku.jp/>